

セス元來之ヲ買フ者ハ其從犯トシテ罰スルモ可ナリ然ルニ買者ニ對シテ罪ナキハ畢竟賣者アルカ爲メ偶然買フ者アルニ至ル故ニ立法者ハ豫メ其根源ヲ防キタルモノナリ然レモ我國ニ於テハ買者ニ對スルモ之レカ制裁アルモノアリ彼ノ近來世上ニ盛ンナリシ西班牙無盡ノ如キハ己ニ其害波及シ每期殆ト五六万圓ノ金銀貨ヲ外出セリト故ニ其之ヲ買フ者ヲ禁シタリ  
佛國ニモ此例アリ嘗テ伊太利ニ於テ大無盡ヲ興行シ爲メニ佛國ノ貨幣ハ伊太利ニ向テ外出セリ因テ佛政府ハ自ラ富ヲ爲シ人民ノ富ヲ爲ストチ禁シテ盛ニ之ト競争ヲ始メタリシカ千七百八十九年大革命以後之ヲ廢シ現今ハ政府ノ許可ヲ得サレハ富ヲ爲スト能ハサルモノトセリ故ニ貧民救助等ノ如キ有益ノ事ニ付テハ許可セリ是レ蓋シ良法ナリ

第二百六十三條 神祠佛堂墓所其他禮拜所ニ對シ公

然不敬ノ所爲アル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

若シ說教又ハ禮拜ヲ妨害シタル者ハ四圓以上四十

圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ノ罪ヲ規定スル所以ノモノハ元來神佛ニ對シテ敬ス可キ者ナリ然ルチ自分ノ尊敬セサル故チ以テ他人ノ尊敬ヲ妨害スルノ惡行ヲ爲シ信仰者ヲ害スルチ以テ之ヲ罰ス此罪ハ重ニ道德ヲ害スルモノナリ

此ニ云フ對シテノ文字穩當ナラサルカ如シ第百十七條ノ天皇三后皇太子ニ對シ云々ノ文法ヨリ解釋シ來ラハ或ハ其現場ニアラサル

(第二百六十三條)



他ノ神祠佛堂ニ對シ不敬ノ所爲アルモ罪トセサルヲ得サルカ如シト雖モ決シテ然ラス其場所ニ於テ不敬ノ所爲アルヲ要スルナリ故ニ本條ノ對シノ文字ハ於テノ意味ニ解セサル可ラス不敬トハ獨リ所爲ノミナラス言語ヲ以テ罵詈スルモ亦不敬ナリ  
第二項ニ至リ禮拜トアリ此語狹キニ似タリ葬式ノ如キハ直チニ禮拜ト稱スルヲ得ヘキ平故ニ禮式トセハ如何ン

(第五十二回)

第七章 死屍ヲ毀棄シ及ヒ墳墓ヲ發掘スル罪

本章ノ罪ハ特リ我刑法ノミナラス各國刑律モ皆之ヲ規定セリ死体ハ一個ノ有形物ナレバ其之ヲ敬重ス可キハ文明國タルノ習俗ナルニ之ニ對シテ無法ノ所行ヲナセハ其人ノ榮譽上ニ對メ不敬ナルノ

ミナラス死者ノ親族ニ汚辱ヲ加フルモノト云フ可シ故ニ之ヲ罰スルナリ

第二百六十四條 埋葬ス可キ死屍ヲ毀棄シタル者ハ

一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓

以下ノ罰金ヲ附如ス

埋葬スヘキ死屍トアリ然ラハ埋葬スヘカラスアル乎ノ疑念ナキコアラスト雖モ是レ別ニ意義アリテ然ルニ非ラス次條ニ照應シ此語字ヲ加ヘタルモノニシテ次條ハ已ニ埋葬シタル死屍ヲ云ヒ本條ハ將ニ埋葬セントスル死屍ヲ云フ故ニ只死屍ト見做シテ可ナリ毀棄トハ毀ツト棄ルトトノ二義ヲ包含セル者ト解セサル可ラス

(第二百六十四條)



此ニ種々ノ疑問アリ例ヘハ河中ニ人体ノ漂流スルヲ見一旦之ヲ引揚ケタルニ死屍ナルヲ以テ復タ河水ニ投棄セリ又往來ニ斃死人アリ扶助シテ自家ニ歸リ治療ヲ施シタルニ到底回生ノ見込ナキヲ以テ復タ之ヲ舊處ニ棄テタルキ或ハ又往來ノ死屍ヲ他所ニ移シタル如キ場合ニ於テハ毀棄ト云フヲ得ヘキ乎否ナ本條ノ問フヘキ所ニアラス本條ノ毀棄トハ埋葬スヘキノ責任アル者ノ之ヲ毀棄シタルトニシテ已ニ棄テアル所ノ者ニ扶助ヲ加ヘ其効ナキニ因リ復タ棄テタル如キハ本條ノ罪ニ非ス却テ一旦手ヲ盡シタルハ仁者ト云フヘキカ如シ豈之レカ爲メ罪ヲ得ルノ理アラシヤ但毀ツトハ假令埋葬ノ責任ナキ者ノ爲シタルモ罪アリトス棄ツルトニ付テハ埋葬ノ責任アル者ノ爲シタル時ニ非ラサレハ罪トナラス故ニ棄ツルトト毀ツトトハ兩義ニ別タサル可ラサルナリ

第二百六十五條 墳墓ヲ發掘シテ棺槨又ハ死屍ヲ見

ハシタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ死屍ヲ毀棄シタル者ハ三月以上三年以下ノ重

禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

既ニ埋葬シ終リタル後ニ於テ墳墓ヲ發掘シテ棺槨又ハ死屍ヲ見ハスハ死者ヲ耻カシメ且ツ死者ノ住所ヲ侵スヲ以テ之ヲ重フセリ若シ發掘スルモ死屍棺槨ヲ見ハサ、ルキハ未遂犯ヲ以テ論スヘキナリ本條ハ前條ト同ク有意犯ナリ然レモ惡意アルヲ要セス故ニ墳墓ノ場所ノ惡キカ爲メ之ヲ他ニ改葬セント欲シテ發掘スルカ如キハ惡意アルニ非サレモ既ニ發掘スルノ意アルヲ以テ本條ニ問フ可キナ

(第二百六十五條)



リ若シ之ヲ改葬セント欲セハ必ス官訴ヲ得サル可カラサルナリ

第二百六十六條 此章ニ記載シタル罪ヲ犯サントシ

テ未ダ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

本條ハ別ニ講ス可キヲナシ

第八章 商業及ヒ農工ノ業ヲ妨害スル罪

本章ノ罪經濟上ニ關係ヲ及ホスト大ニシテ夫ノ商業上ノ競争ノ如キ一步ヲ誤レハ或ハ偽計トナリ或ハ威力ノ所爲トナル實ニ其間變ヲ容レス故ニ本章ノ罪ヲ判定スル者注意セサル可ラス偽計威力ノ點ニ付テハ容易ニ判定シ難ク漫ニ之ヲ罰セハ反テ社會ノ商工業ヲ害シ而シテ商工業上自由ノ競争ヲ妨害シ爲ニ其競争力ヲ薄弱ナラシメ竟ニ一國ノ殖産ヲ衰頽スル如キ反對ノ結果ヲ生スルニ至ル然

レモ詐欺ノ所爲ヲ以テ財ヲ取ル者アラハ自由主義ト保護主義トヲ問ハス苟クモ商業安ヲ維持セントスレハ之ヲ罰セサル可ラス但其虛言ハ之ヲ罰セス虛言ハ社會ヲ害スルモノナレモ若シ之ヲ罰セハ天下ノ人皆罪人タラサルヲ得サルカ如キヲ生スルニ至ルヘシ何ントナレハ人皆多少ノ虛言ナキ者ナケレハナリ例ヘハ今某町ニ失火アリト放言虛詞ヲ爲シ人ヲ欺キタル場合ノ如キ刑法上ニ問フ可キ程ノ虛言ニアラス夫レ此虛言ヲナスハ固ヨリ不良ノコトナリト雖モ之レカ爲メニ欺カル、者モ亦完具ノ人ニアラス然レハ試ミニ虛言ヲ罰セントスルモ其虛言偽詞ノ區域如何ニ至テハ之レカ定解ナク道德ニ背ク甚クシク社會ヲ害スル大ナルキニ於テ之ヲ罰スト云フカ如キ漠然タルコトニシテ實ニ其明解ニ苦シムニ至ラン

第二百六十七條 偽計又ハ威力ヲ以テ殺類其他衆人

(第二百六十六條)(第二百六十七條)



ノ需用ニ缺ク可ラサル食用物ノ賣買ヲ妨害シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
前項ニ記載シタル以外ノ物品ノ賣買ヲ妨害シタル者ハ一等ヲ減ス

偽計又ハ威力ヲ以テ云々偽計トハ詐僞ノ計略ヲ云ヒ威力トハ威勢或ハ腕力ト云フノ意ナリ衆人ノ需用ニ缺クヘカラサル食用物トハ如何ナルモノヲ指シテ云フ乎其解ニ苦マサルヲ得ス米穀ノ如キハ論ヲ待タスト雖モ魚類菜類ノ如キモ亦時トシテ缺ク可ラサル物トナルコアリ而シテ需用ニ缺クヘカラサル食用物ニ對シテ妨害ヲ加フル者其刑重キハ何ソヤ蓋シ生活ニ必要ナルカ故ナリ然レハ薪炭

ノ如キハ如何食用物トアルヲ以テ此ニ入ラスト雖モ獨リ米穀アルモ薪炭ナキモハ食用スルヲ得ス然ルニ薪炭ノコトヲ規定セサルハ蓋シ本條ハ最モ緊急ノモノ、ミテ目的トセシ故ナラン

偽計威力ヲ以テ食用物ノ賣買ヲ妨害シタル者トハ例ハ此物品ハ價ノ下落シ損失ヲ招ク故買フ可ラスト云ヒ或ハ此物品ハ政府ノ禁制物ナリ買フ可ラスト云フカ如キハ偽計ヲ以テ妨害シタル者ト云フヘキカ又威力ヲ以テトハ他人ノ物品ヲ買ハントセハ毆打スルト云フカ如キ少シク脅迫ノ性質ヲ含ミタル所爲ノ如キヲ云フカ是非ハ妨害ナリト雖モ本條ハ如斯小事件ニ付テ規定シタルモノニ非ラス大ナル賣買ヲ爲スルニ於テ問フヘキノミ然ルニ法律ハ單ニ賣買トノミアルヲ以テ或ハ小賣買ノモ本條ニ問フヘキカ如シト雖モ小賣買ヲ妨害シタルコトモ此ニ問フモノトセハ實ニ際涯ナキ

(第二百六十七條)

三百九十五



ニ至ル可シ故ニ本條ハ大賣買ヲ妨害シタル件ノミト解セサル可ラ  
ス

草案第二百九十八條ヲミレハ暴行脅迫ヲ以テ穀類其他衆人ノ需用  
ニ缺ク可ラサル食用物及ヒ膏油薪炭木材ノ運輸賣買ヲ妨害シタル  
者トアリ又佛文原案ニハ輸出入運搬賣買ノ三者ヲ定メタリ此三者  
ノ如キハ問屋等ノ爲ス所ニシテ小事ニ非ラス是ヲ以テ考フレハ其  
關スル事ノ大ナルヤ明カナリ然レハ何故ニ小事件ヲ措テ大ナル事  
ノミヲ罰スル乎例ヘハ今他國ハ米穀不穰其價大ニ騰貴スト偽計セ  
ハ東京ノ問屋ハ利ヲ射ント欲シ米穀ヲ他邦ニ輸出スルヲ以テ東京  
ハ爲メニ物價ニ大變動ヲ來シ其近傍ノ人民害ヲ被フル豈少々ナラ  
ンヤ故ニ立法者豫メ慮リテ之ヲ罰スルノ法ヲ規定シタルモノナリ  
然ルニ本條ノ文章ヲ以テセハ大ナル賣買ノミナラス小賣買ト雖モ

罰スルカ如ク實ニ立法者ノ精神那邊ニ存スルカ明了ナラサルヲ以  
テ斷言シ能ハスト雖モ蓋シ夫ノ通常人カ米屋ヨリ米ヲ買ハントス  
ルヲ妨ケタレハトテ本條ノ問フ所ニアラサルナリ

第二百六十八條 偽計又ハ威力ヲ以テ糶賣又ハ入札  
ヲ妨害シタル者ハ十五日以上三月以下ノ重禁錮ニ  
處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附如ス

糶賣トハ動産不動産ヲ公賣スルコトニシテ此等ノ物品ハ所有權ノミ  
ナラス賃貸權使用權ニ至ル迄皆糶賣スルヲ得糶賣ノ方法ハ投票ヲ  
入レ其最高點者ニ落札シテ賣却スルモノナリ又此ニ入札トアルハ  
請負ノ事ヲ指シタル者ニシテ其最下點者ニ落札セシムルヲ云フナ  
リ

(第二百六十八條)



偽計又ハ威力ヲ以テ糶賣又ハ入札ヲ妨害スルトハ即チ他人ヲ妨害シテ已レ自カラ其利益ヲ壟斷セントスルノ目的ヲ懷キ他人入札セントセハ毆打スルト云ヒ或ハ放火スルト云フカ如キハ威力ノ妨害ナリ又入札場ニ集マリ互ニ相謀テ下直ニ入札シタル如キハ偽計ノ妨害ナリ或ハ已ニ入札ハ終レリト云ヒ他人ヲシテ入札ヲ爲サシメサル如キモ亦偽計ナリ

第二百六十九條 偽計又ハ威力ヲ以テ農工ノ業ヲ妨害シタル者ハ亦前條ニ同シ

本條ニ至テハ倍立法者ノ精神何レニ存スル乎予ノ不明ナル之ヲ探知スルヲ得ズ茲ニ廣大ナル製造所ヲ起シ盛ンニ物品ヲ製造セントスルニ際シ此物品ハ既ニ横濱港ニ輸入セリ今之ヲ製造スルハ不利ナリト言ヒ之ヲ止メシメタリ是レ之ヲ罰スヘキ乎又傘ヲ製造セン

トスル者アリ汝若シ之ヲ製造セハ汝ノ家ヲ破毀スヘシト云ヒ遂ニ其製造ヲ廢セシメタリ之ヲ罰スヘキ乎又茲ニ田作ヲ爲ス者アリ今汝ノ家ヨリ發火セリ速ニ歸テ防禦セヨト云ヒ耕耘ヲ妨ケタリ是レ之ヲ罰スヘキ乎夫レ如斯虛言偽詞脅迫ヲ以テ之ヲ止メシムルモノ固ヨリ其所爲善ナラスト雖亦欺カレ或ハ威サレタル者ニ於テモ不注意タルノ點ナキヲ免レヌ惟フニ此等ノ所爲元ヨリ罪タルノ元質ヲ構造セス故ニ本條ノ問フ所ニアラサルナリ然レハ本條ノ問フ所如何蓋シ本條モ亦前條ノ如ク解セサル可カラヌ

第二百七十條 農工ノ雇人其雇賃ヲ増サシメ又ハ農

工業ノ景況ヲ變セシムル爲メ雇主及ヒ他ノ雇人ニ對シ偽計威力ヲ以テ妨害ヲ爲シタル者ハ一月以上

(第二百六十九條)(第二百七十條)



六月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

本條及次條ニ至テハ充分ノ解ヲ得スト雖モ試ニ之レカ説明ヲ下サハ農工業ノ景況ヲ變スルトハ其業ヲ盛大ナラシムルヲ云フカ是レ賞ス可クシテ罰ス可キノモニアラス衰頽セシムルノ意カ是レ刑法上罪トシ問フヘキノ事ニアラス又偽計威力ヲ以テ妨害スルトハ何ニ對シテ妨害ヲ興フルカ若シ人ニ對シテ妨害スル時ハ暴行脅迫ノ罪ヲ以テ之ヲ罰ス何ソ本條ヲ要センヤ蓋シ恐クハ文章ノ不足ナル所アルカ如シ

佛國革命前ニ於テ職工ニハ必ス親分ナルモノアリテ各其職業上ノ範圍ヲ定メ其子分ハ妄リニ他ノ親分ノ管轄範圍内ヲ侵シテ働クヲ得サリシカ革命ノ際此弊風ノ跡ヲ拂フニ至レリト雖モ一大製造

場ノ如キハ夥多ノ職工ヲ使役スルニ依リ其職工等雇賃ヲ増サシメ  
ンカ爲メ數千人相約シテ一時ニ其業ヲ休ミ就職セサル事アリ夫レ  
如斯ク其職ヲ休止スル時ハ製造ノ業動カス殖産ハ衰微シテ商業上  
ニ澁滯ヲ來シ遂ニ社會ノ必要ヲ欠クノ大害ヲ被フルニ至ル故ニ雇  
人通謀シテ休業スルモ之ヲ罰セリ

世ノ闡明ニ赴クニ從ヒ天下輿論ノ期スル所競争ノ自由ヲ重シ雇  
人職工ノ如キ各自ニ休業シ又ハ働クモ自由ニシテ敢テ禁セサル所  
トナレリ又賃銀ノ高低ノ如キハ需用供給ノ自然ニ任セリ若シ強テ  
之ヲ禁シ之ヲ罰セハ却テ競争上ニ妨害ヲ來スヲ以テ其法律ヲ廢止  
セリ然レモ己レ自カラ休業センカ爲メ暴行脅迫ヲ以テ強テ他人ヲ  
休業セシムルカ如キ時ハ之ヲ罰スヘキモノトシテ而シテ今日ハ法律  
ヲ以テ之ヲ支配スルニ至レリ



此事タルヤ未ダ我邦ニ於テ見サル所ナレハ歐洲ニ於テハ屢他人ヲ脅迫シ徒黨ヲ團結シ工業ニ妨害ヲ來スヲアリ我邦ニ於テモ工業盛大ニ至ラハ此弊ヲ生スルニ至ルヘシ本條ハ即チ此意ヨリ出テタルモノナリ故ニ農工ノ雇人其雇賃ヲ増サシメ又ハ農工業ノ景況ヲ變セシムルトハ則チ雇賃ヲ増サシメ或ハ就職ノ有様ヲ變セシメ又ハ農工業ノ自由ヲ妨害シタル者云々トセハ此ニ始メテ此條ヲ解スルヲ得可キナリ

第二百七十一條 雇主其雇賃ヲ減シ又ハ農工業ノ景況ヲ變スル爲メ雇人及ヒ他ノ雇主ニ對シ僞計威力ヲ以テ妨害ヲ爲シタル者ハ亦前條ニ同シ

本條モ亦前條ト同一ノ意味ニシテ雇主ノ連合シテ賃銀ヲ減スル爲

メ雇人及ヒ他ノ雇主ヲ脅迫シタル時ヲ罰スルモノナリ又農工業ノ景況ヲ變スルトハ農工業職人ノ就業ノ位置ヲ變スルノ謂ニシテ即チ就業時間ヲ増加スル如キ是ナリ

第二百七十二條 虚偽ノ風説ヲ流布シテ穀類其他衆人需用物品ノ價直ヲ昂低セシメタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

虚偽ノ風説ヲ流布シトハ何レノ點ヨリ何レノ點迄ヲ云フカ恰モ影ヲ追ヒ風ヲ捕フルカ如ク其經界漠乎トシテ指ス所ヲ知ラス實ニ適用ニ困ム所ノ法條ナリ

(第五十三回)

(第二百七十一條)(第二百七十二條)



### 第九章 官吏瀆職ノ罪

本章ノ罪中ニハ直接ニ人民ニ害ヲ及ホスモノナキニ非サレモ盡ク之ヲ公益ニ關スル罪即チ第二編中ニ置キタルモノハ官吏ハ一國ノ施政ニ關與シ其職務ヲ奉スルモノナルニ其職務ニ背反シ人民ニ對シテ罪ヲ犯ス其害タルヤ一私人ノ罪ヲ犯シタルヨリ大ニシテ其害ノ波及スル所モ亦廣シ故ニ之ヲ公益罪ノ部内ニ置キタリ而シテ本章ノ罪三箇ノ區別アリ官吏人民ニ對スル罪公益ヲ害スル罪財產ニ對スル罪是レナリ

#### 第一節 官吏公益ヲ害スル罪

本節及ヒ次節共ニ大ニ其解ニ苦シム所アリ諸君幸ニ一層注意セラレヨ

#### 第二百七十三條 官吏其管掌ニ係ル法律規則ヲ公布

施行セス又ハ他ノ官吏ノ公布施行ヲ妨害シタル者ハ二月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

官吏其管掌ニ係ル法律規則ヲ公布施行セストハ法律規則ヲ公布施行スルノ任アル官吏其責任ヲ満足セサルノ謂ニシテ即チ地方官郡區戶長ノ如キ大政府ノ發スル法律規則ヲ公布シ又ハ施行スヘキ者故意ヲ以テ之ヲ爲サルノ場合ナリ故ニ本條正文ニ管掌ニ係ル法律規則ト云フキハ恰モ法律規則ヲ管掌スルカ如クナレモ決シテ然ルニ非ス即チ管掌ニ係ルモノハ公布施行ナリトス又他ノ官吏ノ公布施行ヲ妨害スルトハ或ハ脅迫威權ヲ用井テ無形的ニ妨クルコアルヘク或ハ暴行ヲ以テ有形的ニ妨クルコアルヘク總テ他ノ官吏ヲ

(第二百七十三條)



シテ其公布施行ノ任ヲ盡サシメサルヲ云フ本條罪トシ論スル所ノ  
場合ト官吏懈怠ニ因リ其職ヲ盡サ、ル場合トテ混同ス可カラス本  
條ハ即チ公布施行ノ任アル官吏故サラニ之ヲ爲サ、ル時ニシテ其  
他ノ場合即チ懈怠ニ因リ公布施行ヲ爲サ、ルカ又ハ政府ノ命令ヲ  
遵奉セサル如キハ總テ官吏懲戒令ニ從テ處分スヘキモノナリトス  
又官吏法律規則ヲ公布施行スルヲ忌ミ辭表ヲ出シテ公布施行ヲ  
爲サ、ル如キハ固ヨリ本條ヲ以テ論スヘキモノニアラサルナリ

第二百七十四條 兵隊ヲ要求シ及ヒ之ヲ使用スル權

アル官吏地方ノ騷擾其他兵權ヲ以テ鎮撫ス可キ時  
ニ當リ其處分ヲ爲サ、ル者ハ三月以上三年以下ノ  
輕禁錮ニ處シ二十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

本條ハ第三章第九節公務ヲ行フヲ拒ム罪ト相連絡スレモ彼ノ場合  
ハ他ヨリ要求ヲ受ケ之ヲ行ハサルキニシテ本條ノ罪ハ其公務ヲ行  
フノ責任アル官吏自ラ其公務ヲ行ハサルノ罪ナリ而シテ兵隊ヲ要  
求シ及ヒ之ヲ使用スル權アル官吏トハ地方官及ヒ警視總監ノ如キ  
モノヲ云フ此等ノ者ニシテ地方ノ騷擾ニ際シ之レカ處分ヲ爲サ、  
ル時ハ其危險實ニ大ナリ故ニ罪モ亦重シ然レモ其暴徒ヲ補助セン  
カ爲メ之レカ處分ヲ爲サス傍觀シタルキハ本條ノ罪ニアラスシテ  
共犯ヲ以テ論スヘキモノナリ

本條モ亦官吏其職務ヲ遺忘スルカ又ハ懈怠シテ其處分ヲナサ、ル  
時ハ官吏懲戒令ニ問フヘク本條ハ則チ禍ノ身ニ及ハシトテ恐レテ  
適カニ遁逃スルカ又ハ故意ヲ以テ處分ヲ爲サ、ル時ニ限ルナリ

第二百七十五條 官吏規則ニ違背シテ商業ヲ爲シタ

(第二百七十四條)(第二百七十五條)



ル者ハ二十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ノ因テ起ル所ハ官吏商業ヲ爲セハ其害タル專ラ公益ヲ損フニ  
アリ即チ其第一ハ職務ヲ怠ル事其第二ハ官吏要路ニ居リ時機ヲ先  
知シ相場ノ變動ヲ生スルノ弊アル是ナリ

茲ニ注意ヲ要ス可キ件アリ本節以下第二百九十一條ニ至ル迄官吏  
タルノ身分ヲ以テ犯ス所ノ罪ナリ然ルニ總則ニ身分ニ因テ刑ヲ加  
減スル時ハ其他ノ人ニ及ホスヲ得ストアルヲ以テ本節ニ於テモ人  
民ハ之ヲ補助スルモ官吏ノ罰セラル、ハ官吏タルノ身分ニ因テ然  
ルナリ人民ハ決シテ罪ヲ受クヘキモノニアラスト論スルモノアレ  
ト是レ總則ノ身分ニ因テ刑ヲ加減スルキハ其他ノ者ニ及ホスヲ得  
スト云フノ法條ヲ誤解シタルモノニシテ人民ト雖モ之ヲ補助シ之  
ヲ教唆セハ或ハ正犯トナリ或ハ從犯トナルモノナリ此事ハ既ニ總

則ニ於テ詳述シタルヲ以テ此ニ贅セヌ

### 第二節 官吏人民ニ對スル罪

本節ハ直接ニ人民ノ私益ヲ害スルモノナレハ之ヲ第三編ニ入ル、  
ヲ至當トスルカ如シ然ルニ第二編ノ部内ニ入レタルモノハ大ニ理  
由アリテ存ス今夫レ直接ニ害ヲ被フルモノハ人民ノミノ如クナレ  
ト然ラズ直接ニ害ヲ被フル者ハ即チ職務ヲ行ハシムル所ノ政府ト  
人民トナリ何ントナレハ官吏ハ政府ニ對シ其責任ヲ缺キ政府ノ信  
任ニ違背スレハナリ是レ之ヲ公益罪ノ部ニ加ヘタル所以ナリ

### 第二百七十六條 官吏擅ニ威權ヲ用ヒ人ヲシメ其權利

ナキ事ヲ行ハシメ又ハ其爲ス可キ權利ヲ妨害シタ  
ル者ハ十一日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以

(第二百七十六條)



上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

官吏擅ニ威權ヲ用ヒ云々トアリ其之ヲ用ヒタルハ職務ヲ行フニ當リ自ラ惡シキヲ知リ犯シタル場合ニシテ有意犯ナリ然ラハ官吏ト雖モ職務ヲ行ハサルモハ常人ト異ナルヲナシ故ニ本條ハ官吏ノ職務ヲ行フニ際シテ擅ニ威權ヲ用ヒタル時ト解セサル可ラス人ヲシテ其權利ナキヲ行ハシメ云々ト其權利トハ何レノ權利ナルカ蓋シ法文上ヨリ解セハ人民ノ爲ス可キ權利ナキヲ行ハシメタルモノ、如シ然ルニ權利ナキヲ行ハシムルトハ何事ナルカハ固ト他人ヲ殺スヲ得サルモノナルニ之ヲ殺サシメタルモハ其權利ナキヲ行ハシメタル如クナレモ此場合ハ殺人ノ教唆者ニシテ教唆ノ罪ヲ以テ問フヘキモノナリ何ントナレハ殺人ノ教唆者ヲシテ本條ノ如キ輕キ刑ヲ適用スルノ謂レナケレハナリ然ラハ官吏人

民ヲシテ盜ヲ爲サシメタリトセシカ竊盜律ノアルアリ通行止メアル所ヲ通行セシメタリトセシカ是レ違警罪ナリ皆本條ニ問フ可キモノニ非ス加之本節ノ表題ニ因テ考フルニ官吏ノ人民ニ對スル罪ナレハ被害者ハ人民ナリ而シテ此條ヲ設クルハ人民ヲ保護スルノ意ヨリ出テタルモノナリ然ルニ其權利ナキヲ行ハシムルハ人民ニ害アルヲ得ス教唆シテ人ヲ殺サシメタルカ如キハ其殺シタル者ニ於テハ毫モ害アルヲナク人民ハ爲スヘカラスト思慮セシゴモ之ヲ行フヲ得ハ是レ無害ナルノミナラス反テ快娛ノ情ヲ發センモ亦知ル可カラス是ヲ以テ權利云々トハ全ク意味ナキカ如シ是レ蓋シ權利ノ文字或ハ義務ナキ云々ノ意ニアラサルナキヲ得ンヤ若シ義務ト解セハ大ニ其當ヲ得ヘシ例ヘハ官吏威權ヲ以テ人民ヲ道路ニ跪カシムルカ如キハ人民ノ義務ナキヲ行ハシメタルナリ然レ



此斯ノ權利ト義務トヲ顛倒シテ解スルハ大ニ安ンセサル所ナリ因  
テ思フニ官吏其權利ナキニ人民ヲシテ事ヲ行ハシメタル時ト云フ  
ノ行文ナリシテ偶然人民ヲシテ其權利ナキヲ行ハシメト書シタ  
ルヲランカ是レ予カ牽強附會ノ自説ニアラス現ニ佛文草案第三百  
十條ニ總テノ官吏其職務ヲ行フノ際擅ニ人ニ對シ請求スル權利ヲ  
有セサル事件ヲ充タスヲ命令シ云々ト記セリ又其爲ス可キ權利  
ヲ妨害シタトハ權利ノ執行ヲ妨害シタル者ト解セサル可ラス

第二百七十七條 人ノ身體財産ヲ妨害スルノ犯人ア

ルニ當リ豫審判事檢事警察官吏其報告ヲ受ケテ速  
ニ保護ノ處分ヲ爲サ、ル者ハ十五日以上三月以下  
ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加

ス

本條ノ罪ハ有意犯ニシテ且ツ不行犯ナリ本條モ亦解釋ニ苦マサル  
ヲ得ス人ノ身體財産ヲ妨害スル犯人トアルハ現行犯ノ場合ナリ豫  
審判事檢事警察官吏其報告ヲ受ケテ速ニ保護ノ處分ヲ爲サ、ルモノ  
云々此保護トハ何人ヲ保護スルノ意ナルカ既ニ保護トアル以上ハ  
必ス被害者ヲ保護スルノ義ナルヘシ然ラハ今殺人ノ犯罪アリト報  
告シ檢事或ハ豫審判事其犯所ニ至レハ犯人既ニ逃レテ其影ヲ止メ  
ス而ノ被害者ノ救助ヲ請フアルモ豫審判事檢事之ニ應セサル時ハ  
本條ノ罪トナル可キ乎是レ甚タ其職務ニ適セサルト責ムルカ如  
シ何ナトナレハ豫審判事ノ職トスル所ハ証憑ヲ蒐集シ犯人ノ管轄  
及ヒ罪ノ區別ヲ定ムルモノニシテ檢事ハ犯罪ヲ搜索シ起訴スルノ  
職掌ナレハ被害者ヲ扶助スルガ如キ行故上ノ處分ヲ爲サ、レハト

(第二百七十七條)



テ之ヲ罪トシ論スルヲ得サルカ如クハナリ元來人ノ危急ニ  
際スルヲ目撃シ其人ヲ保護スルハ人間普通ノ情義ニシテ之ヲ爲サ  
ル者ハ人面獸心トモ云フ可キ者ナレハ是レ道義上ノ責ニシテ刑  
法ノ關スル所ニアラス然ルニ此ニ之ヲ記載シタルモノハ蓋シ草案  
第三百十五條ニ類似セル所ヨリ出テタルモノナランカ同條ニ曰ク  
擅ニ人ヲ監禁スルノ犯人アルニ當リ檢事警察官吏之ヲ知リ速ニ檢  
査解放ノ處分ヲ爲サス又ハ之ヲ其長官ニ報告セサル者云々トアリ  
此條ノ如キハ其責任アル者ノ之ヲ爲サ、ルヲ罰シタル至當ノ條ナ  
リトス

第二百七十八條 逮捕官吏法律ニ定メタル程式規則

ヲ遵守セスシテ人ヲ逮捕シ又ハ不正ニ人ヲ監禁シ

タル者ハ十五日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ一圓  
以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但監禁日數十日ヲ  
過クル毎ニ一等ヲ加フ

逮捕官吏トハ犯人ヲ捕フル官吏ノヲナリ程式ト規則トハ如何ナル  
區別アリヤ例ヘハ令狀ノ認メ方即チ氏名住所身分日付等ヲ記スル  
之ヲ程式ト云ヒ日出前日没後令狀ヲ執行スルヲ得サルカ如キハ規  
則ナリ又不正トハ不法ノ事ヲ云フ意ニシテ罪ナキ者ヲ拘引スルハ  
不正ノ拘引ノ如クナレハ法律ニ定メタル規則ニ因テ拘引スルハ  
罪トナラス故ニ本條ノ不正トハ程式規則ニ從ハサル不法ノヲナリ

第二百七十九條 司獄官吏程式規則ヲ遵守セスシテ

囚人ヲ監禁シ若クハ囚人ヲ出獄セシム可キノ時ニ

(第二百七十八條)(第二百七十九條)



至リ之ヲ放免セサル者ハ亦前ノ例ニ同シ

本條モ亦不正ノ監禁ニシテ即チ放免ス可キ時ニ放免セサル等ヲ云フ放免トハ罪ヲ放免スルニアラスシテ出獄スルノ意ナリ何ントナレハ放免ハ獨リ裁判官ノ爲シ得ヘキ事ニシテ司獄官ハ此權ヲ有サレハナリ

第二百八十條 前二條ニ記載シタル官吏又ハ護送者

囚人ニ對シ飲食衣服ヲ屏去シ其他苛刻ノ所爲ヲ施シタル者ハ三月 以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
因テ囚人ヲ死傷ニ致シタル時ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

本條ハ人類ノ爲ス間敷キ苛刻ノ所爲ヲ施シタル者ノ罪ナリ

第二百八十一條 水火震災ノ際官吏囚人ノ監禁ヲ解

クフヲ怠リ因テ死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加フ

本條監禁ヲ解クフヲ怠リ云々トアルニヨリテ見レハ或ハ過失ニ由リ遺忘ニシテ監禁ヲ解カサルモ亦本條ノ問フ如クナレモ本條ハ有意犯ニシテ故ラニ之ヲ爲サ、リシ時ノミチ罰スルモノナリ若シ然ラストセハ前條ノ刑ト大ニ不權衡ヲ生スヘシ而シテ前條ハ行犯ニシテ本條ハ不行犯ナリ

第二百八十二條 裁判官檢事及ヒ警察官吏被告人ニ

對シ罪狀ヲ陳述セシムル爲メ暴行ヲ加ヘ又ハ陵虐

(第二百八十條)(第二百八十一條)(第二百八十二條) 四百十七



ノ所爲アル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ  
五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
因テ被告人ヲ死傷ニ致シタル時ハ殴打創傷ノ各本  
條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

暴行陵虐トハ非常ノ辱ヲ爲シ強迫又ハ拷問ノ所爲アル如キテ云フ

第二百八十三條 裁判官檢察官故ナクシテ刑事ノ訴

ヲ受理セス又ハ遷延シテ審理セサル者ハ十五日以

上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ

罰金ヲ附加ス

其民事ノ訴ニ係ル者亦同シ

本條ハ佛民法第四條ニ規定セル所ト同一ニシテ行政民事刑事ノ訴  
ヲ受ケ之ヲ受理セサルノ罪ナリ此ニ云フ訴トハ眞ノ訴ニシテ告訴  
告發ノ如キ訴ヲ云フモノニ非サルナリ抑モ裁判官ナル者ハ裁判ヲ  
爲ス可キノ職務アルモノナレハ假令管轄違ナルモ其判決ヲナサ  
ル可ラス然ルニ之ヲ受理セス却下シ或ハ審理セサルカ如キハ裁判  
官タルノ職務ヲ輕忽ニシ其責任ヲ欲キ社會ノ公益ヲ害ス是レ本條  
ノ因テ起ル所以ナリ又檢察官ハ犯罪ノ搜查起訴ヲナシ告訴告發ヲ  
受クル職務ヲ有シ且ツ刑事ノ原告人ナレハ訴ヲ受理スヘキ職務ニ  
アラス況ンヤ審理ニ於テチャ然ルニ本條ニ於テ檢察官故ナク刑事  
ノ訴ヲ受理セストアルトハ予ノ解スル能ハサル所ナリ

(第五十四條)

(第二百八十三條)



第二百八十四條 官吏人ノ囑托ヲ受ケ賄賂ヲ收受シ  
又ハ之ヲ聽許シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁  
錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
因テ不正ノ處分ヲ爲シタル時ハ一等ヲ加フ

本條ヨリ第二百八十六條ニ至ル迄ハ賄賂ニ關スル罪ナリ  
賄賂ヲ收受スルトハ官吏ノ政府ヨリ任セラレタル官權ヲ賣リ自カ  
ラ利益ヲ得ントスルニ在リ此所爲ヤ實ニ惡ムヘク其害ヤ甚シ何ト  
ナレハ得可キ理由ナクシテ人ヨリ財物ヲ得且ツ社會ノ信用ヲ害ス  
レハナリ或人之ヲ論シテ曰ク賄賂ヲ受收スル罪ハ最モ重ク罰セサ  
ル可カラス夫ノ殺人或ハ盜倫ノ若キハ社會之ヲ防クノ術アレハ賄  
賂ニ至テハ之ヲ防クノ術ナシ信用スル所ノ人自カラ之ヲ犯セハナ

リト古來羅馬ニ於テハ之ヲ死刑ニ處セシカ猶足ラストナシテ火刑  
磔刑ニ處セリ然レモ到底之ヲ防クコト能ハサルヨリ此刑ヲ改メ夥多  
ノ罰金ヲ科セリ是レ其情狀少シク輕キキハ死刑ヲ用フル能ハサル  
如キコトアリテ賄賂ヲ受ケタル者ヲ適當ニ罰スル能ハサルヨリ罰金  
ノ刑ニ改メタルナリ夫レ如此賄賂罪ニ付テ種々ノ法ヲ設クルモ終  
ニ其目的ヲ達スルコトヲ得サリシト云フ世ノ澆季ニ及ヒ苞苴一般風  
ヲ爲スニ至テハ嚴刑モ之ヲ妨クルコトヲ得サルカ噫々  
サリナカラ賄賂ヲ收受スル罪ハ最モ惡ム可キ罪ナリト云テ羅馬ニ  
於ケルカ如ク一般ニ死刑ヲ科スルコトヲ得ス又ハ法律ハ明カニ其性  
質ヲ定メサル可カラス是レ本條以下數條ノ因テ起ル所以ナリ  
本條以下賄賂罪ヲ構造スルハ左ノ三條件ヲ要ス

第一 官吏タルコト

(第二百八十四條)



第二 現ニ賄賂ヲ收受スルヲ

第三 職務中ノ一處置ヲ爲スニ關シ賄賂ヲ受ルヲ

賄賂罪ニハ先ツ官吏タルヲ必要トス故ニ官吏ニアラスシテ賄賂ヲ  
收受セハ詐欺取財トナリ或ハ罪トナラサルヲアリ例ヘハ醫師鑑定  
人鑑定事件ニ付キ賄賂ヲ收受スルモ官吏ニ非ラサルヲ以テ本條ノ  
罪ニアラス若シ之ニ因テ詐偽ノ申立ヲ爲シタル時ハ偽証ノ各本條  
ニ依テ論スヘキナリ佛國刑法ハ仲裁人鑑定人等ノヲニ付テモ規定  
セリト雖也我刑法ハ此事ナキヲ以テ賄賂罪トナラサルナリ  
官吏人ノ囑託ヲ受クルトハ人ヨリ種々ノ依頼ヲ受ケタルヲ云フ聽  
許トハ其賄賂ヲ收受スルノ契約ヲ爲シタルノミニシテ未タ受取ラ  
サルモノヲ云フ

賄賂ヲ收受シ又ハ聽許スルモ必ス其職務中ノ一處置ヲ爲スニ關ス

ルヲ要ス其他ノ事ニ付キ或物ヲ受タルモ賄賂ト云フヲ得ス本條  
ハ此點ニ付キ明記セサレテ第二項ニ不正ノ處分云々トアルヲ見レ  
ハ職務中ノ一處分ヲ爲スニ付キ囑託ヲ受ケ收受シタルトキニ非ラサ  
レハ罪トナラサルヤ明カナリ  
若シ官吏將サニ某事件ノ處分ヲ爲サントスルニ際シ人ヨリ該事ヲ  
爲シ吳レヨト囑託シ贈物ヲ爲シ之ヲ收受シタリ然レテ之ヲ受クル  
モ受ケサルモ自カラ爲サント欲シタル事ニシテ毫モ其分處ヲ枉ケ  
サルトキハ其結果同一ナリ然ラハ之ヲ罰セサル乎否ト官吏タルモノ  
ハ常ニ職務ヲ行フカ爲メ政府ヨリ其給料ヲ受ク人民ヨリ贈物ヲ受  
ケ二重ノ利益ヲ得ルノ理ナシ豈如此不正ノ所爲ヲ罰セスシテ可ナ  
ランヤ

又政府ヨリ給料ヲ受クルニ非スシテ人民ヨリ手数料ノミヲ取ル所

(第二百八十四條)



ノ官吏ト雖凡通常手数料ノ外贈物ヲ受ケタルキハ同ク二重ノ利益ヲ得タルモノナレハ之ヲ罰ス可キモノナリ  
 右ニ述フル所ハ爲スヘカラサルヲ爲シタルノ罪ナレトモ又爲ス可キヲ爲サスシテ罪トナルモノアリ例ヘハ巡查賄賂ヲ受ケ現行犯者ヲ逮捕セシテ見逃シタル場合ノ如キ是ナリ  
 抑モ賄賂トハ金買物件ノミナラス不動産其他總テ利益トナルヘキモノヲ受クル之ヲ賄賂ト云フ而シテ之ヲ受クルニハ間接直接ヲ分タスト雖凡妻子或ハ婢僕等間接ニ收受シタルキハ本人其情狀ヲ知リタルトモ要ス本條官吏トハ裁判官ノミナラス行政官等總テノ官吏ヲ云フナリ

此ニ一疑問アリ官吏賄賂ヲ收受シ又ハ聽許シタルモ其依託ノ如ク申ヲ爲サ、ル前ニ於テ之ヲ返還シ又ハ取消シタル時ハ如何總則ノ未遂犯ノ原則ニ依テ論セサルヘカラス即チ其一所業ヲ爲サ、ルノ意外ノ障礙又ハ舛錯ニ出テタルキハ未遂犯ヲ以テ論セサル可ラス然レモ一旦收受スルモ自ラ其惡シキヲ知リテ止マリタルキハ罪ナキモノトス又官吏己レノ職務外ノ事ニ付賄賂ヲ取リタルキ例ヘハ大藏省ノ官吏賄賂ヲ受ケ現行犯者ヲ見逃シタル時ノ如キハ如何此場合ハ其官吏其處分ニ付毫モ權利ヲ有セサレハ一私人ノ賄賂ヲ受クルト同一ナリ故ニ罪トシ論スルヲ得ス賄賂ヲ受クルニ付テノ要件ハ官吏其己レノ職務ノ一所行ニ付テ爲シタルニアラサレハ罪トナラサルナリ

第二百八十五條 裁判官民事ノ裁判ニ關シテ賄賂ヲ收

受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(第二百八十五條)



因テ不正ノ裁判ヲ爲シタル時ハ一等ヲ加フ

前條ハ官吏一般ニ付テ規定シ本條ハ裁判官ノミニ關シ規定シタルモノニシテ其罪特ニ重シ何ントナレハ裁判官ハ事ノ是非曲直ヲ斷シ正邪ヲ辨スル方正實直ノ位置ニアリ而シテ敢テ不正ノ所爲ヲ行フハ社會ノ信任ト其職務ヲ汚セハナリ但民事ハ刑事ノ如ク身體生命ニ及ハサルヲ以テ少シク之ヲ輕クセリ然レモ民事モ大事件ニ至テハ其害甚クシクシテ身體ニ及フコトアリ故ニ本條ノ刑少シク輕キニ過クルカ如シ

第二百八十六條 裁判官檢察官官吏刑事ノ裁判ニ關シテ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シメル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下

ノ罰金ヲ附加ス

因テ被告人ヲ曲庇シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其被告人ヲ陷害シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス若シ枉斷シタル所ノ刑此刑ヨリ重キ時ハ第二百二十一條第二百二十二條ノ例ニ照シテ反坐ス

本條ハ裁判官檢察官官吏ニ付テ規定シタルモノナリ而シテ第一項ハ賄賂ヲ收受シ人ヲ曲庇セ陷害セス枉斷セサルモ收受シタルノミニテ罪ヲ成ス第二項ハ賄賂ノ爲メ曲庇シタルコト第三項ハ陷害シタルコト枉斷シタルコトヲ規定セリ若シ枉斷シタル所ノ刑此陷害

(第二百八十六條)

四百二十七



ノ刑ヨリ重キハ偽証ノ例ニ照シテ反坐ストアリ然レモ予ヲ以テ  
之ヲ見レハ其刑輕キモノ、如シ試ミニ思ヘ通常ノ偽証者ハ裁判官  
ノ心証ニ備フルノミニシテ必スシモ其証ニ據テ枉斷セシムル能ハ  
サレモ裁判官ニ至テハ然ラス自カラ判定スルノ權ヲ有シ之ヲ殺サ  
ント欲セハ殺シ之ヲ生サント欲セハ生カスヲ得ルモノニシテ社  
會ノ重任ヲ負擔スルノ人ナリ然ルニ之ヲ通常ノ偽証者ト同一ノ刑  
ニ處スルハ權衡平ヲ得タリト云フ可キカ

第二百八十七條 裁判官檢察官吏賄賂ヲ收受聽

許セスト雖モ情ニ徇カヒ又ハ怨ヲ狹サミ被告人ヲ  
曲庇陷害シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

本條別ニ講スヘキナシ

第二百八十八條 前數條ニ記載シタル賄賂既ニ收受

シタル者ハ之ヲ沒收シ費用シタル者ハ其價ヲ追徵  
ス

元來沒收ハ直接ニ犯罪ヨリ得タル所ノモノナラサル可ラサルハ一  
般ノ原則ナリ然ルニ本條ハ既ニ消費シタルモノモ尙ホ追徵スルハ  
例外ノ法ナリトス

以上繰述スル所ハ賄賂ヲ收受シタル者ニ付テノ罪ナリ賄賂ヲ行フ  
者及ヒ媒介ヲ爲シタル者之ヲ罰スヘキヤ否ヤニ付テハ種々ノ論ア  
リ論者曰ク賄賂ヲ受クル者ヲ罰セハ之ヲ行フモノモ其從犯トシテ  
罰セサル可ラス何ントナレハ畢竟賄賂ヲ受クルモノハ之ヲ行フモ  
ノアルカ爲メニシテ官吏ノ罪ヲ犯スニ必要ナル一原素タルモノナ

(第二百八十七條)(第二百八十八條)



レハナリト此説從フ可ラサルナリ立法者ノ賄賂罪ヲ設定シタルハ即チ賄賂ヲ受シルト云フ不正ノ所業ヲ罰スルモノニシテ之ヲ行フトハ全ク別異ノモノナリ若シ行フ者ヲ罰スルトセハ律ニ正條ヲ掲ケサル可ラス然ルニ之ヲ掲ケサレハ則チ罪トシ論スルヲ得サルナリ論者又曰ク自ラ賄賂ヲ行ハサルモ之レカ媒介ヲ爲シタルモノハ如何之ヲ本節ニ掲ケサルハ欠典ナリト是レ亦取ルニ足ラサルノ論ナリ賄賂ヲ收受スル者ニ付テ補助シタル時ハ犯罪ヲ構造スルニ必要ナル助成ヲ爲シタルモノニシテ賄賂ヲ收受スル者ノ從犯人ナリ之ニ反シテ賄賂ヲ行フ者ノ媒介ヲ爲シタル時ハ罪トセス何ントナレハ其主タル賄賂ヲ行フノ所爲ヲ罰セサルモノナレハナリ予ノ意見ニ依レハ獨リ賄賂ヲ收受シタル者ノミナラス之ヲ行フタル者モ明條ヲ設ケテ罰スルヲ可トス

賄賂罪ノ三元素充分備ハラサルハ詐欺取財トナルモノナリ

第三節 官吏財産ニ對スル罪

第二百八十九條 官吏自ラ監守スル所ノ金穀物件ヲ

竊取シタル者ハ輕懲役ニ處ス

因テ官ノ文書簿冊ヲ増減變換シ又ハ毀棄シタル時

ハ第二百五條ノ例ニ照シテ處斷ス

本條ノ罪ヲ構造スルニ左ノ三元素ヲ要ス

第一 官吏タル事

第二 財物ヲ使用スル事

第三 監守ノ物件タル事

本條ニ竊取トアレハ其性質ハ背信ノ罪ニシテ費用受寄財産ト同一

(第二百八十九條)



ノ性質ヲ有ス唯其刑ニ輕重ノ別アルニ過キサルナリ故ニ此罪モ官吏自カラ費用シ之ヲ償フ事能ハサル場合ニ至ラサレハ罪トナラサルナリ然レモ假令償フヲ得ルモ其物件ヲ竊取シ之ヲ掩ヒ隠サントスルキノ如キハ罪ナシト云フ可ラス例ヘハ監守シタル官吏ニ其物件ヲ請求セラレ會テ托ヲ受ケスト云ヒ或ハ知ラスト云ヒ再三糾問セラレタル後自白シタル如キハ假令其金圓ヲ完納スルモ罰セサル可ラス

**第二百九十條** 租稅其他諸般ノ入額ヲ徵收スル官吏正數外ノ金穀ヲ徵收シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

本條ハ有意犯ニシテ其目的不正ニ徵收シタル金穀ヲ私有スルニ在

リ

**第二百九十一條** 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

以上ノ講述ニ由テ第二編公益ニ關スル罪ハ全ク説キ了レリ次回ヨリ第三編私益ニ關スル罪ヲ講セントス此罪ハ世上最モ多ク困難ナル疑問ノ生スル所ナリ故ニ諸君ノ最モ注意アラソ事ヲ望ム



(第五十五回)

### 第三編 身體財産ニ關スル重罪刑罪

曩ニ第二編ヲ講スルニ當リ罪ニ公罪私罪アルヲ陳述セリ公罪トハ社會ニ直接ノ害ヲ及ボスモノニシテ私罪トハ一己人直接ノ害ヲ被リ社會ハ間接ニ其害ヲ受クルモノ是レナリ我立法者ハ第二編ニ於テ公罪ヲ規定シ私罪ヲ第三編ニ掲ケタリ是レ公罪ハ社會ニ關シ私罪ハ一己人ニ關スルニ因リ公罪ヲ先ニシ私罪ヲ後ニシタルナリ

#### 第一章 身體ニ對スル罪

身體ニ對スル罪ハ有形上無形上ノ二種ト問ハサレハ名譽ニ對スル罪ノ如キモ皆此中ニ含蓄ス是レ唯財産ニ對スル罪ト區別スルノ稱ニ過キサルノミ

#### 第一節 謀殺故殺ノ罪



凡ソ殺人罪ニ三種アリ曰ク謀殺曰ク故殺曰ク過失殺是レナリ此區別ハ已ニ我新律綱領ニ記スル所ニシテ其源ハ明清律ヨリ出ツ羅馬ノ學者ハ殺人罪ヲ單純殺ト謀殺トノ二箇ニ區別シ而シテ又各之ヲ四種ニ分テリ

單純殺ノ四種左ノ如シ

第一 偶然殺例ヘハ往來ニテ急病ヲ發シ識ラス知ラス顛倒シテ小兒ヲ壓死セシメタル如キ是レナリ

第二 必用殺即チ已ムヲ得サルニ出テ人ヲ殺シタル場合ニシテ正當防衛ノ如キ是レナリ

第三 過失殺

第四 故殺

謀殺ノ四種左ノ如シ

第一 單純ノ謀殺即チ豫メ謀テ人ヲ殺シタルモノ是レナリ

第二 狙撃殺例ヘハ路傍ニ潜伏シテ人ヲ要撃スル如キ是レナリ

第三 詐欺殺即チ詐僞ノ方法ヲ以テ人ヲ殺スモノ是レナリ

第四 利益殺即チ人ヨリ金錢ヲ受ケ以テ他人ヲ殺スモノ是レナリ

斯ノ羅馬ノ學者ハ殺人罪ヲ二箇ニ區別シ各四箇ノ犯法アルモノトセリ當今歐洲各國ノ刑法ハ區別ノ方法各異ナル所アリト雖モ皆ナ

其源ヲ羅馬法ニ取リタルモノナリ佛國ノ如キハ謀殺故殺過失殺ノ三箇ト爲シ而シテ單純殺中必用殺及ヒ偶然殺ハ其罪ヲ論セス

今本節ノ首條タル第二百九十二條ヲ講スルニハ先ツ第二百九十四條ヨリ説明スルヲ便トス故ニ順序ヲ顛倒シテ先ツ第二百九十四條

ヲ講明スヘシ

第二百九十四條 故意ヲ以テ人ヲ殺シタル者ハ故殺

(第二百九十四條)



ノ罪ト爲シ無期徒刑ニ處ス

本條故殺ノ罪ヲ構成スルニハ左ノ二原素ヲ具備スルヲ要ス

第一 人ヲ殺スト即チ有形ノ所爲アルヲ

第二 故意即チ人ニ死ヲ與フルノ意思アルヲ

第一 人ヲ殺ストナケレハ故殺トナラサルヤ固ヨリ論ヲ俟タスト雖モ其殺スト稱スルハ必スヤ有形ノ所爲ニ係ルヲ要ス而メ又人ヲ殺スト稱スルハ生活スル人ノ生命ヲ奪フノ謂ナリ故ニ其殺サル者ハ必ス人類ナラサルヘカラス然ルニ人ニシテ異形ノ者ヲ産出スルヲアリ之ヲ殺サハ殺人ヲ以テ論スヘキヤ此論タル無用ニ似タレモ古來ヨリ學者ノ既ニ論スル所ニシテ世間亦或ハ人ニ肖テ人ニアラサルカ如キ不具人ヲ産出スルヲナキニアラス然レモ畢竟人ヨリ産レタルモノナレハ必ス人ト云ハサルヲ得ス故ニ之ヲ殺サハ即チ

殺人罪ヲ以テ論スヘキナリ但其不具ノ甚シキ到底人類ヲ以テ指稱スルヲ得サル者ハ此限ニ在ラサルヘシ

殺人罪ハ元ト行犯ニ屬スルモノナレモ亦不行ヨリ成ルヲアリ例ヘハ人ヲ監禁シ之ニ食餌ヲ與ヘスノ途ニ死ニ致シタルカ如キハ其所爲行犯ニアラスノ不行犯ナリ且ツ此場合ハ常ニ謀殺ニ入ルヘシ然ルニ此ニ病者ニ藥ヲ與ヘスノ死ニ致シタルモ如何此場合ハ大ニ疑團ノ存スルアリ抑モ其死スルノ原因タルヤ全ク藥ヲ與ヘサルカ爲メニ死シタルカ將タ病ノ爲メニ死シタルカ容易ニ知り得ヘキモノニ非ス故ニ監禁シテ食餌ヲ與ヘサル場合トハ大ニ異ニシテ殺人ヲ以テ論ス可カラサルナリ今又人ノ危難ニ臨ムヲ見テ之ヲ救ハス途ニ其人ヲ死ニ致シタルモ例ヘハ小兒ノ水中ニ陥キテ將サニ溺死セントスルノ際之ヲ救フハ一舉手一投足ノ勞ノミナルニ之ヲ救ハ

(第二百九十四條)



サルキハ如何ン是レ所謂ル怵惕惻隱ノ心ナキモノニシテ道德上ヨ  
 リ云ハ、恰モ自ラ手ヲ下シテ人ヲ殺シタルト同一一般ナルカ如シト  
 雖モ法律上ニ於テハ決シテ之ヲ罰スルコトヲ得ス其然ル所以ノモノ  
 ハ元來立法者ノ法律ヲ制定スルヤ多クハ禁止法ニシテ命令法ハ極  
 メテ稀レナリ而シテ命令法ニ至テハ尤モ慎マサル可ラス若シ立法  
 者ニシテ人ヲ扶助セヨト命シ此命ニ反スル者ヲ罰スルキハ其區域  
 ヤ廣漠其事件ヤ繁雜ニシテ到底其極度ヲ知ル能ハサルコト至ラノ是  
 レ徒ニ天下罪人ノ多キヲ致スノミ故ニ之ヲ罪トシ論セサルナリ然  
 ラハ則チ保護ノ任アル巡查ノ如キ者之ヲ救ハサルキハ如何其職務  
 チ履行セサルノ點ヲ以テ職務章程ニ依リ責罰スルニ過キサルノミ  
 以上ハ有形的ノ殺人ナリ又此ニ無形的ノ殺人アリ即チ人ノ心裡ニ  
 苦痛ヲ與ヘ死ニ至ラシムル是レナリ例ヘハ彼ノ繼母先妻ノ子ヲ非

道ニ呵責シ遂ニ死ニ致シタル如キ純然タル故殺ニシテ其情狀最モ  
 重ク理論ヨリスレハ必ス之ヲ罰セサル可ラス然リト雖モ如此場合  
 ハ其苦痛ノ程度タルヤ無形ニシテ之ヲ調査シ証據ヲ擧クル能ハサ  
 レハ人類ノ得テ判定スル所ニアラサルナリ故ニ如斯所爲ハ人類ノ  
 裁判ヲ免カル、ノ惡事ナリトス定トコ人類裁判ノ不完全ナルヲ知  
 ルヘシ

第二 故意即チ人ニ死ヲ與フルノ意アルコトハ亦故殺ニ必用ナル原  
 素ナリ若シ此原素ヲ欠クハ假令人ヲ殺ス有形上ノ所爲アルモ故  
 殺ノ罪トナラス故ニ裁判宣告書中殺人故意ノ二原素ヲ具備シテ犯  
 シタルコトヲ明示セサル時ハ其判決タル大審院ノ破棄ス可キ原因ト  
 ナルモノナリ然ルニ此ニ人ヲ殺スノ意アルト否ヤトハ如何シテ之  
 チ知得スヘキヤ是レ古昔學者ノ大ニ難シトスル所ニシテ本邦及ヒ

(第二百九十四條)



西洋各國ニ於テモ被害者加害者ノ間ニ怨恨アルカ如キヲ以テ殺意アルノ証トセシヨアリタリキ現今ニ於テハ故意ノ如何ノ點ハ專ラ裁判官ノ心証ニ委任スルヲ以テ復タ如斯困雜アラサルナリ而シテ古昔此故殺罪ハ其刑實ニ重ク人ヲ殺スモノハ死スト云フ如キタリヨソ反坐ノヲ云フ主義テ以テ之ヲ死刑ニ處シタリキ今ハ則チ各國概テ之ヲ無期徒刑ニ處ス是レ故殺ハ外部ノ感觸ニ制セラレ直チニ怒氣ヲ生シ熟慮スルノ暇アラスシテ犯シタルモノナルニ因リ其情謀殺ノ如ク重カラサルヲ以テナリ

第二百九十二條 豫メ謀テ人ヲ殺シタル者ハ謀殺ノ罪ト爲シ死刑ニ處ス

謀殺モ亦其罪ヲ構造スルニ二原素ヲ要ス

第一 人ヲ殺ス

第二 豫メ謀ル

第一 人ヲ殺スノ點ハ已ニ講述セシヲ以テ此ニ贅セス

第二 豫謀トハ人ヲ殺サントスル前ニ於テ充分之ヲ腦裏ニ熟考スルヲナリ故ニ謀殺ハ此熟考ヲ遂ケテ然ル後ニ爲ス者ニシテ故殺ト異ナレリ若シ一旦人ヲ殺サント欲スルモ後チ熟考シテ善性ニ反リ自カラ止メタルニ於テハ法律上罪トシ論スル所ナシ然ルニ之ヲ止メス遂ニ其目的ヲ達シタル時ハ其罪ヤ重且大ナリト云フヘシ故ニ謀殺ハ故殺ニ比スレハ大ニ重シ而シテ故意ハ自カラ豫謀中ニ含有スト雖モ亦異ナルモノナリ故意トハ人ヲシテ死ニ至ラシムル惡意ノ事ニシテ豫謀トハ其死ニ至ラシムルヲ前ニ計齎スルヲ云フ然レモ此區別タル古來學者ノ甚々苦ム所ナリ羅馬學者ノ說ニ依レハ人ヲ殺ス爲メ兇器ヲ備ヘ又ハ路傍ニ潛伏シテ人ヲ要撃シ又ハ汝ヲ

(第二百九十二條)



殺サント明言シ又ハ人ヲ騙欺ノ殺シタルキノ如キハ豫謀アリト推測チ下サ、ルヘカラスト又人ヲ數度ニ傷ケテ遂ニ死ニ致シタルキノ如キモ豫謀アリタリト推測スヘキモノトセリ是等ノ說ハ今日尙ホ從フヘキモノトス

又謀殺故殺ヲ區別スルノ標準ハ大ニ時間ニ關係スルモノナレハ羅馬ノ學者ハ殺意ヲ生シタルト思料スヘキキヨリ三十日以内ニ殺シタレハ故殺トセサル可ラスト論シクリ是レ其當時ハ復讐ノ主義盛ンナリシニ因リ如斯三十日等ノ期限ヲ定メタルモノナレハ現今ニ至テハ然ラス其時ノ長短ヲ論セス只殺スニ當テ之ヲ其心裡ニ熟考シタルト否ヤトニ因テ區別スルナリ然レハ謀殺ト故殺トハ相密着シテ容易ニ判別スル能ハサルモノナレハ事實ヲ裁判スル裁判官ハ最モ注意セサル可カラス

茲ニ人ヲ殺スニ豫メ謀ルモ未必ノ條件ヲ附加シ其條件ノ到着シタル時ハ殺サント謀リタル時ハ如何例ヘハ彼ノ溝口末吉ノ情婦ノ母ヲ殺シタル如ク其母若シ云々ノ事ヲ云ハ、殺サント決心シ居リタルニ果シテ其事ヲ言ヒタルニ因リ殺シタル如キキハ如何此場合ト雖モ謀殺ト決定セサルヘカラス何ントナレハ云々ノ事ヲ言フタルキハ殺サント決定シタルキヨリ己ニ豫謀アリタルモノナレハナリ豫謀ノ事タル無形的ノ事ナレハ數人共犯ニ係ル場合ニ於テハ其共犯者中總テ皆豫謀アリトスルヲ得サルコトアルヘシ例ヘハ人ノ住居シタル家屋ニ火ヲ放ツ如キハ其住居ノ家タルコトヲ知リタル以上ハ數人皆同一ノ刑ニ處スヘキハ勿論ナリト雖モ謀殺ノ如キハ人ヲ殺ス有形的ノ所爲ト豫メ謀ル無形的ノ所爲トアルモノナレハ共犯者中各同一ナリト云フヲ得ス故ニ數人共ニ殺人罪ヲ犯シタルキハ其



各人ニ付キ豫謀アルヤ否ヤヲ判定シ謀殺故殺ノ區別ヲ爲サ、ルヘ  
カラス又從犯ハ正犯ニ從フ可キモノ故正犯ノ如何ニ因テ決定スル  
モノナリ

第二百九十三條 毒物ヲ施用シテ人ヲ殺シタル者ハ

謀殺ヲ以テ論シ死刑ニ處ス

毒殺罪ハ古來ヨリ人ノ最モ重シトスル所ニシテ其所爲特ニ猛惡卑  
劣ナリ又毒殺ハ防クニ難クシテ施スニ易ク且ツ常ニ被害者ノ信任  
スル人ヨリ來ル又毒藥ヲ施シタル物ヲ他人ノ食スルニ於テハ皆併  
死スルノ恐レアリ例ヘハ水瓶ニ毒ヲ入レ又ハ食物ニ混和スル如キ  
之ヲ飲食スル者皆其害ヲ被ムラサルハナシ故ニ此罪ハ其結果ヨリ  
見ルモ所爲ヨリ見ルモ尤モ惡ムヘク尤モ恐ルヘキ罪ナリサレハ古  
昔羅馬ニ於テハ其刑重クシテ火刑或ハ車裂ノ刑ニ處シタリキ我刑

法ニ於テ之ヲ謀殺ヲ以テ論スルニ過キサルモノハ畢竟謀殺ノ刑ヨ  
リ重キ刑ナキニヨルノミ  
毒殺罪ヲ構造スルニハ左ノ二素ヲ要ス

第一 故意人ヲ殺ス

第二 毒物ヲ施用シテ殺ス

第一 故意人ヲ殺ス  
ハ本條欠ク可カラサルノ要件ナリ或ル學者  
ノ說ニ曰ク毒殺ハ謀殺ノ一部分ナレハ別ニ明條ヲ掲ケヌシテ可ナ  
リト然レモ毒殺ニモ故殺ノ場合ナキニ非ス佛國ノロシイ氏例ヲ舉  
テ曰ク藥品ニテモ過度ニ用ユルハ害トナリ過度ニ用ユレハ藥ト  
ナルモノアリ今例ヘハ主人病ムニ當テ僕婢藥ヲ與ヘントスルノ際  
主人ノ呵責ヲ受ケ一時ノ憤怒ニ乘シ其藥ヲ多量ニ與ヘ爲メニ主人  
ヲ死ニ致シタル如キハ決シテ謀殺ト云フヲ得ス乃チ其僕婢一時ノ

(第二百九十三條)



怒ニ乘シテ直チニ爲シタルモノナルヲ以テ故殺ト云ハサルヲ得ス  
 ト  
 毒殺ノ未遂ニハ種々ノ場合アリ例ヘハ毒殺ヲ行ハシカ爲メ毒藥ヲ  
 購求シテ之ヲ共犯者中手ヲ下スヘキ者ニ與ヘタルキハ毒殺未遂犯  
 ナルヤ如何佛國大審院ノ判決例ハ未ダ毒殺ニ着手セサルモノナレ  
 ハ未遂犯ニ非ストセリ然ラハ毒藥ヲ茶碗ニ入レタルキハ如何此時  
 ハ其場合ヲ區別シ被殺者ノ之ヲ吞ムニ容易ナルキハ未遂犯ヲ以テ  
 罰セサルヘカラス若シ之ヲ棚等ニ仕舞置キタルキハ未遂犯ト云フ  
 ヘカラス又毒藥ヲ客レタル茶碗等ヲ其殺サントスル人ニ提供シタ  
 ル如キハ必ラス未遂犯ト決定セサルヘカラスナリ  
 本條ノ講說ハ今日之ヲ終フ能ハサルヲ以テ次回ニ於テ詳ラカニス  
 ヘシ

(第五十六回)

前回ハ第二百九十三條毒殺罪ノ第一元素即チ故意人ヲ殺スコトニ就  
 テ講說セシカ尙ホ未ダ盡サル、ヲ以テ之ヲ續說セシ  
 前回ノ終リニ人ヲ殺サンカ爲メ毒物ヲ茶碗ニ容レ之ヲ提供シテ吞  
 マシメントシタル場合ハ未遂犯ヲ以テ論スヘキ旨ヲ述ヘタリシカ  
 若シ爰ニ毒物ヲ施用シタルモ犯者自ラ中止シタルキハ未遂犯ト云  
 フ可キヤ否ヤ蓋シ之ヲ未遂犯ト云フヲ得ス何ントナレハ此場合ハ  
 意外ノ障碍又ハ舛錯ト云フニ非ラス自カラ中止シ全ク殺意ヲ斷チ  
 タルモノナレハナリ故コ之ヲ無罪トセサルヘカラス又甲者ヲ殺サ  
 シカ爲メ毒殺ヲ水瓶中ニ貯ヘシニ中途ニシテ其惡專タルヲ悔悟シ  
 之ヲ甲ニ明言シ以テ吞マシメサルニ於テハ決シテ罪トナラス然レ  
 モ其間ニ乙者來テ其水ヲ飲ミ死シタルキハ如何此時ニ於テ甲者ニ  
 (第二百九十三條)



對シテハ悔悟中止シタルモ乙者ニ對シテハ既ニ其罪成立セリ因テ  
 誤殺ヲ以テ論セサルヘカラス誤殺ノ事ハ後ニ至テ詳説セン  
 又毒殺ハ毒殺ヲ吞マシムルノミニ非ス之ヲ身体ニ塗リ以テ殺シタ  
 ル時モ亦毒殺ナリトス  
 借テ以上述フル所ハ未タ毒物ヲ服用セサル場合ナリ猶一步ヲ進メ  
 被害者既ニ毒物ヲ吞ミ終リタル場合ヲ説カン例ヘハ毒物ヲ吞ミ終  
 リタルモ其毒少量ニシテ死ニ至ラサル時ハ如何是レ意外ノ舛錯ニ  
 因リ未タ遂ケサルモノナルニ因リ未遂犯ヲ以テ論ス可キナリ  
 又既ニ毒殺ヲ飲用セシメ而シテ直チニ消毒藥ヲ與ヘタルカ爲メ死  
 ニ至ラサリシキハ如何此事ハ第一百十三條ニ於テ詳説セリ或者ノ説  
 ニ曰ク未遂犯ヲ以テ論セサル可カラス何ントナレハ毒殺ノ元素ハ  
 充分ニ備ハレリ其死ニ至ラサルハ他ノ原因ニ因リシモノナレハ十

リ看ヨ夫ノ竊盜ノ如キ一旦他人ノ物件ヲ竊取シ後チ其人ニ自首シ  
 之ヲ返還スルモ罪トナルニアラスヤ然レハ則チ毒物ヲ飲マシメ後  
 チ消毒藥ヲ服セシメ死ニ至ラサルキハ未遂犯ヲ以テ論セサル可カ  
 ラスト此論一應理アルカ如クナレハ之ヲ理論ニ照シ正條ニ徵スル  
 ニ毒殺罪トナルヘキ所ナシ抑モ罪トハ道德ニ背キ社會ヲ害スルモ  
 ノ是レナリ前例ノ如キハ道德ノ點ヨリ云ハ、罪ナシトモサレハ社  
 會ヲ害スルノ點ニ至テハ毫モ其跡ヲ存セス業ニ已ニ害ナキ時ハ何  
 ソ之ヲ罪ト爲スチ得ンヤ縦シヤ害アリトスルモ已ニ殺意去リタル  
 モノナレハ又何ソ毒殺罪ヲ以テ罰スルチ得ンヤ若シ夫レ害ノ生シ  
 タル時ハ別罪ヲ犯シタルモノニシテ第三百七條ヲ以テ罰ス可キモ  
 ノナリ今毒殺罪ヲ以テ罰セントスルモ已遂チ以テ論スルチ得サル  
 ハ勿論又未遂チ以テ論スルチ得ス何ントナレハ未遂犯ハ意外ノ障

(第二百九十三條)



得又ハ舛錯ニ因テ遂ケサルキニアラサレハ罰セサルモノナルニ此  
 場合ハ意外ノ事ニ因テ止メタルニアラス意内ノ事ニ因テ止メタル  
 モノナレハナリ故ニ無罪トセサルヘカラス然レ既ニ此危険ノ所  
 爲アル時ハ社會ハ必ス毫モ害ナシトセス因テ之ヲ罰セサルヘカラ  
 ス而シテ之ヲ罰スルニハ明條ヲ設ケサレハ不可ナリ  
 以上ハ毒殺罪ヲ構造スル第一元素ナル人ヲ殺ス事ナリ  
 今茲ニ學者ノ疑團ヲ起ス所ノ問題ヲ掲ケテ論セントス  
 甲者ヲ殺サンカ爲メ毒物ヲ豫備シタルニ果シテ甲者ノ之ヲ吞ミテ  
 死シタルキハ如何此場合ハ二個ニ區別セサル可カラス第一毒藥ヲ  
 此所ニ置カハ甲者來リテ吞ムナル可シト思考シ之ヲ備ヘ置キタル  
 ニ果シテ其目的タル甲者來テ吞ミタルキハ毒殺ニシテ若シ乙者ノ  
 之ヲ吞ミ死シタルキハ誤殺ナリ第二毒藥ヲ此所ニ置カハ甲者必ス

吞ムナル可シトノ思考アルニ非スシテ備ヘ置キタルニ偶甲者之ヲ  
 吞ミテ死シタル時ハ其目的ヲ達シタルモノナレハ毒殺ニアラス又  
 乙者ノ之ヲ吞ミテ死シタル時モ誤殺ニアラス何ントナレハ是レ實  
 ニ偶然ニ出テタルモノニシテ恰モ其殺サント欲スル人ノ落雷ノ爲  
 メ死シタルト向一ナレハナリ然レハ過失アリタルキハ過失殺傷ヲ  
 以テ罰セサル可カラス

前例ノ如ク毒物ヲ棚等ニ仕舞置キタルキ盜賊來テ之ヲ吞ミテ死シ  
 タルキハ如何ン此問題ニ付テハ種々ノ議論アリ或者ノ説ニ曰ク此  
 場合ニ於テ奴婢ノ如キ之レヲ吞テ死シタルキハ過失殺ヲ以テ罰セ  
 サル可カラスト雖ハ盜賊ノ之ヲ吞ミタルキハ過失殺ト爲スヲ得  
 ス何ントナレハ奴婢ハ其家ニ使役スルモノナルニ困リ其棚等ヲ開  
 閉スルヲアレハ之ヲ吞マンヲ恐レタメニ注意セサルヘカラスト



雖正盜賊ノ之ヲ吞マント迄ヲ慮リ得ヘキ者ニ非ス然ルニ盜賊ノ竊  
 ニ忍シテ家宅ニ侵入シ之ヲ吞テ死シタルハ自業自得ナレハナリト  
 然ルニ或ヒト又之ヲ駁シテ曰ク今夫レ僕婢ノ吞テ死シタルカ爲メ  
 ニ過失殺トナル時ハ盜賊ノ吞テ死シタル時モ亦過失殺ト爲サ、ル  
 可カラス何ントナレハ其毒物ヲ他ノ飲食物ト信シテ飲食スルノ點  
 ニ至テハ僕婢タルト盜賊タルト決シテ異ナルトナケレハナリ故ニ  
 僕婢ニ對シ過失殺トナル可キハ盜賊ニ對シテモ亦過失殺トセサ  
 ル可カラスト蓋シ前論ヲ當レリトス  
 又人ヲ殺サンカ爲メ一個ノ茶碗ニ毒物ヲ容レ他ノ茶碗ニ毒ニアラ  
 サル物ヲ容レ之ヲ其殺サントスル人ニ供シタルニ其人毒ニアラサ  
 ル方ヲ服シタルハ如何未遂犯ヲ以テ論スヘキナリ何ントナレハ  
 其人ノ幸ニ死セサルハ意外ノ舛錯ナレハナリ

以上講スル所ニシテ第一ノ原素ハ全ク終レリ以下將サニ第二ノ原  
 素ヲ説ク

第二 毒物ヲ施用スルト毒物トハ如何ナルモノヲ云フカ蓋シ豫メ

評者曰ク  
 毒物ニシテ  
 其種類ヲ定メ難シト雖正人ヲ死ニ致スヲ得ル性質ヲ有スルモノヲ  
 云フ然レモ酒ノ如キモ多量ニ用ユレハ人ヲ死セシムルコトアリテ豫  
 メ此ニ論定スル能ハス故ニ其事實ニ付キ鑑定人ヲシテ鑑定セシメ  
 裁判官其毒物タルヤ否ヤヲ認定スヘキモノナリ然レモ人ヲ死ニ致  
 スノ性質アルコトヲ要ス故ニ假令人ヲ殺スノ目的ニテモ若シ死ヲ與  
 フルニ足ラサル物ヲ服セシメ單ニ苦痛ヲ與ヘタルノミナル時例ヘ  
 ハ腹痛等ヲ爲サシメタル如キハ如何此時ハ毒殺ヲ以テ論スルヲ得  
 ト云ハカラス第三七條ニ依テ所斷スヘキモノトス何ントナレハ到底死  
 セシムル能ハサルモノナルカ故ニ毒殺ノ點ヨリ見レハ不能犯ナレ

其種類ヲ定メ難シト雖正人ヲ死ニ致スヲ得ル性質ヲ有スルモノヲ  
 云フ然レモ酒ノ如キモ多量ニ用ユレハ人ヲ死セシムルコトアリテ豫  
 メ此ニ論定スル能ハス故ニ其事實ニ付キ鑑定人ヲシテ鑑定セシメ  
 裁判官其毒物タルヤ否ヤヲ認定スヘキモノナリ然レモ人ヲ死ニ致  
 スノ性質アルコトヲ要ス故ニ假令人ヲ殺スノ目的ニテモ若シ死ヲ與  
 フルニ足ラサル物ヲ服セシメ單ニ苦痛ヲ與ヘタルノミナル時例ヘ  
 ハ腹痛等ヲ爲サシメタル如キハ如何此時ハ毒殺ヲ以テ論スルヲ得  
 ト云ハカラス第三七條ニ依テ所斷スヘキモノトス何ントナレハ到底死  
 セシムル能ハサルモノナルカ故ニ毒殺ノ點ヨリ見レハ不能犯ナレ

(第二百九十三條)



ハナリ

茲ニ最モ困難ナル問題アリ純乎タル毒殺ヲ以テ知ラス識ラス夫ノ  
 消毒物タル牛乳ノ如キモノニ混和シテ吞マシメタルハ毒殺ヲ以  
 テ論スヘキ乎如何ン此點ニ付テハ學者間種々ノ議論アリ佛蘭西大  
 審院ニテハ之ヲ不能犯トナシ無罪トセリ嘗テ一婦アリ其夫ヲ毒物  
 センカ爲メ毒物ヲ葡萄酒ニ混シテ飲マシメタルニ二者相調和シ毒  
 質變シテ無害質トナリ死ニ至ラザリシヲアリ於是審判ノ末重罪裁  
 判所ニテハ有罪ト宣告セシニ大審院ニ於テ之ヲ破毀シ無罪ノ言渡  
 ヲ爲シタリ其理由ハ毒物ヲ貯フルハ豫備ノ所爲ナレハ法律ノ問フ  
 所ニアラス而シテ一步ヲ進ミ之ヲ與ヘタルハ既ニ毒質ヲ失  
 シ到底人ヲ殺スノ所爲ヲ生セサルモノナレハ不能犯ナリ故ニ無罪  
 トナスヘキナリト然レモ我輩ヲ以テ觀レハ葡萄酒ヲ吞ムニ當テ毒

大  
 審  
 院  
 佛  
 蘭  
 西  
 大  
 審  
 院  
 佛  
 蘭  
 西  
 大  
 審  
 院  
 佛  
 蘭  
 西  
 大  
 審  
 院

藥ヲ與ヘタルニ因リ其人ノ死セサル如キハ是レ偶然消毒藥ニ出遇  
 フタルモノニシテ意外ノ舛錯ニ因テ遂ケサルモノナレハ毒殺ノ未  
 遂ヲ以テ論スヘキモノナリ

又此ニ人ヲ殺サント欲シ毒物ヲ與ヘタル元來其毒物タル人ヲ死ニ  
 致スニ足ラサル物ナレモ之ヲ他物ニ混シタルヲ以テ其調和ニ依リ  
 偶然眞ノ毒物トナリ死ニ致シタルハ如何是レ全ク既遂犯ニシテ  
 充分罪アリトス何ントナレハ其眞ノ毒物トナリシハ實ニ偶然ナリ  
 ト雖モ己ニ犯者ノ目的ヲ充分ニ達シタルモノナレハナリ又毒物ヲ  
 少々宛數日間ニ與ヘ遂ニ死ニ至ラシメタルハ如何此場合モ亦毒  
 殺ヲ以テ論スヘキモノナレモ證據ヲ擧グルニ容易ナラサレハ罰ス  
 ル場合甚ダ少カルヘシ

(第二百九十三條)

本條ノ成文ニ依レハ毒物ヲ施用シ云々トアルノミナレモ人ヲ殺ス



ノ目的ヲ以テ施用シタルニ非ラサレハ不可ナリ草案ニハ人ヲ殺ス  
ル目的ヲ以テ毒藥ヲ施用シ云々トアリタリ  
又人ヲ殺シタルモノハ謀殺ヲ以テ論シ云々トアリ這ハ其故殺ニ係  
ルト豫謀ニ出タルトノ別ナク蓋シ謀殺ヲ以テ論スルノ意ナリ而シ  
テ此ニ單ニ人ヲ毒殺シタル者ハ死刑ニ處スト云ハスシテ故サラニ  
謀殺ヲ以テ論シ云々ト記シタルハ畢竟便宜上ニ出テタルモノナル  
ヘシ何ントナレハ若シ本條ノ如クスレハ謀殺中自カラ毒殺ヲ含蓄  
スヘシ若シ然カセサレハ他ノ個條ノ人ヲ謀殺故殺シタル者ハ云々  
ト記載ス可キ場合ニ於テ毎回謀殺故殺毒殺シタル者云々ト列記セ  
サルヘカラサレハナリ

第二百九十五條 支解折割其他慘刻ノ所爲ヲ以テ人  
ヲ故殺シタル者ハ死刑ニ處ス

故殺ハ元來無期徒刑ナルニ本條ニ於テ之ヲ死刑ニ處スルトセシハ  
前條ノ例外ナリ本條モ亦左ノ二條件ヲ要ス

第一 慘酷ノ所爲アルコト

第二 故殺ノ所爲アルコト

佛蘭西刑法ニモ本條ト同一ノ正文アリ我刑法ハ佛法ヨリ出テタレ  
凡其之ヲ設ケタル所以ニ至テハ異ナレリ佛蘭西刑法ノ本條ト同一  
ノ條ヲ設ケタル頃ハナボレオン一世ノ時即チ革命ノ際ニシテ諸所  
ニ戰爭起リ人民皆役ニ出テ爲メニ家ニ在ラサレハ暴徒白晝ニ横行  
シ人ノ金銀財寶ヲ奪掠セリ而シテ或ハ之ヲ防禦シ或ハ之ヲ告訴告  
發スルモノアレハ五官ヲ傷ケ四肢ヲ折リ其他慘酷實ニ見ルニ忍ビ  
サルノ所爲ヲ以テ殺シタルニ因リ之ヲ防カンカ爲メニ設ケタルナ  
リ我刑法ハ之ト異ナリ只慘酷ノ所爲ハ最モ惡ム可キヲ以テ之ヲ防

(第二百九十五條)



カンカ爲メニ設ケタルナリ  
支解折割トハ身首處ヲ異ニスル如キヲ云フニアラス手足ヲ折斷シ  
五體ヲ分割スルノ類ヲ云フ慘刻ノ所爲トハ有形上ノ事ニシテ夫ノ  
人ノ心魂ヲ惱シ精神ニ苦痛ヲ與フル如キ無形ノ所爲ヲ云フニアラ  
サルナリ而シテ此慘刻トハ如何ナル所爲ヲ指シテ云フカ定解ナキ  
ヲ以テ明言スル能ハス因テ事實上ニ付テ裁判官ノ判定ニ任セサル  
可ラス

(第五十七回)

第二百九十六條 重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又  
ハ己ニ犯シテ其罪ヲ免カル、爲メ人ヲ故殺シタル  
モノハ死刑ニ處ス

元來故殺罪ノ刑ハ無期徒刑ナリ然ルニ本條之ヲ死刑ニ處スルハ例  
外ニシテ我刑法中故殺ヲ死刑ニ處スル場合三アリ第一ハ祖父母父  
母ニ對スル罪第二ハ第二百九十五條第三ハ本條ナリ又第二百九十  
三條ノ毒物ヲ施用シ人ヲ故殺シタルモ死刑ナレハ例外ノ如クナ  
レモ然ラス何ントナレハ毒殺ハ假令故殺タルモ謀殺ヲ以テ論スル  
ノ明文アレハナリ以上三個ノ場合ヲ除クノ外例外ナルモノナシ  
本條ニ重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又ハ己ニ犯シテ其罪ヲ免ル  
、爲メ云々トアリ我刑法中其罪ヲ免ル、ノ文字屢之レ有レモ甚  
、妥當ナラサルカ如シ元來法律上ヨリ科スルモノハ刑ニシテ罪ハ犯  
人自ラ犯ス所ノ所爲ナリ然ラハ一旦犯シタル以上ハ其罪ヲ免ルハ  
キ道理ナシ故ニ其罪ヲ免ル、トハ其刑ヲ免ル、ノ意ナリ  
本條ノ罪ハ必ス二罪ヲ犯シタル場合ニシテ其犯スヤ同時ナラサル  
四百六十一

(第二百九十六條)



モ可ナリ然レ其故殺ノ罪ハ他ノ罪ノ原因トナリ或ハ結果トナリテ相關係スルヲ要ス然リ而シテ本條ノ故殺罪ノ刑ヲ重クセシハ二罪ヲ犯シタルカ爲メナリ此刑ヲ重クスルハ理ニ適スルヤ否ヤ或學者ハ之ヲ非難シテ曰ク重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ人ヲ殺スハ大抵謀殺ナルヲ以テ自然死刑トナルヘキモノニシテ別ニ本條ヲ設ケ其刑ヲ重クスルノ必用ヲ見サルナリ且ツ第二百九十五條ノ如キ故殺ナリト雖レ其所爲慘刻ヲ極ムルニ因リ其刑ヲ重クセサル可ラサレレ本條ノ場合ニ於テハ單純ノ故殺ニシテ第二百九十五條ノ如キ加重ス可キ性質ヲ備ヘサルモノナリ然ラハ重罪輕罪ヲ犯スカ爲メニスルト否ヤトニ因テ其性質ヲ變スルモノニアラス豈其刑ヲ加重スルノ理アラシヤ故ニ之ヲ加重スルハ其當ヲ失シタルモノト云ハサルヲ得ス例ヘハ鑑札ヲ所持セスシテ銃獵ヲ爲スモノアリ適シテ巡査

ノ來ルニ遇ヒ其罪ノ發覺セシトテ恐レ巡査ヲ銃殺シタリ此場合ハ無鑑札ノ犯罪ヲ免レンカ爲メ故殺シタルモノナレハ本條ニ依リ死刑ナリ然ルニ鑑札ヲ有スル獵夫銃獵ノ際常ニ宿怨アル巡査ニ遇ヒ之ヲ故殺シタル時ハ如何此場合ハ純乎タル故殺ニシテ無期徒刑ナリ然レ實際ニ付テ之ヲ見レハ何レモ同一ニシテ此二例中何程ノ差違カアル反テ前例ヨリ後例ノ罪重キカ如シ然ルニ前例ハ其刑重ク後例ハ反テ輕シ豈不權衡ト云ハサル可ケンヤ故ニ第二百九十六條ニ於テ刑ヲ加重スルハ誤レリト

此說ヤ理論ニ適合セルカ如シト雖レ能ク本條ヲ斷味セハ亦取ルニ足ラサルノ論タルヲ知ルナリ本條ニ重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ云々トアレハ未ダ重罪輕罪ヲ犯サ、ルモ死刑ニ處ス可キ如クナレレ決シテ然ラスニ罪共ニ成立セサレハ本條ノ罪トナラス故ニ明

(第二百九十六條)



日重罪輕罪ヲ犯サンカ爲メ今日人ヲ故殺シタルニ犯者直チニ捕ニ就キタル如キハ未來ノ犯罪ヲ罰スル能ハサレハ第二百九十四條ニ問フ可クシテ本條ヲ以テ論スルヲ得ス由是觀之其二罪互ニ原因結果トナリ相關係スルヤ否ヤニ注意シ爲メニノ字ノミニ拘泥スヘカラス今前例ニ付キ之ヲ說破センニ獵夫ノ怨ヲ報セン爲メ巡査ヲ殺シタルハ其ノ刑甚ダ重カルヘク無鑑札ノ罪ヲ免ル、爲メ故殺シタルハ其刑輕カルヘキ如クナレト決シテ然ラス刑ヲ免ル、爲メ巡査ヲ故殺シタル罪重シトス何トナレハ己ニ一罪ヲ犯シ之ヲ免レン爲メ又一罪ヲ犯シタルモノナレハナリ是レ前例ノ後例ヨリ重キ所以ニシテ又論者ノ說取ルニ足ラサル所以ナリ

重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又己ニ犯シテ其罪ヲ免ル、爲メ人ヲ故殺スルトハ其二罪別箇ナルヲ要ス故ニ例ヘハ此ニ一人アリ甲

乙二人ト爭鬪シ一時ニ敵シ難キヲ以テ先ツ甲者ヲ殺シ後乙者ヲ殺シタル如キハ決シテ本條ノ問フ所ニ非ラス通常ノ故殺ニシテ一罪ナリ何ントナレハ一舉二人ヲ殺シタルモノナレハナリ

爰ニ尤モ困難ナル問題アリ夫ノ第三百七十七條ニ規定スル所ノ親屬互ニ相盜ムモ罪トナラス然ラハ之ヲ犯ス爲メ二人ヲ故殺シタルハ本條ヲ適用スルヤ否ヤ若シ親屬相盜ヲシテ不論罪ニアラスシテ其罪ヲ宥恕シ免刑スルモノトセハ本條ヲ適用スルヲ得可シト雖モ該條ノ正文ヲ以テ免刑スルニ非スシテ罪トシ論セサルモノトセハ本條ヲ適用スルヲ得サルニ似タリ故ニ其結果奇怪ナルコトアリ即チ他人ノ物ヲ盜ムカ爲メ二人ヲ故殺シタルハ死刑ニシテ父ノ物ヲ盜マントシテ父ヲ故殺シタルハ父ヲ故殺シタルノ故ヲ以テ死刑ニ處スト雖モ本條ニ依テ死刑トナラサルナリ又此時ニ於テ兄弟



姉妹ヲ故殺シタルハ單ニ故殺ノ罪トナリ無期徒刑ニ處スルノミ  
 如此奇怪ノ結果ヲ生スル所以ハ畢竟親屬相盜ヲ以テ罪トシ論セス  
 ト解スルニ因ル若シ其刑ヲ免ストスレハ斯ル不都合ナシ故ニ親屬  
 相盜ハ其罪ヲ論シ唯其刑ノミヲ免スモノト解セサル可ラス  
 又他人ノ刑ヲ免レシムル爲メ人ヲ殺シタルハ如何ニ本條ヲ適用  
 スルヲ得ス草案ニハ自己ノ爲メニシ他人ノ爲メニスルヲ分タス死  
 刑ニ處ストアリタリ然ルニ之ヲ削除セシハ蓋シ他人ノ爲メニスル  
 モノハ已ニ他人ノ刑ヲ免レシムルノ罪ヲ犯シタルモノナレハ其罪  
 ヲ犯スニ便利ナル爲メ人ヲ故殺シタルモノトシテ論スルヲ得レ  
 ハ此ニ掲クルモ無用ナリトテ削除セシナランカ然レモ他人ノ刑ヲ  
 免レシムル爲メ人ヲ殺スモ重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ人ヲ故  
 殺シタルノ罪ト爲スヲ得サルヲアリ何ントナレハ刑法ニ於テハ犯

罪人ヲ隱匿シ又ハ隱避セシメタルハ非サレハ罪ト爲サ、ルヲ以  
 テ單ニ犯罪人ヲ免レシムル爲メ人ヲ故殺スルモ重罪輕罪ヲ犯ス爲  
 メト云フヲ得スシテ唯故殺ノ一罪ヲ犯シタルノミナレハナリ故ニ  
 此場合ハ草案ノ如ク明文ヲ掲クルヲ至當トスルニ似タリ

第二百九十七條 人ヲ殺スノ意ニ出テ詐稱誘導シテ

危害ニ陷レ死ニ致シタル者ハ故殺ヲ以テ論シ豫メ

謀ル者ハ謀殺ヲ以テ論ス

詐稱誘導シテ危害ニ陷ルトハ欺テ腐朽セル橋梁ヲ渡ラシムル如キ  
 又玉籠メシタル鐵砲ヲ玉籠セサルモノト云ヒ自身ニ當テ、放タシ  
 ムル如キヲ云フ此場合ニ於テ死ニ致シタルハ純乎タル故殺ナリ  
 何ソ故ヲニ故殺ヲ以テ論ス云々ノ文字ヲ用ヅルヲ要センヤ何ント

(第二百九十七條)



ナレハ詐稱誘導シテ腐朽セル橋梁ヲ渡ラシメ又玉籠シタル鐵砲ヲ  
自身ニ當テ、放タシムルハ即チ人ヲ殺スノ手段ナレハナリ若シ本  
條ナキモ故殺ナレハ故殺ニ處シ謀殺ナレハ謀殺ニ處スヘキナリ是  
ヲ以テ觀レハ本條ナキモ可ナリ然ルニ此ニ本條ヲ規定セシハ何ノ  
必要アリテ存スルカ蓋シ本條ハ己レ自ラ手ヲ下シテ人ヲ殺シタル  
ニ非サルヲ以テ或ハ疑ヲ來サンコトヲ恐レ注意ノ爲メニ之ヲ規定セ  
シモノナラン

本條ヲ構造スルニハ左ノ條件ヲ要ス

- 第一 詐稱誘導スル事
- 第二 危害ニ陥ル、事
- 第三 死ニ致ス事

若シ詐稱誘導シテ危害ニ陥レタルモ死セザリシキハ本條ノ罪トナ

ラス又危害ノ生セサル時モ本條ノ罪トナラス例ハ強盜ノ出ル路  
ヲ通行セシメ之ヲ殺サント欲セシニ強盜出テスシテ危害ノ生セサ  
ルキノ如キハ未遂犯ニ非ラスシテ無罪ナリ何ントナレハ危害ニ陥  
ルノ一要件ヲ欠クヲ以テナリ又腐朽シタル橋梁ヲ渡ラシメシニ  
其人橋下ニ陥リタルモ水練ニ達シタルカ爲メ死ニ至ラサルキハ如  
何是レ亦本條ノ未遂犯ニアラスシテ無罪ナリ但溺レテ水ヲ飲ミタ  
ル等ノ害ヲ受ケタル點ニ付テハ別罪アリ如斯結果ヲ來スモノハ本  
條ノ明文ニ詐稱誘導シテ危害ニ陥レ死ニ致シタル者ハ云々トアリテ  
此三要件ヲ闕クキハ本條ノ罪トナラサルカ故ナリ草案ニ依テ見レ  
ハ詐稱誘導シテ直接ニ死ヲ原因セシメタル者ハ云々トアリタリ亦  
以テ右ノ解ノ妄ナラサルヲ見ルヘシ

第二百九十八條 謀殺故殺ヲ行ヒ誤テ他人ヲ殺シタ  
(第二百九十八條)



ル者ハ仍ホ謀故殺ヲ以テ論ス

本條ハ例ヘハ甲ヲ殺サントシテ誤テ乙ヲ殺シタルキノ如キヲ云フ此ニ謀殺故殺ヲ以テ論スト特書セシハ何ノ故ナル乎古代學者ノ論三派ニ分レタルニ因リ世人ノ疑惑ヲ起サンコトヲ恐レタルカ爲メナリ其第一説ハ甲ヲ殺サントシテ誤テ乙ヲ殺シタル時ハ元來乙ヲ殺スノ意ナキモノナレハ過失殺ヲ以テ論ス可キモノナリト第二説ハ謀殺故殺ヲ以テ論ス可キモノナリト第三説ハ總テ故殺ヲ以テ論ス可キモノナリト其所以ハ謀殺ハ豫メ謀ルヲ要ス然ルニ此場合ハ甲者ニ付テハ豫メ謀リタルモノナレト乙者ニ付テハ豫メ謀リタルコトナケレハ謀殺ノ殺ト雖ト雖トセサル可ラスト此説一理アルカ如シト雖ト誤説タルヲ免レズ本條ノ場合ニ於テ誤テ他人ヲ殺シタルモ過失殺ニアラサルハ明ナリ而シテ又故殺ノミト云フ可カラズ謀

殺ノキ誤テ他人ヲ殺セハ則チ謀殺ナリ故殺ノキ誤テ他人ヲ殺セハ則チ故殺ナリ何ントナレハ謀殺ヲ犯シタルニ其結果誤テ他人ヲ殺スモ己ニ謀殺ノ性質ヲ帶ヒタレハ其結果ニ依リ性質ヲ變スルモノニアラサレハナリ

又此ニ一説アリ謀殺故殺ヲ以テ人ヲ殺サント欲シ刀ヲ振り擧ケシニ後ニ立チ居タル人ノ咽ヲ刺シ其人ヲ殺シタル如キ又人ヲ殺サン爲メ鎗ヲ以テ突キタルニ其人ノ後ニ居タル人ヲモ突キ殺シタル如キ皆誤殺ナレハ本條ヲ以テ論ス可キモノナリト是レ誤謬モ亦甚タント云フ可シ如何ントナレハ是レ純粹ノ過失殺ニシテ謀殺故殺ノ性質ヲ含有スルモノニアラサレハナリ今此ニ第一節ヲ終リ第二節ヲ講セントスルニ先チ聊カ決闘ノ事ヲ述ヘント欲ス請フ次回ヲ俟テ之ヲ説ン

(第二百九十八條)



(第五十八回)

決闘論

決闘ノ事ハ歐洲各國ニ屢行ハル、所ニシテ其處分法ニ付テハ大ニ議論アル所ナリ我國ニ於テ之ヲ講スルモ未タ其利益ヲ見ス何ントナレハ我國ハ幸ニシテ決闘ノ慣習ナケレハナリ然レモ他日之ヲナスモノ無キコアラズ良シヤ我邦人之ヲ爲サ、ルモ他日治外法權ノ回復ヲ得タルキニ方テ外國人ノ爲メニ其處分ヲ定ムルコト亦必要ナキコアラサレハ法學上必ス研究スヘキコトナリト信ス抑モ決闘トハ如何ナルモノヲ云フ乎今其大略ヲ說シ我國古來果合ナルモノアリテ略ホ相類似セリト雖モ其方法ハ甚タ粗ナリ蓋シ其初メハ武人ノ政事ヲ執リシヨリ起リタルモノニシテ平民ノ之ヲ初メシモノニ非サルナラン

歐洲ニ於テ決闘ノ起原ハ何レニアルヤヲ知ラサレモ古ハ裁判所ノ決闘ナルモノアリ即チ裁判所ニ於テ原被告兩造確乎タル證據ナク是非曲直ヲ定メ難キ時ハ其極之ヲ決闘ニ訴ヘ勝敗ヲ決セシメ勝者ヲ以テ直者トナセリ蓋シ現今歐洲各國ノ決闘ハ是等ニ原因セシナラシ此裁判所ノ決闘ハ古昔羅馬時代ニ行ハレタリシカ其後王政武門ノ盛ナルニ至リテ決闘モ益々盛ナルニ至レリ然レモ之ヲ爲スモノハ多ク武人ニシテ平民ノ爲スコトハ甚タ稀ナリ此決闘ヲ爲ス原因ハ讒謗罵詈或ハ婦女ヲ爭フ等種々アレモ甚タシキニ至テハ己レノ平常惡ム所ノモノニ對シテ直チニ之ヲ挑ムコトアリ此決闘ノ行ハル、最モ多キハ歐洲中佛國ヲ以テ巨擘トナス故ニ其刑ヲ嚴ニシ其証人及ヒ之ヲ催シタルノミニテ未タ實行セサルモノヲモ死刑ニ處セリ斯ク嚴刑ナルニモ拘ハラズ尙ホ其盛ンニ行ハレ

(第二百九十八條)



且ツ裁判官モ刑ノ甚タ嚴ナルヲ見テ多クハ之ヲ適用セザリシ加之國王モ亦之ヲ嚴禁スレド或ル場合ニハ之ヲ誘導スル事アルヲ以テ未ク其跡ヲ絶ツニ至ラザリシ

以上ハ中世ノ頃ナリシカ以後路易十四世ノ如キハ尤モ之ヲ嚴禁シ殆ント地ヲ拂フニ至レリ然ルニ大革命アリテヨリ遺風復々勃興シ新聞國會等ニ於テ議論ノ協ハサル所遂ニ決闘ヲ爲スニ至レリ

中世以後ハ決闘ノ方法古ヨリ大ニ綿密トナレリ初メテ相會セシ者ト議論ヲ爲シ其議論ノ決セサルヨリ決闘ヲ爲ス時ハ先ツ一方ヨリ名刺ヲ出シ一方ヨリモ亦名刺ヲ出シ次ニ各二人ノ証人ヲ出ス此証人周旋シテ成ル可ク之ヲ和解セシムレド若シ到底和解シ能ハサルトハ遂ニ決闘ヲ爲サシム斯ク決闘ヲ爲スト決スル時ハ兵器ヲ擇ム其兵器トハ刀劍或ハ短銃ヲ以テス又決闘ヲ爲スノ方法ハ種々アリ

テ創傷ヲ受クレハ止ムルトシ又ハ死ニイタルマテ闘争スル等種々アリ國會議員ノ決闘ノ如キ多クハ双方短銃ヲ持シ遠隔ノ距離ニ在テ可成的中セサル様ニ發放ス此ノ如キコニテ議論ヲ決シタリトスルハ實ニ兒戲ニ均シク笑フ可キノ至リナリ

決闘ノ何物タルヤハ大凡以上述フル所ノ如シ以下之ヲ法律ニ照シテ說シ決闘ハ必要ナルモノナルヤ否ヤ學者中決闘ハ國ノ勇氣ヲ保チ淳朴ノ風ヲ存スルモノナリト論スル者アレド野蠻ノ極ニシテ國家ノ風俗ヲ害スル惡習ナリ

此決闘ノ罪ハ謀殺故殺中何レニ屬スル乎之ヲ定ムル前ニ當テ注意スヘキハ此ニ所謂決闘トハ公明正大ノ決闘ニシテ各證人ヲ立テ、爲スモノ是ナリ彼ノ人ノ虚ニ乘シ背後ヨリ之ヲ殺ス如キハ余カ所謂決闘ニ非サレハ勿論謀殺ヲ以テ論スヘキモノナリ今各國ノ刑法



ヲ閱覽スルニ多クハ決闘ヲ以テ特別ノ罪ト爲シ重キハ國外ニ追放  
シ或ハ禁錮ト爲スニ過キス獨逸奧斯利ノ如キ是ナリ  
英佛日本ノ如キハ刑法ニ於テ此事ヲ規定セス佛國ノ如キ古昔ハ之  
ヲ刑法ニ掲ケテ嚴罰セシモ現行刑法ニハ此事ナシ故ニ時々其草案  
ヲ國會ニ出シ議員ヲシテ議定セシメントスレモ皆之ヲ知ラサル如  
クシテ議スル者ナシ蓋シ此法ヲ議定スルハ甚ク難事ニシテ且法律  
ヲ以テ禁スル時ハ古來ヨリ人ノ好ム所ノ決闘ヲ爲スヲ得スシテ却  
テ人意ニ背ケハナリ

大審院ニ於テ以前ハ決闘ヲ爲ス者ヲ無罪トセリ即チ公訴局ニ於テ  
公訴ニ附ス可ラサルモノトシ無罪ノ言渡ヲ爲セシニ因リ檢事之ヲ  
上告シタレモ大審院モ亦之ヲ無罪トセリ後チ千八百三十七年ニ至  
リ大審院ニ於テ始メテ之ヲ有罪ト判決セリ此決闘ノ事ハ重罪ニ係

ルヲ以テ重罪裁判所ニ於テ陪審官ハ大抵之ヲ無罪ト爲スニ因リ大  
審院ノ判決ヲ經ルコトナシ然ルニ此時大審院自ラ判決セシハ重罪公  
訴局ニテ公訴ニ附ス可カラサルモノトシ檢察官ヨリ之ヲ大審院ニ  
上告シタルニ因リ大審院自ラ之ヲ判決スルコトナリタルナリ  
千八百三十七年大審院之ヲ有罪トセシヲ以テ議論紛々タリ其理由  
トスル所ハ立法者ハ決闘ヲ有罪ト認メス社會モ亦之ヲ有罪トセサ  
ル慣習ナルニ大審院獨リ之ヲ有罪トシテ罰スルハ專恣ニシテ大審  
院ハ己レノ權限ヲ超越シ法律ヲ設立シタルモノナリト又一方ノ論  
者ノ說ハ大審院ハ法律ヲ解釋スルニハ大ニ權力アルヲ以テ決闘ヲ  
有罪トセシハ新法ヲ立テタルニ非ス法ヲ解釋シタルモノナリト  
我國ニ於テハ之ヲ如何スヘキヤ律ニ明文ナキヲ以テ一ニ理論ニ因  
テ決セサルヲ得ス然ラハ則チ無罪トス可キカ將タ謀故殺或ハ過失



殺トス〜キカ請フ左ニ之ヲ論セン

我刑法ハ殺人ヲ必用殺憤怒殺過失殺故殺謀殺ノ五個ニ區別セリ今  
決闘ハ此殺罪中ノ何レニ屬スルヤヲ説カン

公明正大ノ決闘タルキハ正當防衛ヲ以テ論スルヲ得ルカ曰ク否ナ  
正當防衛ノ要件ヲ具備セス何ントナレハ正當防衛ハ事火急ニ生シ  
不得已場合ニ遇フタルキヲ云フモノナレハナリ或論者ハ決闘ヲ爲  
ス場合ニ至テハ互ニ我生命ヲ防衛スルモノナルヲ以テ正當防衛ナ  
リト云ヘリ此論不可ナリ夫レ決闘ハ正當防衛ニ必要ナル避ク能ハ  
サルノ要件ヲ欠クノミナラス双方最初ヨリ契約シテ爲スモノニシ  
テ己ムヲ得サルニ出テタルニアラス故ニ之ヲ正當防衛即チ必用殺  
トスルヲ得サルナリ

又憤怒殺即チ暴行ヲ受ケ怒ヲ發シ人ヲ殺シタルモノト爲スヲ得可

キヤ曰ク否ナ假令暴行ノ專ニ原因シタル決闘ナルモ暴行ヲ受ケ直  
チニ爲シタルニアラサルニ因リ亦暴行殺ト爲スヲ得サルナリ

又過失殺ト爲スヲ得サルヤ明カナリ何ントナレハ過失殺ハ殺意ナ  
キヲ要ス然ルニ決闘ハ充分殺意アレハナリ

然ラハ故殺ナルカ曰ク否ナ故殺トハ其場ニ於テ直ニ殺意ヲ生スル  
コトヲ要スルモノナルニ決闘ハ熟慮シテ準備ヲ爲シタル後ニ行フモ  
ノナルカ故ニ故殺トスルヲ得ス

終リニ謀殺ニ入ルヤ否ヤニ付テハ種々ノ議論ヲ決定スルノ點ニシ  
テ若シ謀殺ニ入ラストセハ律ニ正條ナキヲ以テ無罪トセサル可ラス  
學者之ヲ論シテ曰ク決闘ハ謀殺ニ入ラス凡ソ謀殺ニハ死スル事殺  
意アル事豫謀アル事ノ三原素ヲ要ス而シテ此殺意トハ只殺スノ意ア  
ルノミニテハ謀殺ト云フヲ得ス例ヘハ兵隊ノ戰場ニ於テ人ヲ殺シ



獄丁ノ刑場ニ於テ人ヲ殺ス如キ殺意アルモ罪トナラス故ニ殺ス權  
 利ナキ者惡意ヲ以テ殺スヲ要ス又豫謀ニモ詐欺ノ意アルヲ要ス  
 例ヘハ人ノ虛ニ乘シ背後ヨリ不意ニ殺シ或ハ道ニ要撃スルカ如キ  
 是レナリ然ルニ決闘ハ詐欺ノ意ヲ以テ豫備シ竊ニ人ヲ殺スカ如キ  
 卑劣ノ所爲ニアラス公明正大ノモノナリ而シテ謀殺ハ多ク暗夜ニ爲  
 シ且ツ人ヲ殺スヲ目的ト爲スト雖モ決闘ニ至テハ否ラス公然ト爲  
 スモノニシテ人ヲ殺スヲ第一ノ目的ト爲スニ非ラス我耻辱ヲ雪ク  
 ヲ以テ第一ノ目的ト爲ス而シテ其之ヲ爲スヤ双方ノ約束ヨリ出ツル  
 モノニシテ其死スルヤ自ラ招キタルモノナレハ謀殺ト相異ナルヤ  
 明カナリ加之此約束タルヤ人ヲ目的トスルモノナレハ民法上ヨリ  
 云ハ、無効ノ約束ナリト雖モ固ト双方ノ約束ヨリ起ルモノナレハ  
 之ヲ有罪無罪トスル點ニ至テハ大ニ關係ヲ有スルモノニシテ無罪

トスルモ敢テ不可ナルヲ無シ  
 夫レ如此決闘ト謀殺トハ氷炭相容レサル如ク異ナルモノニシテ謀  
 殺ヲ以テ論スルヲ得サルヤ明カナリ若シ之ヲ謀殺ナリトセハ双方  
 死セサルキハ如何スヘキヤ例ヘハ曲リタル銃ヲ以テ互ニ遠キ距離  
 ニテ決闘シ死セサル如キキハ如何謀殺未遂犯ヲ以テ論セサル可カ  
 ラサルノ結果ヲ生セン又刀劍ヲ以テ決闘シ少シク創傷ヲ爲シ止メ  
 タルキハ其傷ヲ受ケタル者モ謀殺未遂犯ノ共犯者トナリ被害者自  
 ラ罪トナル豈奇怪ナル結果ナラスヤ  
 又決闘ニハ證人アリ若シ決闘者ヲ謀殺トセハ此證人モ從犯トセサ  
 ル可ラス然レモ證人ハ最初ハ周旋シテ可及的決闘ニ至ラサシメ  
 ント欲スレモ双方承諾セサルヨリ己ムヲ得ス兵器ヲ擇テ之ニ與フ  
 ルモノニシテ彼ノ一般ノ犯罪ノ從犯ノ器具ヲ給與スルトハ大ニ其



性質ヲ異ニスルモノナレハ從犯トスルヲ得ス  
 斯ク決闘ト謀殺トハ大ニ差異アルヲ以テ謀殺トスルヲ得ス然ラハ  
 之ヲ處スル如何律ニ正條ナキヲ以テ無罪トセサル可カラサルナリ  
 ト  
 以上學者ノ說至當ナルカ如クナレハ余輩ノ考フル所ニ依レハ此論  
 誤レリ抑モ謀殺ナルモノハ詐欺ノ性質ヲ有スルモノナレハ立法者  
 ノ法ヲ立テ刑ヲ定ムルヤ謀殺ニ詐欺ノ有無ヲ必要トナサズ只豫メ  
 謀テ人ヲ殺スノ點ニ付テ罰スルモノナリ夫ノ親ノ復讐ノ如キ艱難  
 辛苦遂ニ其讐ニ廻リ遇ヒマル時ハ自ラ復讐スル所以ヲ明言シテ行  
 フ者ニシテ毫モ詐欺ノ意ヲ有セスト雖モ謀殺タルハ疑ヲ容レサル  
 ナリ是ヲ以テ觀レハ立法者ハ詐欺ノ意アルト否ヤトヲ問ハス只豫  
 メ謀ルヲ以テ謀殺ニ必要ナル原素トスルナリ故ニ決闘モ亦謀殺ヲ

以テ論セサル可カラズ  
 又論者ハ決闘ノ約束ハ民事上無効ノモノナレハ罪ノ有無ヲ論スル  
 點ニ至テハ大ニ關係アルモノナリト論スレハ是レ亦誤レリト云フ  
 可シ何ントナレハ元來無効ノ約束ハ取消スヘキ約束トハ異ニシテ  
 畢竟初メヨリ其痕跡ナキモノナレハ假令約束ヲ以テスルモ罪ノ有  
 無ヲ決スルコト付テハ毫モ影響ヲ及ホスヘキ道理ナケレハナリ又論  
 者ハ結果ノコトニ付テ論スレハ今殺意ヲ以テ決闘シタルモ假令死  
 ニ至ラスシテ止ミタルモ尙モ謀殺未遂犯ヲ以テ論セサル可カラズ  
 又論者ハ負傷セル被害者モ加害者ト共犯人トナル如キハ不都合ナ  
 リト論スレハ是レ共犯ヲ以テ罰ス可キモノニアラス双方何レモ別個  
 ナル謀殺ノ犯罪人ヲ以テ罰ス可キモノ也若シ之ヲ共犯者トスレハ  
 彼ノ盜賊ノ被害者モ盜賊ト共犯ナリト云ハサル可ラサルニ至ル笑



フヘキノ至リニ非スヤ又證人ヲ從犯トスルハ不可ナリト論スレモ  
 是レ亦取ルニ足ラサルナリ試ミニ看ヨ今此ニ盜ヲ爲ス者アラソニ  
 説諭シテ之ヲ止メシメントシタリト雖モ遂ニ用ヒサルヲ以テ之ヲ  
 幫助シ其志ヲ成サシムル如キ假令最初之ヲ説諭スルモ後ニ之ヲ幫  
 助セハ充分從犯ヲ以キ論スルヲ得ヘキ也證人ノ如キモ之レト同一  
 ニシテ初メテ諭スモ竟ニ其幫助ヲ爲セルヲ以テ從犯ナリトス是ニ  
 由テ決闘ハ謀殺ヲ以テ論スヘキモノナリ  
 然レモ決闘ハ一般ノ謀殺トハ幾分カ異ナル所ナキニアラサルヲ以  
 テ特別ノ刑ヲ設クルハ大ニ賛成スル所而シテ謀殺ノ例外トシテ設  
 クルヲ要ス但現今我邦ノ如キハ之ヲ設ケサルヲ可トス何ントナレ  
 ハ未タ此ノ如キ惡風俗アラサルニ法律ヲ立ツレハ反テ之ヲ誘導ス  
 ルノ傾向アレハナリ

此決闘ノ事ハ如何ニ法ヲ嚴ニスルモ到底之ヲ絶止スルコト能ハス何  
 ントナレハ決闘ハ罵詈誶毀及ヒ議論等ニ源因スルモノナレハ決闘  
 ヲ禁セントスレハ其原因タル罵詈誶毀議論ヲ禁セサル可ラス然リ  
 而シテ罵詈誶毀ノ如キハ手眞似或ハ形容ヲ以テスルコトヲ得可ク又ハ  
 頌贊ノ言ヲ吐露シ反テ罵詈誶トナルコトアリテ此等ノ事ハ冥々裏ニ存  
 シ唯其誹毀罵詈誶ヲ受クル者能ク感スルノミニシテ外面ヨリ之ヲ知  
 ル能ハサレハナリ故ニ立法者法ヲ以テ之ヲ禁スルヲ得ス既ニ此原  
 因ニシテ禁止スルヲ得スハ其枝葉タル決闘モ亦禁止スルヲ得サ  
 ルヤ理ノ尤モ親易キモノナリ佛蘭西ニテハ多クハ決闘ヲ以テ無罪  
 ト爲セリ其然ル所以ハ決闘ハ多ク重罪ナルヲ以テ重罪裁判所ノ管  
 轄トナル而シテ重罪裁判所ニハ陪審官アリ此陪審官ハ理由ヲ附スル  
 コトナクシテ有罪無罪ヲ決スルコトヲ得ルノ特權アリ因テ之ヲ無罪ト  
 (第二百九十八條)



決スルニ由ル然レモ只傷ツケテ止メタル如キ決闘ニシテ輕罪裁判所ノ管轄トナリタルモ輕罪裁判所ニハ陪審官ナキヲ以テ之ヲ判決スルニ理由ヲ附セサル可ラス然ルニ決闘ヲ無罪トスルノ理由ナキニ因リ有罪トセリ又公訴局ニテ公訴ニ付ス可カラサルモノトシテ却下シタルモ檢察官之ヲ上告シ大審院ノ管轄トナリタルモ有罪トセリ是レ亦無罪トスルノ理由ナクハナリ故ニ重罪裁判所ノ管轄トナリ陪審ノ判決ヲ經ルモ無罪トナリ他ノ裁判所ノ管轄トナリタルモ有罪トナレリ我邦ノ如キハ陪審官ノ設ケナキヲ以テ無罪トスルモ之レカ理由ヲ付セサルヲ得ス之レカ理由ヲ付セントスルモ到底其理由ナキヲ以テ有罪ト決セサルヲ得ス而シテ其刑ハ謀殺罪ノ刑ヲ適用ス可キモノナレモ一般ノ謀殺トハ多少異ナル所アルヲ以テ裁判官タル者宜シク此ニ注意シ酌量減輕ヲ施スヘシ

(第五十九回)

### 第二節 毆打創傷ノ罪

毆打創傷トハ其字ノ如ク人ヲ打チ傷ツクルヲ云フ、凡ソ立法者罪ノ性質輕重ヲ評定シ至當ノ刑ヲ科スルノ難キ此毆打創傷罪ノ如ク甚シキモノ無シ我刑法ノ如ク一肢ヲ折リタルモ如何兩目ヲ瞎シタルモ如何ト一々場合ニ付テ其刑ヲ定ムルモ大ニ其當ヲ得ルカ如クナレモ是レ只結果ニ因テ罰スルモノニシテ其惡意ノ程度ヲ問フ能ハス例ヘハ此ニ甲乙二人アリ甲者ハ重傷ヲ與ヘント欲シテ人ヲ毆打シ乙者ハ輕傷ヲ與ヘント欲シテ人ヲ毆打シタルニ其結果何レモ同一ノ創傷ナルニ於テハ假令甲者ハ乙者ヨリ惡意大ナルモ同刑ニ處セサルヘカヲサルカ如キ是ナリ故ニ此方法ハ到底完全無欠ノモノト云フヲ得サルナリ然ラハ他ニ方法アリヤ曰クアリ毆打

(第二百九十八條)



創傷ヲ重毆打輕毆打ノ二箇ニ分チ其場合ニ因テ刑ヲ適用スルコトヲ  
一ニ裁判官ニ任スル是ナリ奧斯多利刑法ハ此方法ヲ採リタリト云  
フ然レモ此方法ニ從フキハ裁判官ノ權限廣大ニ失シ自然法律ノ力  
ヲ薄弱ナラシムルノ弊アリテ亦完全ノモノト云フコトヲ得ス是ニ由  
テ之ヲ觀レハ我現行法ノ如キハ他ニ良法ナキニヨリ己ヲ得スシテ  
其一ヲ擇ヒタルモノナリ

第二百九十九條 人ヲ毆打創傷シ因テ死ニ致シタル  
者ハ重懲役ニ處ス

本條ノ罪ヲ構造スルニハ三原素ヲ要ス

第一 毆打創傷スルコト

第二 死ニ致スルコト

第三 故意ヲ以テ毆打シタルコト

第一 毆打トハ管ニ打ツコトノミニアラサズ突クコトモ含蓄セリ又文字

上ニ就テ見ル時ハ毆打トハ物ヲ以テ人ニ對スル時ノミニ如クナレ

モ否ラス人ヲ以テ物ニ對スルキモ毆打ナリ例ヘハ人ヲ石ニ向テ押

倒シタル時ノ如キ是ナリ

第二 死ニ致ストハ殺意ナキヲ要ス若シ殺意アリタルキハ謀殺或

ハ故殺ナリ而シテ此死ニ致ストハ毆打ノ爲メ即時若クハ數日後ニ死

シタルコトナリ然ルニ其創傷ハ些少ナリト雖モ其人ノ身體軟弱ナル

爲メ或ハ被害者ノ攝生疎畧ナルカ爲メ或ハ醫師ノ不注意ノ爲メ死

スルコトモアラシ如斯場合モ因テ死ニ致シタルモノト爲シ本條ヲ以

テ論スルコト得ヘキヤ古ノ學者ハ之ヲ三個ニ區別シテ論セリ

一 充分死ニ致スニ足ルヘキ創傷ナルキハ攝生ノ疎略及ヒ醫師ノ

不注意等ノ爲メニ死スルモ毆打創傷ニ因テ死ニ致シタルモノトス

四百八十九

(第二百九十九條)



可キナリ

二 死ニ致スニ足ラサル創傷ナルキハ本人ノ不攝生或ハ醫師ノ不注意ノ爲メ死ニ至リタルモ死ニ致シタルモノトシテ論セス何ントナレハ是レ全ク不攝生又ハ不注意ニ原因シタルモノニシテ其創傷ノ如キハ原因ノ原因即チ遠因ニシテ近因ニアラサレハナリ

三 其創傷死ニ致スニ足ルヘキヤ否ヤ判然知レサルキハ罪ノ疑ハシキハ輕キニ從フノ原則ニ基キ被告人ノ利益トナル可キ様ニ處置セサル可カラスト

以上ハ古學者ノ說ナリ取テ以テ本條適用ノ方針ト爲スニ足ル又佛國ノ裁判例ヲ見ルニ創傷些少ニシテ死ニ致スニ足ラサルキ被害者ノ身体軟弱ナルカ爲メ死シタル如キハ犯人ノ所爲ニ非ラサレハ因テ死ニ致シタリト云フヲ得ストアリ蓋シ我輩ハ此說ニ從フ

ヲ得ス何ントナレハ斯ル虛弱ノ人ヲ毆打シタルハ犯人ノ過チナルヲ以テ通常人ヲ毆打シタルト全一ニ看做サ、ルヘカラサレハナリ是レ少兒ヲ毆打シテ死ニ致シタルキ其毆打ハ大人ヲ死ニ致スニ足ラサルモ常ニ本條ヲ適用セサル可カラサルト同一ノ例ナリトス毆打創傷ニ因テ死スルモ直チニ死スルト數十日後ニ死スルトノ別アリ而シテ古ノ立法者ハ此點ニ付制限ヲ立テ毆打後四十日以内ニ死スレハ因テ死ニ致シタルモノト爲セリ然レモ是レ立法者ノ隨意ニ定メタル期日ニシテ別ニ理由アルニ非ス我刑法ニ於テハ此點ニ付キ別段規定ナケレハ事實ニ因リ裁判官ノ判定ニ任ズルノミ若シ毆打後一年或ハ二年ヲ經テ死スル如キハ如何シ余輩ノ考按ヲ以テスレハ因テ死ニ致シタルモノト爲スヲ得ス是レ不養生或ハ醫師ノ不注意等ニ致シタルモノナキヲ保シ難ケレハナリ然レモ彼ノ四十

(第二百九十九條)

四百九十一



日ノ期限ノ如キハ裁判官ノ判定ヲ下スニ當テ標準ト爲スニ至當ノ期限ナル可シ

第三 故意ヲ以テ毆打スルコト此故意ハ本條ノ罪ヲ成スニ已ム可カラサルノ一條件ナリ然レモ此故意アル以上ハ其重傷ヲ與ヘント欲シタルト輕傷ヲ與ヘント欲シタルトヲ問ハス其結果死ニ致シタルモ皆本條ニ因リ同シク重懲役ナリトス是レ甚タ不權衡ノ如クナレモ前ニ説キシ如ク毆打創傷ハ其刑ヲ定ムルニ困難ナルモノニシテ實ニ止ムヲ得サルモノナレハ裁判官ニ於テ宜シク注意シテ酌量減輕等ヲ用フヘシ

第三百條 人ヲ毆打創傷シ其兩目ヲ瞎シ兩耳ヲ聾シ

又ハ兩肢ヲ折リ及ヒ舌ヲ斷テ陰陽ヲ毀敗シ若クハ

知覺精神ヲ喪失セシメ篤疾ニ致シタル者ハ輕懲役ニ處ス

其一目ヲ瞎シ一耳ヲ聾シ又ハ一肢ヲ折リ其他身體ヲ殘虧シ癱疾ニ致シタル者ハ二年以上五年以下ノ

重禁錮ニ處ス

本條ヲ見レハ益々結果ノミニ就テ罪ヲ論スルノ甚タシキ傾向アルヲ知ルヘシ人ヲ毆打創傷シ其兩目ヲ瞎シ兩耳ヲ聾シ又ハ兩肢ヲ折リ及ヒ舌ヲ斷テ陰陽ヲ毀敗シ若クハ知覺精神ヲ喪失セシメ云々トアリ是レ取りモ直サス立法者ハ人ノ身體ノ部分ト刑トヲ比較シタルモノニシテ即チ其創傷タル結果ノ多少ニ因テ罪ノ價額ヲ評シタルモノト云フ可シ而シテ本條其創傷ヲ爲スノ有意ニ出ツルト無意ニ

(第三百條)



出ルトノ區別ヲ爲サス故ニ今此ニ甲乙二人アリ甲ハ人ヲ創傷スルノ惡意ヲ以テ兩目ヲ瞎シ乙ハ人ヲ創傷スルノ目的ナク一時ノ怒リニ乘シ圖ラス人ノ兩目ヲ瞎シタリトモ此場合ニ於テ甲乙同刑ニ處セラルヘキナリ然レモ之ヲシテ同刑ニ處スヘカテサルハ諸君ノ良心ニ照シテ知ルヘキナリ然ルニ其結果ノミニ付テ之ヲ罰スルハ已ムヲ得サルニ出テタルモノナレハ已ニ云フカ如ク裁判官ニ於テ宜ク注意ヲ加ヘ其權限内ニ在テ斟酌スヘキナリ

爰ニ一ノ難問アリ即チ同時ニ一目ヲ瞎シ一耳ヲ聾シ又ハ一手一足ヲ折リタルキハ第一項ヲ適用スヘキカ將タ第二項ヲ適用スヘキカ恐クハ第一項ヲ適用スルヲ得サルヘシ元來右手ト右足トヲ折リタル時ノ如キハ被害者兩手又ハ兩足ヲ折ラレタリト同一ノ不便ヲ感スルナラン然レモ第一項ハ兩目ヲ瞎シ兩肢ヲ折リ兩耳ヲ聾シタル

ト明ラカニ記載シアルヲ以テ其實ニ同時ニ兩手ヲ折ルカ又ハ兩足ヲ折リタルカ如キニ非サルヨリハ之ヲ適用スルヲ得サルナリ

爰ニ又一問題アリ例ヘハ元來一目ナルカ或ハ一足等ノ者ニ對シ其一目ヲ瞎シ或ハ一足ヲ折リタルキハ第二項ヲ以テ論ス可キヤ否ヤ是レナリ蓋シ我輩ノ思料スル所ニ依レハ第一項ヲ以テ論ス可カラス何ントナレハ本條第一項ハ兩目兩肢ト明記シアリ而ノ其既ニ有ラサリシ一目一足ハ加害者ノ所爲ニアラサレハナリ這ハ是レ正條ニ就テ至當ノ解釋ナリト雖モ斯ク決スルキハ余カ説ク所前後矛盾スルコアリ何ソヤ余ハ曩ニ第二百九十九條ニ付テ身體虛弱ナルモノヲ毆打創傷シテ死ニ致シタルキハ其虛弱ナルカ爲メニ死シタリト雖モ毆打創傷ニ因テ死ニ致シタルモノトシテ論ス可キコト陳述セリ此理ニ因テ推究スル時ハ右ノ場合モ兩目ヲ瞎シ兩足ヲ折リタ



ルト一般ナル結果ヲ來シ乃チ其被害者ハ現ニ篤疾ニ陥リタルモノ  
ナレハ第一項ニ依テ處斷セサル可カラサルカ如シ然レモ既ニ明條  
アルヲ以テ右ノ如ク解セサル可カラス

第三百一條 人ヲ毆打創傷シ二十日以上ノ時間疾病  
ニ罹リ又ハ職業ヲ營ムヲ能ハサルニ至ラシメタル  
者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス其疾病休業  
ノ時間二十日ニ至ラサル者ハ一月以上一年以下ノ  
重禁錮ニ處ス

疾病休業ニ至ラスト雖モ身體ニ創傷ヲ成シタル者  
ハ十一日以上一月以下ノ重禁錮ニ處ス

本條ハ前二條ヨリ毆打ノ結果輕キ場合ニシテ即チ毆打創傷シ二十

日以上ノ疾病ニ罹ラシメタルモ又ハ此點ニモ至ラサル場合ヲ規定  
シタルモノナリ此ニ二十日ト定メタル理由如何ント尋ヌルニ別ニ  
然ラサルヲ得サルモノアルニ非ス則チ立法者ニ於テ之ヲ適度ト認  
メズルニ過キサルナリ

疾病ニ罹リ又ハ職業ヲ營ムヲ能ハサルニ至ラシメタル者云々此正  
文ニ依テ見レハ職業ヲ營ム能ハサルト疾病ニ至リタルトハ固ヨリ  
區別アリ然レモ實際上ニ於テハ屢此區別ヲ爲ス能ハサルコトアルハ  
シ元來疾病ニ罹ルキハ必ズ職業ヲ營ム能ハサルモノナリ例ヘハ手  
ヲ傷シ職業ヲ營ム能ハサルモノハ畢竟是レ疾病アルカ故ナリ  
疾病ニ罹リタルモ否ヤハ醫師ノ鑑定ニ因リ定ムレハ則チ可ナリト  
雖モ營業スル能ハサルノ點ニ至テハ甚タ決定ニ苦ム場合ヲ生スル  
ニ至ラン何トナレハ身體ヲ役スル者ト精神ヲ役スル者トアリテ身

(第三百一條)



体ヲ役スル者ニ至テハ其職業ヲ休止スルト否ヤトハ容易ニ知リ得  
 ヘシト雖モ學藝ヲ以テ職トスル者ノ如キニ至テハ其創傷ノ痊癒セ  
 サルモ病褥中ニアリテ讀書スルヲ得レハ依然職業ヲ營ムヲ得  
 ルモノト云フヲ得レハナリ故ニ職業云々ニ付テノミ此罪ヲ構造ス  
 ルトセハ身体ヲ役スル者ト精神ヲ役スル者トノ區別ニ因テ其罪ニ  
 輕重ノ差ヲ生スヘシサレハ本條職業ヲ營ム能ハストハ其要凡ソ被  
 害者ニシテ行歩スル能ハス又ハ身体ヲ自由ニ勞動シ得サル場合ノ  
 如キニシテ即チ身体職業ヲ以テ標準ト爲シタルナリ  
 茲ニ少シ不權衡ナルヲアリ本條ニ疾病休業ニ至ラサルモ身體ヲ創  
 傷シタルハ十一日以上一月以下ノ重禁錮ニ處ストアリサレハ劇  
 シク殴打スルモ創傷ヲ爲サハルハ違警罪トナシ處斷シ少シク毆  
 打シ些少ノ創傷ヲ爲シタルモ本條ノ罪トナラサル可カラズ然レモ

是等ノ不權衡ハ立法者之ヲ如何トモスルヲ得サルナリ  
 公衆ノ面前ニ於テ名譽ヲ重ニスル人ノ面ニ唾スル如キハ殴打ノ性  
 質ヲ含ムモノナレモ律ニ正條ナキヲ以テ罪トナラス彼ノ決闘ノ如  
 キモ多クハ此等ノ事ヨリ原因スルモノナリ又最モ議論ノ起ルハ毛  
 髮ヲ切斷スルノ所爲ナリ我々男子ノ髮ヲ切ルモ格別不都合ナシト  
 雖モ婦人ニ於テハ大ニ然ラサルナリ殊ニ藝妓ノ如キ髮ヲ切斷セラ  
 ルハ其ハ職業ヲ營ム能ハサルヘシ故ニ此所爲モ殴打創傷ヲ以テ論  
 スヘキヤ否ヤ若シ毛髮ヲ切斷シタル者ヲ罰スルニ於テハ一本ノ髮  
 ヲ切ルモ其刑ニ處セサル可カラサルニ至ル依テ余輩ノ見ヲ以テス  
 レハ毛髮ヲ切斷スルノ所爲ハ殴打創傷ヲ以テ論スヘカラス何ソト  
 ナレハ髮ハ指等ト異ナリ身體ノ一部分ト爲スヲ得サレハナリ而シ  
 我刑法ニ正條ヲ掲ケサレハ彼ノ人ノ面ニ唾シタルト一般律ニ正條

(第三百一條)



ナキノ理由ヲ以テ罪スルヲ得サルナリ然レモ民事ノ損害賠償ヲ求ムルニ至テハ決シテ妨ケアルコトナシ

第三百二條 豫メ謀テ人ヲ毆打創傷シ休業癡篤疾又ハ死ニ致シタル者ハ前數條ニ記載シタル刑ニ照シ各一等ヲ如フ

豫メ謀テ毆打スルノ重キハ敢テ此ニ贅セス此事タル既ニ謀殺ノ條下ニ於テ評論シタルヲ以テ參看スヘシ

第三百三條 重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又ハ已ニ犯シテ其罪ヲ免カル、爲メ人ヲ毆打創傷シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

本條ハ其意味第二百九十六條ト同一ニシテ唯異ナル所ハ毆打ト故殺ノ點ノミニ在リ

第三百四條 毆打ニ因リ誤テ他人ヲ創傷シタル者ハ仍ホ毆打創傷ノ本刑仍ホ毆打創傷ノ本刑ヲ科ス

本條ノ毆打ニ因リ誤テ他人ヲ創傷シタル者ハ仍ホ毆打創傷ノ本刑ヲ科ストハ單ニ文字ニ依テ解スルキハ目的タル人ヲ毆打シテ其影響他人ニ及ヒタル場合ヲ指ス如クナレモ決シテ然ラス其目的トスル所ノ人ト信シテ毆打シタルハ其人ニ非スシテ別人ナリシ時ノ如キヲ云フナリ本條ノ意味ハ第二百九十八條ニ於テ詳論セシヲ以テ此ニ贅セス

第三百五條 二人以上共ニ人ヲ毆打創傷シタル者ハ  
(第三百二條)(第三百三條)(第三百四條)(第三百五條) 五百一



現ニ手ヲ下シ傷ヲ成スノ輕重ニ從テ各自ニ其刑ヲ科ス若シ共毆シテ傷ヲ成スノ輕重ヲ知ルヲ能ハサル時ハ其重傷ノ刑ニ照シ一等ヲ減ス但教唆者ハ減等ノ限ニ在ラス

本條ハ立法者ノ注意ニ注意ヲ加ヘテ設立シタルノ條ナリ二人以上共犯ニカ、ルキハ普通ニテハ各自ニ其刑ヲ科スルトトセリ然ルニ本條ハ二人以上ノ共犯ト雖モ其現ニ手ヲ下シ傷ヲ爲スノ輕重ニ因ルトトセシハ毆打創傷ハ其創傷ノ結果ニ付テ其罪ヲ論スレハナリ然ルニ此ニ甲乙二人共ニ丙者ヲ亂撃シ何レカ重傷ヲ爲シ何レカ輕傷ヲ爲セシヤヲ知ル可カラサル時ニ當テ其重傷ノ刑ニ因テ甲乙ヲ罰センカ甲ノ所爲ナレハ乙ハ必ス冤罪ナラン又輕傷ニ付テ罰セン

カ他ノ重傷ヲ奈何セン爲ニ立法者ハ之ヲ折衷シ一等ヲ減ストセリ是レ一策畧ナリ

立法者ハ本條ニ於テノミ二人以上共犯ノ其所爲ニ因テ各自ニ刑ヲ科スルヲ定メ其他ノ殺人罪等總テノ場合ニ於テ之ヲ定メサルハ何ソヤ例ヘハ暗室ニ於テ二人共ニ人ヲ殺シ其二人何レカ眞ニ之ヲ殺シタルヤ知ルヲ得サルキハ如何シテ處斷スルヤ之ヲ定メスシテ唯本條ヲ設ケタルハ余ノ解セサル所ナリ而ノ二人以上ノ犯罪ニハ皆此場合ヲ生ス可シ

第三百六條 二人以上共ニ人ヲ毆打スルニ當リ自ラ人ヲ傷セスト雖モ幫助シテ傷ヲ成サシメタル者ハ現ニ傷ヲ成シタル者ノ刑ニ一等ヲ減ス



我立法者ハ總則ノ部ニ於テ豫備ノ所爲ヲ幫助シタルモノヲ從犯トシ現行ノ罪幫助シタルモノハ正犯トセリ因テ本條ノ場合ハ現ニ傷ヲ成サシメタル者ナルヲ以テ正犯ナリト雖モ幫助ニ止マルヲ以テ特ニ此ニ明言シ一等ヲ減シタルナリ然レモ此等ノ罪ハ何レノ場合ニモアル可キモノナルニ毆打ニノミ之ヲ定メ他ノ場合ニハ之ヲ定メサルハ何ソヤ是レ亦余ノ解セサル所ナリ

第三百七條 健康ヲ害ス可キ物品ヲ施用シテ人ヲ疾苦セシメタル者ハ豫メ謀テ毆打創傷スルノ例ニ照シテ處斷ス

本條ハ健康ヲ害ス可キ物品ヲ施用シ人ヲ疾苦セシメタル者ヲ罰スルノ條ニシテ其之ヲ疾苦セシムルヤ殺意無キヲ要ス若シ殺意アル

キハ本條ノ罪ニアラスシテ毒殺ノ罪トナルナリ

第三百八條 人ヲ殺スノ意ニ非スト雖モ詐稱誘導シテ危害ニ陷レ因テ疾病死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ヲ以テ論ス

本條ハ別ニ講スヘキコトナシ第二百九十七條ト相類似セリ參看セハ自カラ明カナラン

(第六十回)

第三節 殺傷ニ關スル宥恕及ヒ不論罪

宥恕及ヒ不論罪ニハ通常ト特別トノ二個ノ場合アルコトハ已ニ諸君ノ了知スル所ナリ

(第三百七條)(第三百八條)



特別宥恕減輕ノ場合ヲ收擧セハ五個アリ即チ第三百九條十條十一條十二條及ヒ十六條是レナリ特別ノ不論罪ハ第三百十四條五條是レナリ

特別ノ宥恕及ヒ不論罪ハ以上擧クル所ノ場合即チ殺傷ニ關スル罪ノミニシテ他ノ罪ニハ決シテ之レナシ是レ殺傷ハ暴行等ヲ受ケ怒ヲ發シ直ニ爲ス如キ人情已ムヲ得サルヨリ起ルヲアレモ他ノ罪ニ於テハ斯ル情狀ナキカ故ナリ

夫レ宥恕ス可キ理由ノ生スルハ其事實ノ有罪ト度輕キニ因レリ故ニ立法者豫メ之ヲ認メ法文上其場合ヲ明言セリト雖モ彼ノ酌量減輕ノ如キハ其然ラスシテ犯者ノ有罪ノ度ハ輕キニ因ルモノナレハ立法者豫メ之ヲ認ムル能ハス隨テ法律上其場合ヲ明言セス唯裁判官ヲシテ認メシムルノミ

第三百九條 自己ノ身體ニ暴行ヲ受クルニ因リ直チ

ニ怒ヲ發シ暴行人ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス

俱不正ノ所爲ニ因リ自ラ暴行ヲ招キタル者ハ此限

ニアラス

本條ノ宥恕ニ付テハ五要件ヲ具備セサルヘカラス

第一 暴行ヲ受クル事

第二 自己ノ身體ニ暴行ヲ受クル事

第三 暴行ノ不正ナル事

第四 受クル暴行ト加フル殺傷ト同時ナル事

第五 不正ノ所爲ヨリ暴行ヲ招キタルニ非サル事

此五個ノ條件タルヤ實ニ緊要ニシテ若シ其一ヲ欠クモハ宥恕罪ト

(第三百九條)



ナラス故ニ宣告書中ニ此五要件ヲ具備セサレハ不完全ノ裁判ニシテ大審院ニ於テ破棄スヘキモノナリ今各條件ニ付キ一々之ヲ説明セシ

第一 暴行ヲ受クル事此ニ所謂暴行トハ如何ナル所爲ヲ指シテ云フカ法律上之ヲ明定セス然レモ此等ノ事ハ豫メ定ムル能ハサルモノナルヲ以テ其暴行タルヤ否ヤトヲ定ムルハ裁判官ノ判定ニ任セサルヘカラス然レモ凡テ身體上ニ對シ且ツ有形ノ暴行ナルヲ要ス夫ノ罵詈ノ如キハ有形ノ暴行ニアラサルニ因リ本條ノ暴行ト爲スヘカラス必ス有形上手足ヲ以テ身體ニ暴行ヲ加ヘタルヒナラサルヘカラス又我刑法ノ身體ニ對スル罪ノ中ニハ誹毀罪ノ如キ榮譽ニ關スル罪ヲモ含有スレハ本條所謂身體ニハ榮譽モ含蓄スル如クナレモ決シテ然ラス有形ノ身體ヲ云フナリ而シテ裁判官ノ暴行ヲ認

定スルヤ其人ノ教育位置性質等ニ因リ定メサルヘカラス

第二 自己ノ身體ニ暴行ヲ受クルコト若シ自己ノ身體ニ非サレハ本條ヲ適用スルヲ得ス故ニ他人ノ身體ニ對シ暴行ヲ受クルコト因リ直チニ怒ヲ發シ暴行人ヲ殺傷シタル時ハ宥恕ノ限ニアラサルナリ然レモ父母兄弟妻子又ハ自己ノ尊長スル人ニ對シ暴行ヲ受ケタル時ハ自己ノ身體ニ受クルヨリ憤怒ノ情反テ激シキコトアリ殊ニ自己ノ身體ニ暴行ヲ受クルニ當テ怒ヲ發セサルハ其膽力ノ大ナルモノニシテ甚タ賞スヘキコトナレモ此等ノ者ノ暴行ヲ受クルニ當テ之ヲ怒ラサルハ頗ル鄙怯ノ所爲タルカ如キ形跡アルモノナレハ實ニ自己ノ身體ニ暴行ヲ受ル時ト同クセサル可カラサルカ如シ然ルニ立法者自己ト限リ此等ノ者ヲ規定セサルハ若シ之ヲ許スキハ大ニ弊害ヲ生スルニ因リ故ラニ之ヲ狹隘ニ爲セシモノナランサレハ此等ノ



者ノ暴行ヲ受ケ爲メニ怒ヲ發シタル場合ハ裁判官ニ於テ宜シク此ニ注意ヲ加ヘ酌量ヲ施スヘシ

第三 暴行ノ不正ナル事此暴行ハ必ス不正ノ暴行ナルヲ要ス故ニ暴行正シケレハ宥恕ノ原因トナラス例ヘハ巡查ノ人ヲ捕縛スル如キハ其體面上ヨリ見ルルキハ暴行ナレモ不正ノ暴行ニ非ス正當ノ手續ヲ經テ爲スモノナルヲ以テ其巡查ヲ殺傷スルル時ハ假令怒ヲ發テ之ヲ爲スモ宥恕ノ原因トナラス然ラハ官吏越權ノ處分ヲ爲スルハ如何此ニハ種々ノ論アレモ余ヲ以テ之ヲ見レハ越權ノ場合ニ於テハ官吏タルノ職分ニアラサレハ怒ヲ發シ直チニ之ヲ殺傷シタル時ハ宥恕ス可キモノナリ

第四 受クル暴行ト加フル殺傷ト同時ナル事本條明文ニ直チニトアレハ其人ヲ殺傷スルハ暴行ヲ受ケタルト同時ナラサル可ラス故

ニ時日ヲ經テ殺傷シタルキハ本條ヲ適用スルヲ得ス通常ノ謀殺故殺ナリ何ントナレハ凡ソ人暴行ヲ受クル際ニハ怒氣胸中ニ汎濫シテ善惡邪正ヲ區別スル能ハサルハ人情ノ常ナレハ此際人ヲ殺傷スルハ之ヲ宥恕スルモ至當ナレモ時日ヲ隔ツル時ハ怒氣去リ善惡邪正ヲ區別スルノ餘裕アルヲ以テ假令怒氣全ク去ラサルモ己ニ宥恕スヘキ理由ハ存セサルハナリ因テ此時ハ裁判官ノ意思如何ニ因リ酌量減輕ヲ爲スコアルノミ

第五 不正ノ所爲ヨリ暴行ヲ招キタルニ非サル事自己ニ不正ノ所爲アリタルキ例ヘハ自己ヨリ誹毀罵詈等ノ所爲ヲナシ爲メニ暴行ヲ受クル如キハ宥恕ノ原因トナラス而シテ此不正ノ所爲ニ注意セサルヘカラス今人ノ面貌ヲ見テ笑フタル爲メ暴行ヲ受クル如キハ不正ノ所爲ヨリ招キタルト云フヲ得ス必ス其不正ノ大ナルヲ要スルナ



リ故ニ此不正ノ所爲ハ刑法上罰スル場合ニ非サレハ不正ノ所爲ト云フヲ得ス

爰ニ一疑問アリ脅迫ヲ受ケタルニ因リ怒ヲ發シ其人ヲ殺傷シタル場合ハ如何脅迫ニ付テモ亦有形ト無形トニ依リ之ヲ區別セサルヘカラス有形ノ脅迫即チ棒ヲ揮揚ケ敲カント脅シ或ハ刀刃ヲ閃シ殺サント迫ルカ如キ場合ニ於テ殺傷シタル時ハ宥恕スルヲ得シヘト雖モ無形ノ脅迫即チ脅言威嚇ヲ受クルノミヲ以テ之ヲ殺傷シタル如キハ宥恕ノ限リニアラサルナリ

終リニ隨テ一言注意スヘキハ本條ノ場合ハ正當防衛ニ似タリト雖モ決シテ混スヘカラス本條ハ暴行ヲ受ケ怒リヲ發シ其怨ヲ報ユル爲メノ所爲ナリ故ニ彼ノ正當防衛ニ必要ナル條件中暴行ヲ受ケ避クル能ハサル事及ヒ腕力ヲ用ヒサレハ防衛スル能ハサル事ノ如キ

ハ備ハルヲ要セス是レ正當防衛ト異ナル所ナリ理論上之ヲ區別スルハ容易ナリト雖モ實際上ニ至テハ甚タ困難ナリ例ヘハ今人ノ己レニ暴行ヲ加フルニ當テ已レ却テ之ヲ毆打シタル如キ正當防衛ニ出タルヤ將タ本條ノ場合ニ出テタルヤ其事跡甚タ分テ難キナリ但シ其本人ノ意思ニ問ハ、直ニ知了シ得可シト雖モ人ノ意思ハ法律上推知ス可キモノニ非サレハ豫メ明言スル能ハス之レカ如何ヲ知得スルハ裁判官ノ任ナリトス

### 第三百十條 毆打シテ互ニ創傷シ其手ヲ下スノ先後ヲ知ルヲ能ハサル者ハ各其罪ヲ宥恕スルヲ得

本條ハ別ニ理由アルニアラス毆打シテ互ニ創傷シ其下手ノ先後ヲ知ルノ証憑ナキモ之ヲ處置スルノ方法ニシテ惟フニ裁判官ノ判定シ易キ爲メ設ケタルノ條ニ過キサルナリ



此ニ疑點ノ存スルアリ若シ一方ニミ創傷アリタルキハ如何本條ニ問フヲ得ス又死ニ致シタルキハ如何是レ亦本條ニ問フヲ得サルナリ或ハ云フ第二節ノ標段ニハ毆打創傷トアリテ其節中ニハ死ニ致シタルヲモ規定スレハ本條ノ創傷中ニモ亦死ニ致シタルヲモ含蓄スルヤ明カナリト然レモ毆打創傷ノ節ニハ死ニ致シタルヲモ明條アリト雖モ本條ニハ此明文ナキヲ以テ問フヲ得サルナリ

第三百十一條 本夫其妻ノ姦通ヲ覺知シ姦所ニ於テ

直チニ姦夫又ハ姦婦ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥怒ス但本夫先ニ姦通ヲ縱容シタル者ハ此限ニ在ラス

本條ノ宥怒ヲ施スニハ四條件ヲ要ス

第一 姦通ノ現行ナル事

第二 姦所ニ於テ直チニ殺傷スル事

第三 姦通ト殺傷ト同時ナル事

第四 本夫先ニ姦通ヲ縱容セサリシ事

第一 姦通ノ現行トハ如何ナル場合ヲ指シテ現行ト云フヘキカ是レ容易ニ定解ヲ下シ難キナリ古來學者ノ説ク所ニ從ヘハ縱令ヒ現ニ姦通セサルモ姦通ト見做スヲ得ヘキ状態アル時ハ現行ト云フヘキナリ即チ姦夫姦婦ノ裸體ニテ共ニ同衾シタル等ノ場合ノ如キ是レナリ余モ此説ヲ可ナリトス  
第二 姦所ニ於テ殺傷シタル事姦所トハ此ニ一定ノ解釋ヲ下ス能ハサレハ裁判官ノ判定ニ任スルナリ假令姦所外ナルモ直チニ姦夫姦婦ヲ追テ門外ヘ馳出テ之ヲ殺シタル如キハ其事實連續シテ間斷ナケレハ姦所ト看做スヲ得ヘシ

(第三百十一條)



第三 殺傷ノ即時ナル事本條明文ニ直チニトアレハ其殺傷スルヤ即時ナラサル可カラス然レモ兇器ヲ携ヘサルニ因リ走リテ他ヨリ持來リ之ヲ殺傷シタル如キハ尙ホ即時ト爲スヲ得可シ

第四 本夫先ニ姦通ヲ縱容セサリシ事此縱容ノ語充分ナラス何ントナレハ本夫其妻ノ姦通ヲ覺知シ俄然怒リヲ發シ之ヲ殺サント欲セシモ斯クシテ此事ノ世間ニ廣マルトハ却テ我面目ヲ汚スヲ覺リ忍テ之ヲ爲サス後ニ至リ婦ヲ詰責シ後來ヲ戒シメタルニ他日婦尙ホ姦通スルヲ覺知シ憤怒ニ堪ヘ難ク直チニ之ヲ殺傷セシ時ノ如キ一時縱容シタル者ナレモ是等ハ本條ノ宥恕ヲ適用セサル可カラサルカ如クナレハナリ

茲ニ一ノ疑問アリ本夫夙ニ其妻ノ姦通ヲ覺知シ其姦通スル所ヲ實檢シテ殺サント欲シ僭伏シテ之ヲ窺ヒ其現ニ姦通スルニ當テ殺傷シ

タル時ハ宥恕ヲ與フヘキヤ如何曰ク宥恕ス可キモノニアラス何ントナレハ是レ謀殺ニシテ所謂未必ノ條件ノ附加シタル謀殺ナリ既ニ謀殺ナル時ハ本條トハ氷炭相容レサルノ差アルモノニシテ本條ノ宥恕ヲ施スハ現ニ姦通スルヲ見テ直チニ恕ヲ發スルハ人情ノ己ムヲ得サルニ出ツルモノナルヲ以テノ故ナレモ謀殺ノ時ハ此理由アラサレハナリ然レモ亦之ヲ區別セサルヘカラス例ヘハ常ニ婦ノ所業怪シク姦通ノ狀アルカノ疑念ヲ懷キ之ヲ認メント欲シ潛伏シタルニ果シテ姦通ヲ爲シタルニ依テ直チニ之ヲ殺シタルモ如キハ本條ニ擬シ宥恕ヲ與フ可キモノナリ故ニ最初ヨリ兇器ヲ携帯シ殺傷スルノ目的アリタル時ハ本條宥恕ノ限ニアラサレモ右ノ場合ノ如キハ本條ニ擬ス可キモノナリ若シ本夫ニ共犯者アリタル時ハ如何此共犯者ハ如何ナル場合ニ於テモ宥恕ヲ與フ可キモノニ非サ



レハ通常殺傷ヲ以テ論セサルヘカラス

此ニ一言注意スヘキトアリ本條ニ於テ夫ニノミ此非ヲ宥恕スルハ夫ニ其權ヲ與ヘタルモノ、如クナレト決シテ然ラス若シ如此權ヲ與フル時ハ生殺與奪ノ權ヲ與フルト何ソ異ナランヤ之ヲ宥恕スル所以ノモノ憤怒ニ堪ヘサルキハ是非ヲ顧ミルニ暇マアラサルヲ以テナリ然ラハ獨リ夫ノミナラス婦ト雖モ憤怒ノ情ハ同一ナリ然ルニ婦ニ此宥恕ヲ與ヘサルモノハ本邦及ヒ佛國ノ如キハ止メ慣習上ノ感ニ據リ遂ニ此ノ如キ偏頗ノ法ヲ規定セルナリサル、ドイツ國ニ於テハ此點ニ付キ男女同等ノ法律ヲ立テリト云フ至當ト云フヘシ

### 第三百十二條 晝間故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入

リ若クハ門戸牆壁ヲ踰越損壞セントスル者ヲ防止

スル爲メ之ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス

本條モ宥恕減輕ナレトモ第三百九條トハ大ニ其主旨ヲ異ニセリ元來此條ハ第三百十四條ヨリ出テタルモノニシテ其性質正當防衛ナリト雖モ少ク欠ル所アルヲ以テ宥恕減輕中ニ入レタルモノナリ  
 夜間此等ノ所爲アルキハ不論罪ニシテ晝間ハ宥恕ニ止マル所以ノモノハ何ソヤ晝間ハ夜間ニ比セハ其危險小ニシテ且ツ他ヨリ救助ヲ得之ヲ防クニ容易ナルカ故ニ夜間ト其罪ヲ異ニセルナリ此晝間ニハ治罪法ノ晝夜ノ區別ヲ適用スルヲ得スシテ裁判官ノ判定ニ任セサルヲ得ス何ントナレハ此處ニ於テハ治罪法ニ定ムル日出前又ハ日没後ト雖モ尙晝間ト云フヲ得ヘキ場合アレバナリ  
 數人隊ヲ爲シ門戸牆壁ヲ踰越スルニ當リ銃ヲ放テ之ヲ殺シタルハ如何是レ正當防衛ニシテ本條ニ適用ス可キモノニ非ラサルナリ

### (第三百十二條)



若シ他人ノ邸宅ニ侵入シタル者ヲ殺傷シタル者ハ如何宥恕スルヲ得ヘキナリ何ントナレハ本條ニハ自己ノ爲メト他人ノ爲メトヲ區別セサレハナリ

第三百十三條 前數條ニ記載シタル宥恕ス可キ罪ハ各本刑ニ照シ二等又ハ三等ヲ減ス

宥恕ハ全ク罪ヲキニ非ス二等又ハ三等ヲ減スルノミ

第三百十四條 身體生命ヲ正當ニ防衛シ己ムコトヲ得サルニ出テ暴行人ヲ殺傷シタル者ハ自己ノ爲メニシ他人ノ爲メニスルヲ分タス其罪ヲ論セス但不正ノ所爲ニ因リ自ラ暴行ヲ招キタル者ハ此限ニ在ラ

ス

本條及ヒ次條ハ所謂正當防衛ノ場合ニシテ即チ不論罪ナリ而シテ此不論罪ハ總則ノ不論罪トハ其性質自ラ異ナルヲ以テ同視ス可カス一身體生命ヲ正當ニ防衛センカ爲メ人ヲ殺傷シタル者ハ宥恕ニ非スシテ無罪ナリ其然ル所以ノモノハ己レノ權利ヲ行フタルモノニシテ又或ハ義務ヲ行フヨリ出レハナリ故ニ之ヲ無罪トス而シテ此身體ヲ防衛スルハ天賦固有ノ權ニシテ立法者ノ之ヲ與ヘタルモノニ非サルナリ

正當防衛ニ付テハ左ノ條件ヲ要ス

第一 暴行ヲ受ケ避クル能ハサル事

第二 腕力ヲ用ヒサレハ防衛スル能ハサル事

第三 加ヘラル、暴行ト加フル暴行ト同時ナル事

(第三百十三條)(第三百十四條)



第四 不正ノ所爲ニ因リ招キタル暴行ニ非ザル事

此四要件ノ中一ヲ欠クハ正當防衛ニ非サルナリ而シテ本條ノ身體生命トハ自己ト他人ノ身體生命ヲ區別セサルナリ若シ己ムヲ得サルニ出テ之ヲ殺シタルニ非スシテ之ヲ殺サ、ルモ他ニ避クルノ方法アルハ正當防衛ニ非サルナリ

本條ノ暴行ハ第三百九條ノ暴行ヨリ一層大ナルヲ要ス若シ些少ノ暴行ヲ受ケ人ヲ殺傷スル如キハ此條ニ問フヲ得サルナリ而シテ其暴行自己ノ不正ヨリ招キタルニ非サルヲ要ス且ツ其受ケタル暴行ト加フル暴行ト同時ナラサルヘカラス又不正ノ所爲ト雖モ些少ナル不正ノ所爲ニ非スシテ大ナル不正ノ所爲ナルヲ要スルナリ

第三百十五條 左ノ諸件ニ於テ己ムヲ得サルニ出

テ人ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ論セス

一 財産ニ對シ放火其他暴行ヲ爲ス者ヲ防止スルニ出タル時

二 盜犯ヲ防止シ又ハ盜賊ヲ取還スルニ出タル時

三 夜間故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入り若クハ門

戸牆壁ヲ踰越損壞スル者ヲ防止スルニ出タル時

本條ニ要スル所ノ條件モ前條正當防衛ノ條件ト同一ナリ而シテ本條ノ場合モ其解釋ヲ慎マサル可カラス古昔ノ學者ハ其受クル所ノ害ト加フル所ノ所爲トヲ比較シテ論セリ例ヘハ一指ヲ切ラレタル時人ヲ殺ス如キハ双方ノ暴行相適合セサルニ因リ正當防衛トナラスト近世ノ學者ノ說ハ否ラス其受クル所ノ暴行ト加フル所ノ暴行ト差異アルニ於テモ彼ノ正當防衛ニ要スル條件ヲ具備スルニ於テハ



三井銀行ノ頭取ノ如キ富豪者ニシテ僅カニ數錢ヲ奪ハレ之ヲ取還  
サシ爲メ其人ヲ殺傷シタル如キハ本條ヲ適用スルモ可ナリト雖  
サシカ爲メ人ヲ殺ス如キハ本條ヲ適用スルヲ得ス故ニ裁判官ハ  
宜ク實際ニ付キ注意ヲ爲スヘシ又古學者ハ正當防衛ニ付キ兇器ノ  
種類ヲ區別シ如何ナル兇器ヲ以テ防止シタルハ正當防衛トナリ  
如何ナル兇器ヲ以テ防止シタルハ正當防衛ト爲ラスト論シタレ

正當防衛ト爲ストテ得ルトセリ然レモ古學者ノ説モ參照セサルヘ  
カラス何ントナレハ今文久錢一個ヲ竊取セラレ之ヲ取還スル爲メ  
其盜ヲ殺ス如キハ法文上ヨリ見レハ本條ニ入ル如クナレモ若シ此  
場合モ尙本條ニ適用スルトスレハ之ヲ口實トシ濫リニ他人ヲ殺ス  
如キ弊害ヲ生スレハナリ又人ノ貧富ニ因リ區別セサル可カラス例  
ハ車夫馬丁ノ如キ終日刻苦シ得タル所ノ數錢ヲ奪ハレ之ヲ取還  
サシ爲メ其人ヲ殺傷シタル如キハ本條ヲ適用スルモ可ナリト雖モ  
三井銀行ノ頭取ノ如キ富豪者ニシテ僅カニ數錢ヲ奪ハレ之ヲ取還  
サシカ爲メ人ヲ殺ス如キハ本條ヲ適用スルヲ得ス故ニ裁判官ハ  
宜ク實際ニ付キ注意ヲ爲スヘシ又古學者ハ正當防衛ニ付キ兇器ノ  
種類ヲ區別シ如何ナル兇器ヲ以テ防止シタルハ正當防衛トナリ  
如何ナル兇器ヲ以テ防止シタルハ正當防衛ト爲ラスト論シタレ

近世ニ至テハ此等ノ事ヲ論スルモノナシ  
今此ニ注意ヲ要スヘキ件アリ宥恕ト不論罪ノ區別是レナリ宥恕ハ  
元來罪アレモ其刑ヲ輕減シ若クハ減シ盡シテ之ヲ科セサルモノナ  
レモ不論罪ハ之ニ反シテ全ク其罪ヲ構造セサルモノナリ  
新ク區別スル所以ノモノハ實際上大ニ利益ノアルアリ看ヨ第二百  
九十六條ニ重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又ハ已ニ犯シテ其罪ヲ  
免カル、爲メ人ヲ殺シタル者ハ死刑ニ處ストアリ今宥恕ニ因リ  
刑ヲ減シ盡シテ科セラレサル者ハ刑ナシト雖モ元來罪アルヲ以テ  
此罪ヲ犯サンカ爲メ人ヲ殺シタルハ同條ニ因リ死刑ナリ然レ  
モ不論罪タル所爲ヲ行ハン爲メ人ヲ殺シタル時ハ通常ノ故殺罪  
ニシテ即チ無期徒刑ナリ

又正當防衛ト第七十五條ノ抗拒ス可ラサル強制ニ遇フテ行フタル  
(第三百十五條)  
五百二十五



所爲ト混同ス可ラス正當防衛トハ正シク己レノ權利ヲ行フタルモノナレト強制ニ遇フテ行フタル所爲ハ否ラス己レ避クルノ自由ナキヲ以テ其罪ヲ論セサルモノニシテ其權利ヲ行フタルニアラス該條第二項ニ身体ヲ防衛スル云々ノ文字アルヲ以テ正當防衛ト同一ナルカ如キ感アリト雖元來此第七十五條ノ防衛ノ文字ハ妥當ナラサル所アリ蓋シ救フノ文年ヲ用ユルヲ適當トス如此區別ヲ爲スハ決シテ坐上ノ空論ニアラス實際上ニ利益アリテ存ス強制ニ遇ヒ其意ニアラサルノ所爲ハ刑法上其罪ヲ論セスト雖ト權利ヲ行フタルニ非サルヲ以テ民事上損害賠償ノ責ヲ免カレサルナリ然レト正當防衛ハ自己ノ權利ヲ行フタルモノナルヲ以テ決シテ民事ノ損害賠償ノ責ニ任セサルノミナラス反テ先方ニ對シテ損害ヲ要求スルルノ權利アリトス

第三百十六條 身體財産ヲ防衛スルニ出ルト雖モ己

ムトヲ得サルニ非スシテ害ヲ暴行人ニ加ヘ又ハ危害己ニ去リタル後ニ於テ勢ニ乘シ仍ホ害ヲ暴行人ニ加ヘタル者ハ不論罪ノ限ニ在ラス但情狀ニ因リ第三百十三條ノ例ニ照シ其罪ヲ宥恕スルトヲ得

本條ハ第三百十二條ト其主旨同一ナレト該條ハ必ス宥恕シ本條ハ宥恕スルトヲ得ルノ異ナルアリ

(第六十一回)

第四節 過失殺傷ノ罪

過失殺傷トハ其文字ノ如ク過テ人ヲ殺傷シタルモノナリ元來殺傷(第三百十六條)



ニハ故意ニ出ツルモノト豫メ謀ルモノト偶然ニ出ツルモノト過失ニ出ツルモノトアリ而シテ此偶然ニ出ツルモノト過失ニ出ツルモノト同一ノ如クナレハ其性質相異ナレリ例ヘハ屋根師ノ屋根ヲ修繕スルノ際足ヲ踏ミ外シテ屋上ニ墮落シ圖ラズ屋下ノ人ヲ壓殺シタル如キ或ハ屋下ニ來ル可ラサルノ榜標ヲ示シ置キ屋上ヨリ瓦ヲ投下シタルニ其禁ヲ犯シ入ル者アリテ爲メニ殺傷シタル時ノ如キハ過失殺ニ非スシテ偶然殺ナリ故ニ故意ナクシテ人ヲ殺傷シタル場合モ之ヲ二個ニ分クサル可ラス而シテ法律ノ罪トシ罰スルハ過失殺ノミコシテ偶然殺ハ罰スルコトナシ然リ而シテ總則ニ因テ見レハ罪ヲ犯スノ意ナキ所爲抗拒スヘカラサルノ所爲及ヒ知覺精神ヲ喪失シタル者ノ所爲ハ其罪ヲ論セストアリ是レ犯意若クハ自由及ヒ知識ノ三者ナキヲ以テノ故ナリ然レハ此犯意則チ罪ヲ犯スノ意ハ

罪ヲ構造スルニ欠クヘカラサルノ原素ニ非ス故ニ此意ナキモ罰スルコトアリ即チ此過失殺傷ノ如キ是ナリ抑モ罪ヲ以テ論シ刑罰ヲ施スヘキモノハ道德ニ背キ社會ヲ害スルノ所爲ナリ然ルニ過失ハ社會ヲ害スルノ點アルノミニシテ道德ニ背ク點ナキカ如クナレハ隨テ罪トシ論ス可カラサルカ如クナレハ決シテ否ラス凡ソ人ノ社會ニ在ルヤ注意謹慎以テ事ヲ爲サ、ル可カラス若シ僅ニ注意ヲ怠リタルカ爲メ大害ヲ來スニ於テハ即チ道德ニ背キタリト云ハサルヲ得サルナリ例ヘハ火ヲ失シ延燒遂ニ東京全市中ヲ烏有ニ歸シタル如キハ社會ヲ害スルハ勿論兼テ道德ニ反シタルモノト云ハサルヲ得サルカ如キ是ナリ過失殺傷モ乃チ注意ヲ欠キタルヨリ生シタルノ結果ナルヲ以テ道德ニ反シタルモノナリ然レハ其道德ニ背クノ點些少ナルヲ以テ其刑ハ罰金ニ止メ體刑ヲ科セサルナリ



第三百十七條 疎虞懈怠又ハ規則慣習ヲ遵守セス過失ニ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

過失トハ如何ナルモノナルヤ本條與フル所ノ義解ノ如ク疎虞懈怠又ハ規則慣習ヲ遵守セスシテ爲シタルト是レナリ故ニ疎虞懈怠又ハ規則慣習ヲ遵守セサルノ所爲ハ即チ過失ナレハ此ニ過失ノ文字ヲ用ユルハ重複ナルカ如シ今疎虞懈怠ナク又規則慣習ヲ遵守セサルトナクシテ人ヲ殺傷シタル如キハ如何過失殺ニアラスシテ偶然殺ナリ例ハ通行ノ際背後ヨリ人ニ押シ倒サレ爲メニ小兒ヲ壓殺シタル如キハ罪トナラス且ツ民事上ノ責任モナケレハ損害賠償ヲ擔當スレニモ及ハサルナリ

疎虞トハ如何ナル事ヲ云フカ立法者ハ之レカ解釋ヲ與ヘス一ニ裁判官ノ判定ニ任スト雖モ惟フニ疎虞トハ不熟練不注意疎忽等ノ通稱ニシテ一例ヲ擧クレハ斧ヲ以テ木材ヲ斫ントセシニ其斧ノ柄脱シテ傍人ヲ殺シタルカ如キ或ハ屋根師ノ足場ヲ造ル堅固ナラサル爲メ足場ノ破壊シテ人ヲ殺傷シタルカ如キ又ハ大工ノ家屋ヲ建築シタルニ其構成ノ粗惡ヨリ其家屋崩壞シテ人ヲ殺傷シタルカ如キ皆是レ疎虞ナリトス  
茲ニ一問題アリ免許ヲ得タル醫師其術ノ不熟練或ハ疎忽等ヨリ人ヲ死ニ致シタルキハ過失殺傷ニ問フヘキヤ否ヤ之ヲ決スル甚タ困難ナリト雖モ假令醫師ナルモ疎虞ノ所爲アレハ過失殺傷ヲ以テ論シテ可ナリ例ハ右足ノ指六本ノ不具人アリテ切斷ヲ依頼セシニ醫師ハ左足ノ指ヲ切斷シ四本ト爲シタル如キ場合ハ醫師ニ疎忽ノ



點アルヲ以テ之ヲ罰セサルヘカラスナリ

第二百五十七條ニ官許ヲ得サル醫師治療ノ方法ヲ誤リ因テ人ヲ死傷ニ致シタルハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ストアリ此反對ヨリ見レハ官許ヲ得タル醫師治療ノ方法ヲ誤ルモ罪ヲ以テ論セサルカ如キ解釋ヲ爲ス可シ然レハ此解釋タル誤レハ官許ヲ得タル醫者ト雖モ治療ヲ誤リ人ヲ殺傷シタルハ之レカ罪ヲ問ハサルヘカラス然レハ是レ學問上ノ論ニシテ果シテ治療ヲ誤リタルヤ否ヤ裁判官ノ之ヲ知ル能ハサルモノナレハ立法官モ之ヲ罰セス唯官許ヲ得スシテ醫業ヲ爲シタル者治療ヲ誤リタルハ之ヲ例外トナシ刑法ヲ以テ罰スルノミ然レハ假令官許ヲ得タル醫師ナルモ治療ノ方法ヲ誤リタルニ非ラズ疎虞懈怠ニ因テ人ヲ殺傷シタルハ過失殺傷ヲ以テ罰セサルヲ得サルナリ

懈怠トハ怠慢ノコトニテ例ハ瘋癲人ノ番人其監守ヲ怠リテ限ルノ際其瘋癲人逃走シ人ヲ殺傷シタル如キ或ハ旅宿ノ主人旅客ノ大病ナルヲ知テ醫師ヲ招カス遂ニ死ニ致シタル如キ是レナリ規則トハ行政規則等ノコトニシテ慣習トハ其土地ニ行ハル、慣習ヲ云フナリ

第三百十八條 過失ニ因テ人ヲ創傷シ癱篤疾ニ致シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百十九條 過失ニ因テ人ヲ創傷シ疾病休業ニ至ラシメタル者ハ一圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

此二條ハ刑ニ解釋ヲ要セス

過失殺傷ニハ共犯ナキニ似タリ何ントナレハ共犯トハ二人以上同

(第三百十八條)(第三百十九條)



意シテ共ニ犯スモノナルニ過失殺傷ニハ犯スノ意ナキヲ以テ其意思ノ合同ス可キ理ナケレハナリ若シ二人一時ニ罪ヲ犯スモ其意合同セサルキハ別個ノ犯罪ニシテ共犯ニアラス然レモ實際上過失殺傷ニモ共犯ナシト云フヲ得サルコトアリ例ヘハ父其小兒ニ教ヘ弓ヲ射ラシメタルニ其矢誤ヨ人ヲ殺傷シタル時ノ如キハ小兒及ヒ其父ハ共犯者ト云ハサルヲ得サルナリ但過失殺傷ニ付テハ未遂犯ハアラサルナリ

### 第五節 自殺ニ關スル罪

自殺ニ關スル罪ハ歐洲諸國ノ刑法ニ於テ種々議論アリ殊ニ自殺者ヲ罰スヘキヤ否ヤニ付テモ大ニ學者ノ論スル所ニシテ其論中宗教ノ説ヲ混合スルモノアリテ單リ自殺セシメ若クハ自殺ヲ幫助シタル者ノミナラス自殺者其人ヲモ罰セサル可カラスト論スルアリ請

フ此點ニ就テ一二辨明セシ

抑モ自殺ハ天賦ノ生命ヲ害スル野蠻ノ陋習ニシテ之ヲ皮相ヨリ見ル時ハ甚タ勇壯ナルカ如シト雖モ其勇氣ヤ卑劣ニシテ貴フニ足ラズ故ニ之レカ刑ヲ設ケテ罰セサル可カラサルカ如シ然リト雖モ自殺ノ既遂犯ハ罰スル能ハサルモノニシテ唯未遂犯ノ場合ニ於テ罰スルコトヲ得可キノミ然ルニ已遂犯ヲ罰セスシテ獨リ未遂犯ヲ本罪トシ罰スルキハ是レ自殺ヲ遂ケサルノ所行ヲ罰スルカ如ク實ニ奇怪ノ有様ヲ生スルニ至ルヘシ

又一所爲ヲ以テ罪トシ論スルニハ道德ニ背キ社會ヲ害スルモノタルヲ要スルコトハ業ニ已ニ諸君ノ諒知スル所ナリ而シテ自殺ハ此二者ハ具フルモノカ或人ノ説ニ曰ク自殺ハ其所爲卑劣ニシテ自ラ天賦ノ生命ヲ絶ツ如キハ道德ニ背悖スルモノナリ又已レ生命ヲ抛テ



死スルニ於テハ其妻子眷屬ノ困苦ヲ來スヲ以テ自然社會ヲ害スルモノナレハ之レヲ罰セサルヘカラスト此理由タル甚ダ薄弱ナリ何トナレハ人ノ生存權タル最モ重ノスヘキモノナリト雖モ其權タル自己ノ有スル所ニシテ此權ヲ棄損スルモ他ヲ害シタリト云フヲ得サレハナリ例ヘハ今我カ所有ナル金錢ヲ海中ニ投スルモ決シテ罰ヲ受クルコトナシ然ラハ己レノ所有ナル生命ヲ拋棄スルモ亦何ソ罰スヘキノ理アラシヤ

是ニ由テ之ヲ觀レハ自殺罪ノ原因タル自殺者ハ罰スヘキモノニアラズ然ラハ則テ之ヲ幫助シ若シハ之ヲ行ハシメタル者モ亦罰スルノ理ナキカ如シ然レモ此等ノ者タル必ス罰セサルヘカラス若シ法律ニ於テ別ニ正條ヲ設ケサルキハ謀殺ノ正犯者ハ從犯ヲ以テ論セサル可カラズ是レ假令本人ノ依託アルモ其所爲タル罪ヲ構造スル

モノニシテ本人ノ自カラ死センコトヲ承諾シ之ヲ囑託シタルハ毫モ自殺ヲ助ケタル人ニ影響ヲ及ホスノ理ナケレハナリ然レモ謀殺ヲ以テ論スルハ甚ダ嚴酷ナリ何ントナレハ謀殺ニハ性質上詐欺ノ意ヲ含蓄スルモノニノ自殺ヲ助ケタル場合ニ於テハ斯ル詐欺ノ意ヲ含ムコトナケレハナリ但故殺ノ罪ハ決シテ免レサル可シ故ニ自殺ヲ助ケタル者ハ無期徒刑ヲ以テ論スヘキカ如シ然リト雖モ其所爲タル本人ノ依託ヲ受ケ之ヲ助ケタルモノナレハ惡意ノ少ナキノミナラス或ハ本人ノ困難ヲ免レシムル如キ善意ヲ以テ爲スコトアリ故ニ故殺ヲ以テ論スルモ尙酷ニ過リ別ニ本節ヲ設ケテ罰スル所以ナリ

第三百二十條 人ヲ教唆シテ自殺セシメ又ハ囑託ヲ受ケテ自殺人ノ爲メニ手ヲ下シタル者ハ六月以上

(第三百二十條)

五百三十七



三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其他自殺ノ補助ヲ爲シタル者ハ一等ヲ減ス

本條ノ教唆者ト下手者ト同刑ニ處スルハ權衡ヲ得タルモノニアラサルカ如シ宜シク教唆者ヲ重クスルヲ至當トスヘシ何ントナレハ教唆シテ自殺セシメタルモノト自殺者ノ囑託ヲ受ケテ手ヲ下シタルモノトハ固ヨリ同一般ノモノニアラサレハナリ

第三百二十一條 自己ノ利ヲ圖リ人ヲ教唆シテ自殺

セシメタル者ハ重懲役ニ處ス

本條ノ自己ノ利ヲ圖リ人ヲ教唆シテ云々トハ實ニ其場合ナキカ如シト雖モ亦之レナキヲ保シ難シ被教唆者ニシテ愚鈍ナルキノ如キ

ハ其教唆ニ陷ルヲナシトセス本條モ亦其刑ノ輕キヲ覺ユルナリ本節ニ於テ疑問ノ起ルハ情死ノ一ナリ今情死ヲ爲スニ當テ男子ノ女子ヲ殺シ而シテ自己ノ死スル能ハサルキハ本節ノ罪ニ問フ可カラサルカ如シ何ントナレハ其意元ト女子ト共ニ死セント欲シタルモノナレハナリ然レモ自己ノ死セント欲スル意思ハ女子ノ自殺ヲ助ケタル所爲ニ毫モ影響ヲ及ボサ、ルモノナレハ本節ニ依テ處斷ス可キヤ疑フヘカラサルナリ但シ此場合ハ男子ノ女子ヲ殺シテ己レ死スル能ハス生存シタルキニシテ男女各自ニ兇器ヲ以テ自殺シ女子ノミ死シ男子ノ死セサル如キハ男子ニ於テ罪アルヲナシ自殺者死ニ至ラサルモ己ニ囑託ヲ受ケテ手ヲ下シタルキハ之ヲ罰ス可キヤ如何下手者意外ノ障礙又ハ舛錯ヲ以テ止メタルキハ未遂犯ヲ以テ論ス可キモノナリト雖モ若シ自己ノ意ヲ以テ止メタルキ



ハ無罪ナリ何トナレハ自殺者ノ死セサルキハ其死シタルキト趣チ  
異ニシ下手者ノ自殺者ヲ傷シタルハ固ト其囑託ヲ受ケテ爲シタル  
モノナレハ過失創傷ニ非ス又毆打創傷ニモ非ス全ク約束ヨリ出ル  
モノナレハナリ

第六節 擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪

本節ハ人ノ自由ヲ束縛スルヨリ生スル罪ニシテ人民ノ人ヲ逮捕監  
禁スルヲ云フモノナリ若シ此罪ヲ犯ス者官吏ナルキハ第二編ノ公  
益ヲ害スル罪ノ中ニ入ル可キモノナリ但シ官吏ト雖モ人民ノ資格  
ヲ以テ爲シタルキハ此節ニ問フ可キモノトス

第三百二十二條 擅ニ人ヲ逮捕シ又ハ私家ニ監禁シ

タル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓

以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但監禁日數十日ヲ  
過クル毎ニ一等ヲ加フ

人民ニモ人ヲ逮捕スルノ權ヲ有スルコトアリ彼ノ現行犯ノ場合ニ於  
テ其犯人ヲ捕縛スルヲ得ルカ如キ是ナリ故ニ本條擅ニノ文字ヲ記  
載シテ其專横ナルキヲ示セリ監禁トハ廣漠タル文字ニシテ一室内  
ニ押込メ或ハ一邸宅ヲ圍繞シテ其出入ヲ止ムルカ如キ是レ皆監禁  
中ニ包括セリ故ニ監禁ノ文字ハ廣狹ノ二意ヲ含ムモノトス  
此監禁ノ罪タル人ノ天性タル自由ヲ妨クルモノニシテ古昔羅馬ニ  
於テハ之ヲ謀反ノ罪トナシ死刑ニ處シタリ其然ル所以ノモノハ人  
ヲ監禁スルノ權ハ國王ノ特權ナレハ人ヲ監禁スルモノハ取りモ直  
サス國王ノ特權ヲ侵シタルモノトナセハナリ然レモ是レ甚タ附會  
ノ説ト云フヘシ



本條ヲ適用スルニ當テハ裁判官タル者尤モ注意ヲ加ヘサルヘカラ  
ス何ントナレハ父兄ノ小兒ヲ教訓スルカ爲メニ監禁シ夫ノ妻ヲ戒  
メシカ爲メニ監禁スル如キヲ往々之レアレハナリ

第三百二十三條 擅ニ人ヲ監禁制縛シテ毆打拷責シ  
又ハ飲食衣服ヲ屏去シ其他苛刻ノ所爲ヲ施シタル  
者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三  
十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百二十四條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病死傷  
ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從  
テ處斷ノ

第三百二十五條 擅ニ人ヲ監禁シ水火震災ノ際其監  
禁ヲ解クヲ怠リ因テ死傷ニ致シタル者ハ亦前條  
ノ例ニ同シ

此三條ハ講スヘキヲナシ

(第六十二回)

前講ノ自殺ニ關スル罪ニ就テ尙ホ一言スヘキヲアリ即チ前回ニ於  
テ自殺ニ關スル罪ヲ犯シ自ラ止マリタルキハ其下手者ハ無罪ナリ  
ト陳ヘシカ嘗テ決闘ノ罪ヲ講スルニ當リ決闘シテ傷ヲ成シ止リタ  
ルキハ毆打創傷ヲ以テ論ス可キモノナリト云ヘリ然レハ此自殺罪  
ヲ犯シテ自ラ止リタルキモ亦毆打創傷ヲ以テ論ス可キカ如シ何ン  
(第三百二十三條)(第三百二十四條)(第三百二十五條) 五百四十三



トナレハ自殺ヲ助クルモ決闘ヲ爲スモ其ニ契約ヨリ出テタルモノ  
ナレハナリ然レモ我立法者ノ精神ヲ探ルニ自殺ヲ助ケタル者ハ決  
シテ毆打創傷ヲ以テ論セサルノ意ナル可シ何ントナレハ毆打殺傷  
ノ罪ト自殺ニ關スル罪トヲ比較スルニ毆打創傷ノ罪ハ其刑重ク自  
殺ニ關スル罪ハ輕シ是ヲ以テ若シ自殺ニ關スル罪ノ中途ニテ止マ  
リタル者ヲ毆打創傷ニ問フトモハ中途ニテ止マリタルハ毆打創  
傷トナリテ其刑重ク中途ニテ止マラスシテ遂ケタルハ其刑輕キ  
ノ不權衡ヲ生スルニ至レハナリ故ニ自殺ヲ中止シタルモノハ立法  
者ニ於テモ之ヲ罪トシ論セサルヤ明カナリ且ツ第三百二十條ノ罪  
ハ輕罪ナレハ別ニ明文ナキニ因リ未遂犯ヲ問ハサレハ假令意外ノ  
障礙又ハ舛錯ニ因テ止メタルモ之ヲ罰スルヲナシ況ンヤ自カヲ止  
マリタル者ニ於テチヤ之ヲ罰セサルヲ明瞭ニシテ此ニ喋々ヲ要セ

サルナリ

或説ニ曰ク手ヲ下シタル者ハ自殺者ノ死スルト否トヲ問ハス一旦  
手ヲ下セハ已ニ罪トナルモスナレハ自殺者ノ死セサル時ニ於テモ  
罰ス可キモノナリト是レ牽強附會ノ説ナリ我立法者ハ本條ニノミ  
此文法カ用ヰタルニアラス他ノ所ニ於テモ往々見ル所ニシテ就レ  
モ皆既遂ノ場合ニ適用セリ

第七節 脅迫ノ罪

脅迫トハ暴行ニ對スル義ニシテ言語ヲ以テ人ヲ恐喝畏懼セシメ金  
錢財産ヲ取ントシ又ハ其他ノ事件ヲ満足セシメントスルニ在リテ  
其罪輕キニ非ス

第三百二十六條 人ヲ殺サント脅迫シ又ハ人ノ住居  
シタル家屋ニ放火セント脅迫シタル者ハ一月以上

(第三百二十六條)



六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

毆打創傷其他暴行ヲ加ヘント脅迫シ又ハ財産ニ放火シ及ヒ毀壞劫掠セント脅迫シタル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ハ處シ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

脅迫ハ其目的ヲ達スルニ十分ノ力アリタル時ニアラサレハ罪トナラス彼ノ口論ヲ爲シタル未汝ヲ殺スヘシト云ヒタル如キハ其目的ヲ達スルノ意ニアラサレハ本條脅迫罪ニ問フヘキモノニ非ス故ニ立法者ノ罰セント欲スル所ノ脅迫罪ハ惡意アリテ動モスレハ其言ノ如ク爲サントスル場合ヲ云フナリ

本條ノ人ヲ殺サント脅迫シトハ單ニ脅迫シタルト云フニ非ス必ス條件ノ附加スルヲ要ス例ヘハ金ヲ與ヘサレハ殺スヘシト脅迫シタル如ク他ノ條件ヲ爲サシメシメ爲メ脅迫ヲ爲ス場合ヲ云フナリ此脅迫罪ハ無形上威迫スルノミナレハ其刑輕カラサルヲ得サレトモ本ノ刑ハ少ク輕キニ失スルカ如シ

第二項 毆打創傷其他暴行ヲ加ヘントハ身体ニ對スル場合ヲ云ヒ放火及ヒ毀壞劫掠トハ財産ニ對スル場合ヲ云フナリ斯ク立法者ハ身軀ニ對スル場合ト財産ニ對スル場合トヲ列記シタレハ爲メニ却テ脱漏ノ場合アルカ如シ何トナレハ人ノ榮譽ヲ害セント脅迫スルヲ掲ケサレハナリ例ヘハ余ノ爲メニ云々ノ事件ヲ爲サレハ汝ノ云々ノ惡事ヲ新聞紙上ニ掲載セント脅迫スル如キ是レナリ

第三百二十七條 兇器ヲ持シテ前條ノ罪ヲ犯シタル

(第三百二十七條)



者ハ各一等ヲ如フ

本條ハ兇器ヲ持シ脅迫スレハ其危險實ニ大ナリ故ニ其刑亦從テ重シ

草案及ヒ外國法律ニハ文書ヲ以テ脅迫シタル場合ヲ規定セリ例ハ手紙ヲ寄テ汝何々ノ處ニ金錢ヲ備ヘ置カサレハ明日汝ヲ殺スヘシト脅迫スル如シ即チ脅迫ハ獨リ言語ニ因ルノミナラス文書ヲ以テスルコトアリテ其情重キカ故ニ之ヲ特書シタルナリ而シテ我立法者ノ特ニ之ヲ明記セサルハ我國未タ此等ノ惡風行ハレサルヲ以テ之ヲ言語ヲ以テシタル者ト同視シタルナリ

第三百二十八條 親屬ニ害ヲ如フ可キ事ヲ以テ脅迫

シタル者ハ亦前二條ニ同シ

本條ハ前二條ニ同シ別解釋ヲ要セス

第三百二十九條 此節ニ記載シタル罪ハ脅迫ヲ受ケ

タル者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

脅迫ノ罪ハ何故直チニ公訴起ラヌシテ告訴ヲ要スルカ曰ク脅迫ハ其被害者ノ畏懼スルト否ヤトニ因テ罪ノ有無ヲ決スルモノニシテ人ノ性ニ強弱ノ別アリ膽力ニ剛怯ノ差アレハ如何ニ劇シキ脅迫ト雖モ敢テ意トセサル者アリ些少ノ脅迫ト雖モ大ニ畏懼ヲ懷ク者アリテ其人ニアラサレハ容易ニ之ヲ知ル能ハス是レ其告訴ヲ待ツ所以ナリ

草案ニハ脅迫ヲ受ケ因テ疾病又ハ自死ニ致シタル者ハ加等スルコトヲ規定セシカ我立法者ハ之ヲ刪除セリ蓋シ脅迫ニ因リ自殺シ又ハ狂氣スル如キハ甚々稀ナルヲ以テノ故ナル可シト雖モ此事ヲ規定セサルニ於テハ脅迫ノ爲メ狂氣シ又ハ自殺スルモ通常脅迫ノ場合

(第三百二十八條)(第三百二十九條)



ト其罪同一ナルノ不權衡アルカ故ニ草案ノ如ク規定スルヲ可トス  
ルカ如シ

### 第八節 墮胎ノ罪

我國ニ於テハ古來ノ刑法ニ因テ見ルニ墮胎罪ハ其刑輕シト雖モ歐  
洲ニ於テハ古昔其刑大ニ重カリシ元來胎中ニ在ル者ヲ殺スハ既ニ  
出產シタル者ヲ殺スヨリモ其罪輕シト雖モ古昔歐洲ニテ其刑ヲ重  
クセシ所以ノモノハ蓋シ其既ニ出產セル者ヲ殺ス重刑ノ點ヨリ比  
較ヲ取リシカ故ナラン今世上ノ有様ヲ通覽スルニ世ノ開明ニ進ム  
ニ從ヒ人情輕薄ニ趣キタルニヤ墮胎ノ罪ヲ犯ス者益々多キヲ加フル  
ニ至レリト云フ然リト雖モ墮胎ヲ爲スモノハ蓋シ私通ノ爲メ懷胎  
シ之ヲ出產スレハ名譽ヲ汚シ或ハ貧困ニシテ生育スルノ目途ナキ  
ニ原因スルモノナルヲ以テ現今ニ至テハ各國皆其刑ヲ輕クセリ

第三百三十條 懷胎ノ婦女藥物其他ノ方法ヲ以テ墮  
胎シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

本條ハ婦女自ラ墮胎シタル場合ナリ

第三百三十一條 藥物其他ノ方法ヲ以テ墮胎セシメ  
タル者ハ亦前條ニ同シ因テ婦女ヲ死ニ致シタル者  
ハ一年以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

本條ハ婦女ノ承諾ヲ得テ墮胎セシメタルモノニシテ其情狀前條ノ  
婦女自ラ墮胎シタルトヨリ重キモノナリ然ルニ同刑ニ處スルハ少  
ク當テ失スト云ハサルヘカラス

第三百三十二條 醫師穩婆又ハ藥商前條ノ罪ヲ犯シ  
タル者ハ各一等ヲ加フ

(第三百三十條)(第三百三十一條)(第三百三十二條)



醫師穩婆等ハ此罪ヲ犯シ易キヲ以テ之ヲ防ンカ爲メニ特ニ刑一等ヲ重クセリ

第三百三十三條 懷胎ノ婦女ヲ威逼シ又ハ誑騙シテ墮胎セシメタル者ハ一年以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

本條ハ其所爲殘酷ナルヲ以テ其罪自ラ重シ故ニ刑ヲ重クセリ

第三百三十四條 懷胎ノ婦女ナルヲ知テ毆打其他暴行ヲ加ヘ因テ墮胎ニ至ラシメタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス其墮胎セシムルノ意ニ出タル者ハ輕懲役ニ處ス

第三百三十五條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ婦女ヲ癡篤疾又ハ死ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

此二條別ニ講スヘキトナシ

### 第九節 幼者又ハ老疾者ヲ遺棄スル罪

本節ノ罪モ亦前節ト同ク古昔ハ重刑ナリシカ現今ハ之ヲ輕クセリ是レ一ニ一家ノ貧困ヨリ遺棄スルモノニシテ幼者老疾者ノ如キ之ヲ家ニ養ヘハ到底餓死ヲ免レス若シ遺棄スレハ或ハ慈善者アリテ之レヲ養育スルアラント万一ヲ希望スルヨリ不得已策ノ此ニ出ツルモノ少ナシトセス殊ニ養育スル能ハサル時ハ育兒院或ハ養育院等ニ入ル、ノ方法アレヒ其入院ノ手續繁雜ニシテ且ツ概テ常ニ滿

(第三百三十三條)(第三百三十四條)(第三百三十五條) 五百五十三



員チレハ其欠員ヲ待ツコ多クノ日數ヲ要スルヲ以テ支持スルニ堪  
ユル能ハスシテ遂ニ遺棄スルニ至ルモノアリ故ニ其情實ニ憫ムヘ  
シト雖生人ヲ遺棄スルハ人情ノ忍ヒサル所敢テ不問ニ付スルヲ  
得ス是レ之ヲ罰スル所以ナリ

第三百三十六條 八歳ニ滿サル幼者ヲ遺棄シタル者

ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

自ラ生活スルヲ能ハサル老者疾病者ヲ遺棄シタル  
者亦同シ

八歳以上ノ幼者ヲ遺棄スルハ本條ノ管スル所ニアラス而シテ此ニ幼  
者ノミ年ノ制限ヲ立テ老者ニ至テハ其年齢ヲ問ハサルハ奇ナルカ  
如クナレハ是レ自ラ生活スル能ハサル老者ヲ云フモノニシテ其制

限ヲ立テサルハ却テ可ナリ依テ其老者タルヤ否ヤハ裁判官ノ判定  
ニ任ス可キモノニシテ疾病者タルト否ヤモ亦裁判官ノ判定ニ任ス  
可キモノナリ

第三百三十七條 八歳ニ滿サル幼者又ハ老疾者ヲ寥

闕無人ノ地ニ遺棄シタル者ハ四月以上四年以下ノ  
重禁錮ニ處ス

寥闕無人ノ地トハ裁判官ノ判定ニ任スト雖ハ蓋シ人ノ通行稀ナル  
原野山林等ヲ指シタルナラン本條ハ其刑輕キヲ覺ユ何ントナレハ  
市街等通行繁キ地ニ遺棄スルハ人或ハ救助スルアルモ原野山林等  
無人ノ地ニ遺棄スルハ他人ノ救助ヲ得ル能ハスシテ屢々死ニ瀕ス  
ルノ場合アレハナリ

(第三百三十六條)(第三百三十七條)



第三百三十八條 給料ヲ得テ人ノ寄託ヲ受ケ保養ス  
可キ者前二條ノ罪ヲ犯シタル時ハ各一等ヲ加フ

本條モ亦其刑輕キヲ覺ユ何ントナレハ給料ヲ得テ保養スヘキノ任アレハナリ

第三百三十九條 幼者老疾者ヲ遺棄シ因テ癱疾ニ致シタル者ハ輕懲役ニ處シ篤疾ニ致シタル者ハ重懲役ニ處シ死ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處ス

我刑法中致シタルノ文字ハ屢見ル所ナリト雖モ本條ノ如キハ尤モ注意ヲ要ス即チ遺棄シタルノ原因ニテ癱篤疾或ハ死ニ致シタルヲ云フモノニシテ假令遺棄スルモ他ノ原因ヨリ癱篤疾或ハ死ニ致シタル時ハ本條ノ罪ニアラサルナリ

第三百四十條 自己ノ所有地又ハ看守ス可キ地内ニ遺棄セラレタル幼者老疾者アルヲ知テ之ヲ扶助セス又ハ官署ニ申告セサル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス  
若シ疾病ニ罹リ昏倒スル者アルヲ知テ扶助セス又ハ申告セサル者亦同シ

本條ハ不行犯中尤モ著シキモノナリ而シテ扶助セス又ハ申告セサルトハ有意ノ時ニシテ無意ノ時ヲ云ヒタルモノニ非サルナリ

### 第十節 幼者ヲ略取誘拐スル罪

本節ノ罪ハ古來ヨリ多ク行ハル所ノ罪ニシテ就中婦女ヲ誘拐スル

(第三百三十八條)(第三百三十九條)(第三百四十條)



如キハ其例少ナカラサルナリ

第三百四十一條 十二歳ニ滿サル幼者ヲ略取シ又ハ

誘拐シテ自ラ藏匿シ若クハ他人ニ交付シタル者ハ

二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以

下ノ罰金ヲ附加ス

第三百四十二條 十二歳以上二十歳ニ滿サル幼者ヲ

略取シテ自ラ藏匿シ若クハ他人ニ交付シタル者ハ

一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五十圓以上五十圓

以下ノ罰金ヲ附加ス其誘拐シテ自ラ藏匿シ若クハ

他人ニ交付シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮

ニ處シ一圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

此二條ノ罪ハ有意犯タルヲ論テ俟タサルナリ略取トハ幼者ヲ強テ

奪ヒ去ルヲ云ヒ誘拐トハ小兒ニ菓子等ヲ與ヘ誘ヒ行クカ如キヲ云

フ又藏匿トハ如何ナルヲナルヤ今假令自家ニ藏匿スルモ尋ヌル者

アルニ當テ之ヲ返スキハ藏匿ト云フヘキモノニ非ス自家ニ藏匿シ

尋ヌル者アルモ之ヲ秘シテ出サ、ル時ヲ云フモノナルヘシ故ニ我

刑法ノ成文上ヨリ見ル時ハ假令略取誘拐スルモ自ラ藏匿セス又ハ

他人ニ交付セサルニ於テハ罪トナラサレモ實際上ヨリ之ヲ見レハ

自カラ藏匿シ又ハ他人ニ交付シタルト其結果何ソ異ナラシヤ例ヘ

ハ今遠方ヨリ小兒ヲ略取又ハ誘拐シ來リ自カラ藏匿セス又ハ他人

ニ交付セサル如キ或ハ之ヲ略取シ或ハ誘拐シ來ルモ途中ニ遺棄シ

タル如キ皆罪トナラサレモ其實際ノ有様ニ至テハ自カラ藏匿シ又

(第三百四十一條)(第三百四十二條)



ハ他人ニ交付シタルモノト少シモ異ナラサルナリ而シテ途中ニテ遺棄シタルキハ幼者ヲ遺棄スル罪ニ問フヲ得ル如クナレモ其性質全ク異ナレハ是レ亦タ罪トナラサルナリ

或者ノ説ニ曰ク自カラ藏匿シ又ハ他人ニ交付セサル者ヲ罰セサル所以ハ若シ之ヲ罰スルキハ迷子ヲ伴ヒ來リタル者ヲ罰セサルヘカラホルニ至レハナリト此説不可ナリ何ントナレハ畧取誘拐ハ有意犯ナレハ惡意ヲ以テ爲ス場合ヲ云フモノニシテ迷子ヲ伴ヒ來ル如キ毫モ惡意ナケレハ畧取誘拐ト云フヲ得サレハナリ而シテ自カラ藏匿シ又他人ニ交付シタルト否ヤトニ因テ其結果ニ差違ヲ來サレハ此藏匿交付云々ノ文字ハ刪除スルヲ可ナリトスルカ如シ誘拐トハ既ニ前ニモ説明セシ如ク小兒ヲ騙欺シ伴ヒ來ルヲ云フ然ルニ若シ幼者自カラ進テ隨ヒ來リタルキハ如何之ヲ誘拐トスレハ實ニ

奇怪ノ結果ヲ生ス十五六歳ノ婦女或ル男子ニ戀着シテ來リタル時ノ如キモ此男子ヲ罰セサル可カラサルニ至ラン然ラハ則チ此男子ハ自己ニ惡意アルニ非スシテ他人ノ所爲ノ爲メニ刑ヲ受ケサル可カラス豈如此理アラシヤ故ニ幼者自ラ進テ隨ヒ來リタル如キハ誘拐ニ非サルナリ法文ニハ單ニ誘拐トノミアリテ其意ノ如何ハ明瞭ナラサレモ理論上斯ク解釋セサルヲ得ス

草案ハ此疑義ヲ防カン爲メ其意ヲ明示シ第三百四十一條ニハ詐欺其他ノ方法ヲ以テ誘拐シトアリタリ而シテ第三百四十二條ニハ詐欺又ハ眩惑シテ誘拐シタルキトアリテ前條ノ如ク其他ノ方法ノ文字ナカリシ故ニ二十歳以下十二歳以上ノ幼者ハ詐欺眩惑ノ外他ノ方法ヲ以テ誘拐スルモ罪トナラサルナリ由是觀之男子十二歳以上二十歳以下ノ婦女ト相約シ其婦女ヲ他ニ伴ヒ行キタル如キハ罪トナ



ヲサルモノト決定セサル可カラス

第三百四十三條 略取誘拐シタル幼者ナルヲ知テ

自己ノ家屬僕婢ト爲シ又ハ其他ノ名稱ヲ以シ之ヲ

收受シタル者ハ前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス

略取誘拐ノ幼者ヲ收受シタル者ハ略取誘拐者ニ比スレハ其情狀輕  
キヲ以テ一等ヲ減スルナリ

第三百四十四條 前數條ニ記載シタル罪ハ被害者又

ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス但略取誘拐セラ

レタル幼者式ニ從テ婚姻ヲ爲シタル時ハ告訴ノ効

ナシ

本條ニ前數條ノ罪ハ被害者又ハ親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ストア  
リ余ノ考フル所ニ由レハ第三百四十二條ノ罪ハ告訴ヲ待テ其罪ヲ  
論スルハ至當ナリト雖モ第三百四十一條ノ罪ニ付テハ大ニ疑ヲ存  
セサルヲ得ス何ントナレハ第三百四十二條ノ場合ニ於テハ多ク戀  
情ヨリ生スルモノニシテ假令婦女ヲ略取スルモ後ニ至リ其婦女妻  
妾トナルヲ承諾スルヲアレハ告訴ヲ待タスシテ其罪ヲ論スルニ於  
テハ却テ害ヲ受ケ且裁判宣告ノ爲メ榮譽ヲ害スルニ至ル可シ然レ  
モ第三百四十一條ノ幼者ニ至テハ如斯不都合ヲ生スルヲナク且ツ  
榮譽ヲ害スルヲモナケレハナリ

第二項 略取誘拐セラレタル幼者式ニ從テ婚姻ヲ爲シタルモ告  
訴ノ効ナシト式トハ何ヲ指シテ云フカ我國ニハ未タ婚姻ノ式ナル  
モノアラス彼ノ三々九度ノ如キハ法律上ヨリ之ヲ式ト云フヘカラ

(第三百四十三條)(第三百四十四條)



然レハ其妻タルヲ戸籍面ニ登記スルヲ以テ式ヲ行フタルモノト云ハサルヲ得サルナリ  
 婚姻シタル時告訴ノ効ナシトセシ所以ノモノハ若シ告訴ノ効アリトスルキハ夫婦トナルノ後妻其夫ノ小過失アルモ常ニ告訴セシトテ陳ヘテ夫ヲ壓服セシメ遂ニ一家ノ和合ヲ完フスル能ハサルカ故ナリ但シ婚姻セントナルニハ必ス本人親屬ノ許諾ヲ要スルモノナレハ一旦許諾ヲ與ヘ其告訴權ヲ拋棄シ後ニ至リ再ヒ告訴スル如キトハ實際決シテアラサル可シ  
 本條ノ終リニ臨ミ一言ス可キトアリ即チ前數條ノ罪ハ何故ニ被害者ノ告訴アリタルキ其罪ヲ論スルノミナラズ親屬ノ告訴シタル時モ亦之ヲ論スル歟是レ親屬モ亦被害者ニシテ本條ニ被害者又ハ親屬ト記載シタルハ親屬モ被害者タルヲ明瞭ナラシムルカ爲メナリ

リ但シ玆ニ親屬ノミチ記載シ幼者ノ後見人ノ事ヲ記載セサルニ因リ親屬ナキ幼者ノ略取誘拐セラレタル時ハ其後見人ハ之レカ取戻ノ訴ヲ爲スヲ得ルモ之ヲ告訴スルヲ得ス論者或ハ云フ治罪法第九十八條二項ニ無能力者ノ告訴ハ法律ニ定メタル代人ヲ爲スモ効アリトストアリ而シテ此法律ニ定メタル代人トハ明治十四年第七十三號布告ニ依テ見レハ幼者ニ付テハ父若クハ母又ハ親屬後見人ナリ故ニ後見人ハ幼者ニ代リ自己ノ名義ヲ以テ告訴スルヲ得可シト論者ノ說一理ナキニ非スト雖モ該條二項ノ告訴中ニハ告訴ヲ待テ受理ス可キ事件ノ告訴ハ含蓄セサルナリ何ントナレハ若シ之ヲ含蓄スル者トセハ幼者若クハ治産ノ禁ヲ受ケタル者誹毀セラレタルニ當テ毫モ之ヲ意ニ介セサル時ニ於テモ其法律上ノ代人ナル後見人若クハ管財人ハ之ヲ告訴スルヲ得ルニ至レハナリ夫レ



誹毀ノ事タル被害者其人ニ非レハ其感覺ノ程度ヲ知ル能ハス且ツ  
 誹毀ヲ受ケタルノ世間ニ流布スル時ハ却テ名譽ヲ害スルヲ恐レ  
 之ヲ秘セントスル者アルニ因リ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論スル  
 者ナリ然ルニ他人ナル後見人管財人ノ之ヲ告訴スルヲ得ルトセ  
 ハ立法ノ精神ニ反スルナリ又論者ノ説ノ如クセハ治産ノ禁ヲ受ケ  
 タル者ノ妻姦通シタル時本夫ハ之ヲ秘シテ告訴セラント欲スル  
 モ管財人ハ告訴シテ之ヲ公ケニスルヲ得ルニ至ル可シ豈ニ奇怪ノ  
 至リナラスヤ故ニ法律上ノ代人ト雖モ告訴ヲ待テ受理ス可キ事件  
 ニ付テハ本人ノ委任ヲ受ケスシテ自己ノ意ヲ以テ告訴スルヲ得サ  
 ルモノニシテ治罪法第九十八條二項ノ告訴中ニハ告訴ヲ待テ受理  
 ス可キ事件ノ告訴ハ含蓄セサルモノト決定セサル可カラサルナリ  
 然レモ此告訴ヲ待テ受理ス可キ事件ト雖モ第三百二十九條第三百

四十四條第三百五十條ノ場合ノナキハ被害者又ハ親屬ノ告訴シ能  
 ハサル時ハ法律上ノ代人ノ之ヲ爲サ、ル可カラサル場合アリ然ルニ  
 此等ノ條ニハ唯被害者又ハ親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ストアルノ  
 ミニテ幼者ノ後見人及ヒ白痴瘋癲人ノ保管人ノ事ナシ又刑法ニ於  
 テ親屬ト稱スル者ハ上ハ高曾祖父母ヨリ下ハ遠キ配偶者ノ父母ノ  
 兄弟姉妹ニ至ル迄ヲ云フ然ラハ此親屬ハ皆告訴シ得ル乎若シ告訴  
 シ得ルトセハ一ノ犯罪ニ付キ數人乃至數十人ノ告訴者アルニ至ラ  
 ノ故ニ第四百十條ノ親屬中告訴シ得ル者ハ最モ近親ノ者ニシテ且  
 ツ其近親ノ者ニ於テ棄權シタル時ハ其次位ニ在ル者ハ告訴スルヲ  
 得サル者トナサ、ル可カラス

然リ而シテ此親屬ノ遠近ヲ知ルハ第四百十四條ニ規定スル順序ニ從フ  
 可キカ如シト雖モ該條ニハ祖父母父母夫妻トシテ祖父母ヲ第一ニ



置キシテ以テ此順序ニ從フヲ得大例ヘハ茲ニ祖父母父母夫妻ノ三親屬アリトセンニ妻強姦セラレタル時ハ何人ヨリ告訴ス可キヤ被害者タル妻ヨリ先ニス可キハ勿論ナレトモ妻ノ自ラ告訴セサル時ハ該條ノ順序ニ因レハ被害者ノ次ハ祖父母其次ハ父母其次ハ夫ナリ是レ甚タ不都合ト云フ可シ故ニ該條ノ順序ヲ改メ夫妻父母祖父母トシ而シテ夫妻棄權スレハ父母ハ告訴スルヲ得ス父母棄權スレハ祖父母ハ告訴スルヲ得スト爲サ、ル可カラス

斯ク第百十四條ノ親屬ノ順序ヲ改ムルモ尙ホ不都合アルヲ免レズ例ヘハ母強姦セラレタルニ當リ母及ヒ父ハ之ヲ秘シテ告訴セザラント欲スルモ子ハ之ヲ告訴シ得ルノ不都合アリ何ントナレハ被害者又ハ親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ストアリテ其親屬ノ何タルヲ問ハサレハナリ故ニ卑屬親ハ近親ノ者ト雖モ告訴スルヲ得サルモノ

ト爲サ、ル可カラス

是故ニ本條及ヒ第三百二十九條第三百五十條ハ皆之ヲ改正スルノ必要アルカ如シ而シテ其之ヲ改正スルノ要旨ハ則チ告訴ヲ待テ受理ス可キ事件ヲ告訴ス可キ者ハ被害者又ハ最近ノ尊屬親後見人保管人トシ而シテ被害者能力者ニシテ告訴ヲ棄權シタル時ハ他ノ親屬以下ノ者ハ告訴スルヲ得ストセハ前ニ陳フルカ如キ不都合ヲ生スルトナカラシ草案ニ依テ觀レハ被害者又ハ親屬代人ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ストアリシカ如何ナル故カ審査ノ際代人ノ文字ヲ刪除セラレタリ

第三百四十五條 二十歳ニ滿サル幼者ヲ略取誘拐シ

テ外國人ニ交付シタル者ハ輕懲役ニ處ス

外國人ニ交付スルハ世上屢見ル所ニシテ且ツ其害モ大ナルニ因リ

(第三百四十五條)



本條其刑ヲ重クシ且ツ被害者ノ告訴ヲ待タズシテ其罪ヲ論スルナ  
リ

(第六十三回)

第十一節 猥褻姦淫重婚ノ罪

本節ニ於テハ猥褻ノ罪姦淫ノ罪重婚ノ罪及ヒ男女ノ淫行ヲ媒合ス  
ルノ罪ヲ規定セリ故ニ此ニ本節ノ總論ヲ述フル能ハサレハ直チニ  
各條ニ就テ講述セン

第三百四十六條 十二歳ニ滿サル男女ニ對シ猥褻ノ  
所行ヲ爲シ又ハ十二歳以上ノ男女ニ對シ暴行脅迫  
ヲ以テ猥褻ノ所行ヲ爲シタル者ハ一月以上一年以上以

下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附  
加ス

本條猥褻ノ所行トハ姦通強姦ノ如キ姦淫トハ差異アリテ猥褻ノ性  
質ハ立法者モ豫メ之ヲ定ムル能ハス一ニ裁判官ノ認定ニ委ヌ夫レ  
姦淫ハ交合ヲ目的トスレハ男女相持ツニ非サレハ行フ能ハサレ  
猥褻ノ所行ハ男ヨリ男ニ對シ女ヨリ女ニ對スルキト雖モ爲シ得ヘ  
キナリ改定律例ニ於テハ姦姦罪アリシカ此刑法ハ之ヲ規定セサル  
ヲ以テ或ハ之ヲ廢セシカヲ疑フモノアラント雖モ決シテ然ラス猥  
褻ノ所行中ニ含有スルモノナリ

佛國ニ於テ判決例アリ衆多ノ職人怨ミヲ報ソ爲メ一ノ職人ニ對シ  
猥褻ノ所行ヲ爲セリ是レ男ヨリ男ニ對シタルキナリト雖モ尙猥褻  
ノ所行ナリト裁判ナ下セリ

(第三百四十六條)



此猥褻罪ハ他ノ罪ト異ナリテ未遂犯ノ場合アラス何ントナレハ猥褻ノ所行ハ種々ノ事實ヨリ成立スルモノニシテ其之ヲ爲スニ目的アリテ爲スヲアリト雖モ其目的ノ如何ニ關セス一ニ裁判官ノ判定ニ任スモノナレハ若シ裁判官ニ於テ猥褻ノ所行ト認ムレハ直チニ此罪ヲ生スルモノナレハナリ

十二歳未満ノ男女ニ對シテハ假令暴行脅迫ヲ用ヒス双方ノ承諾アリト雖モ之ヲ罰ス元來猥褻ノ所行ハ公然之ヲ爲スカ又ハ脅迫ヲ以テ其自由ヲ束縛シテ爲シタル時ハ已ニ社會ヲ害スルニ因リ罰スヘキモノトス然レモ双方承諾ノ上家屋中ニテ密ニ爲スハ道德上ノ罪人ナレモ法律上ノ罪人ニアラサルナリ然ルニ十二歳以下ノ男女ニ至テハ之レニ異ナリ後來教育ヲ施シ善男賢女トナラシムルモノニシテ其思慮未タ猥褻ノ事タルヤ否ヤヲ識別セス然ルニ誘導シテ猥褻

ノ所行ヲ爲セハ遂ニ品行ヲ亂シ復タ救フヘカラサルノ弊ヲ生セン故ニ承諾ノ有無ヲ問ハス場所ノ公私ヲ擇ハス之ヲ罰スルナリ十二歳以上ノ男女ニ至ツテハ智識殆ント備ハリ道德モ亦粗ホ辨スルモノナレハ此者ニ對シテハ暴行脅迫ヲ以テ爲シタルモニアラサレハ罰スヘキモノニアラス暴行脅迫トハ如何ナルヲ指スカ立法者ニ於テモ之レカ一定ノ解ヲ與ヘス何ントナレハ法律上之レカ定解ヲ下スモ此レニ定ムレハ彼レニ脱シ決シテ網羅シ能ハサルモノナレハナリ故ニ其暴行脅迫タルノ認定ハ專ラ裁判官ニ委スルナリ夫ヨリ其妻ニ對シ強テ猥褻ノ所行ヲ爲シタル時ハ如何此場合ハ古來大ニ議論アリ學者ノ說ニ因レハ夫婦ノ間ト雖モ罰セサル可カラス然レモ此場合ヲ區別シ結婚ノ目的外ニ出テタルノ所行ハ之ヲ罰ス可キモ結婚ノ目的ヲ達セントスルニ出ツルモハ婦ハ之ニ應スル



ノ責任アレハ之ヲ罰スルヲ得サルナリ

第三百四十七條 十二歳ニ滿サル男女ニ對シ暴行脅

迫ヲ以テ猥褻ノ所行ヲ爲シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ

附加ス

本條ハ前條中已ニ講述シタルヲ以テ此ニ説明ヲ要セス

第三百四十八條 十二歳以上ノ婦女ヲ強姦シタル者

ハ輕懲役ニ處ス

藥酒等ヲ用ヒ人ヲ昏睡セシメ又ハ精神ヲ錯亂セシ

メ姦淫シタルモノハ強姦ヲ以テ論ス

本條ハ頗ル難問ヲ來スノ條ナリ此ニ暴行脅迫ノ一ヲ云ハス單ニ婦女ヲ強姦シタル者トアリテ之レカ解ヲ與ヘスト雖モ強姦罪ニハ暴行脅迫ヲ行フト姦スルトノ二元素ヲ有スルナリ而シテ婦女ノ承諾ナキハ凡テ強姦ヲ以テ論スヘキカ彼ノ婦女自ラ熟睡シタル時ニ乘シ姦シタルカ如キ是レナリ此事ニ付キ佛國大審院ニ於テ強姦ヲ以テ論シタルノ判決例アリ一日或ル旅宿ノ主人數人ノ客ト對酌シ半夜ニ至リシニ客人竊ニ其旅宿ノ婦ノ寢室ニ至リ主人ノ如キ爲子シテ姦セントセシニ婦ハ已レノ夫ナリト誤認シテ之ニ應シタルトアリシニ或ル重罪裁判所ハ強姦ニ非スト裁判セシカ大審院ハ之ヲ破毀シテ強姦ナリト判決セリ我刑法ハ睡眠ノキニ乘シテ姦スル如キハ強姦ト認メサルカ如シ何ントナレハ本條第二項ニ於テ藥酒等ヲ用ヒ人ヲ昏睡セシメ又ハ精神ヲ錯亂セシメテ姦淫シタル者ハ強姦

(第三百四十七條)(第三百四十八條)



ヲ以テ論ストアルヲ以テ見レハ此方法ニ出テサルニ於テハ假令承  
 諾ナキモ強姦ト爲スヲ得サルト明カナレハナリ  
 反對論者ノ説ニ曰ク立法者ハ單ニ強姦ト記スルノミニシテ其解釋  
 ナ與ヘス故ニ第一項ノ強姦云々ハ其意甚タ廣キモノニシテ婦女ノ  
 承諾ヲ得サルキハ如何ナル場合ヲモ加入スルヲ得ヘシ第二項ハ  
 承諾ナキキハ勿論假令承諾アルモ藥酒等ヲ用非テ姦淫シタルキハ  
 強姦ヲ以テ論スルナリ若シ睡眠シタルキニ乘シ姦スル如キハ其罪  
 ナ問ハストセンカ氣絶シタル者ヲ姦スルキモ亦之ヲ問フヲ得サル  
 ニ至ラノ例ヘハ十二歳以上ノ婦女ヲ略取セントシタルニ其婦女吃  
 驚氣絶シ又婦女強盜ニ脅迫セラレタルカ爲メ氣絶シタル(日本ノ婦  
 女ハ豪氣ナルカ爲メカ將タ感觸ノ薄キカ爲メカ吃驚氣絶スルカ如  
 キハ稀ナルト歐洲ノ婦女ハ往々此事アリ)ニ乘シ姦淫シタルキモ強

姦ヲ以テ論スルヲ得サルノ不都合ヲ生スルニ至ル可シ勿論此場合  
 ハ固ト暴行脅迫ノ所行アル爲メ婦女氣絶シタルモノニシテ此氣絶  
 ニ乘シテ姦スレハ即チ強姦ナルカ如シト雖モ其暴行脅迫ハ略取セ  
 ントシ又ハ財物ヲ得ントスルカ爲メニシテ姦スル爲メニ非サレハ  
 從テ姦淫ノ事ニ迄影響ヲ及ホストヲ得ス依テ斯ル場合ニ於テモ強  
 姦ヲ以テ論スル能ハサルニ至ラント此說一理アルカ如シト雖モ現  
 ハニ正文ニ抵觸スルヲ如何センヤ

サレハ本條第一項ハ暴行脅迫ヲ以テ姦シタル場合ノミヲ指スモノ  
 コシテ彼ノ睡眠中ニ姦スル如キハ含蓄スルヲナシ又第二項ハ承諾  
 ナキ時ハ勿論假令ヒ承諾アルモ強姦トナルモノナリ是レ余一己ノ  
 私見ニ非ス嘗テ之ヲ本法立案者ノ一人ニ質セシニ其答ニモ暴行脅  
 迫若クハ藥酒等ヲ用ヒタルニ非ス單ニ承諾ナキニ姦スル如キハ強



姦ト爲サ、ルノ主旨ナリト云ヘリ是レ承諾ナキニ姦スル者ヲ強姦トスレハ睡眠中姦セラル、ニ當リ之ヲ知リテ睡眠ヲ爲シ暗ニ承諾シ後ニ至リテ其強姦ヲ訴フル如キ弊ノ生センヲ防カン爲メ特ニ暴行脅迫又ハ藥酒ヲ以テ昏睡セシメタルキニ非サレハ強姦ト爲サストナセシナランカ  
 彼ノ娼妓ノ如キ賣淫者ニ對シ藥酒ヲ用ヒテ姦淫シタルキハ強姦トナルヤ如何是レ羅馬時代ヨリ大ニ議論アリテ古昔ハ此等ノ者ニ對シ強テ姦スルモ強姦罪トナラストセリ然レハ近代ハ此說ヲ取ラス何ントナレハ此等ノ者ト雖モ已レノ好ム所ノ人ト好マサル所ノ人トアルヘキヲ以テナリ  
 草案ニハ藥酒ノ字ヲ用ヒスシテ強姦スル目的ヲ以テ詐欺ノ方法ニ因リ姦淫シタル者云々トアリタリ此草案ノ文意ニ依レハ蓋シ遺漏

ナシト雖モ本條ノ如ク藥酒等ト制限ナセハ藥酒ニ類似シタル物ヲ用ヒタル場合ヲ除クノ外其他詐欺ノ方法ヲ以テ姦シタル如キハ罰スルヲ得ス例ヘハ「マゲチスム」マゲチスムトハ數多ノ人一人ヲ圖ミ大ニ呼騒シ其人ノ手等ヲ動かサシメテ神ヲ之ニ寄ラシメ以テ精神ヲ一時喪失セシムルヲナリ余輩ハ道理上斯ルノアルヘキヲ信セサレモ尙ホ之ヲ信スル人アリ恐クハ呼騒シ且ツ手等ヲ動かスニ因リ一時精神ヲ失フナランカノ時強姦シタル如キ是レナリ  
 夫婦間ニ於テハ強姦アリヤ否ヤニ村キ學者ノ喋々論スル所ナレモ夫ヨリ暴行脅迫ヲ用ユルモ強姦トナラス何ントナレハ是レ固ト結婚ノ目的ヲ達スルカ爲メナレハナリ又癡癪人ニ對シテハ如何論者曰ク癡癪人ハ精神錯亂セルモノナルヲ以テ藥酒等ヲ用ヒ人ヲ昏睡セシメ又ハ精神ヲ錯亂セシメテ姦淫シタルト一般強姦ヲ以テ論ス



ヘキモノナリト然レモ瘋癲人ト雖モ眞ノ承諾ナシト云フ能ハサル  
ヲ以テ直チニ強姦ト爲ステ得ス

猥褻罪ニハ既ニ述フル如ク未遂犯ナシト雖モ強姦ニハ未遂犯アリ  
即チ男女ノ交接器相接スルト否ヤトニ因テ已遂未遂ヲ區別ス可キ  
モノナリ強姦ノ証據ヲ擧グルハ最モ難事ニシテ古昔學者ノ説ニ因  
レバ凡ソ強姦ト認メ得ヘキ場合ハ數要件アリ

第一 其姦セラル、婦人ハ始終抵抗スルヲ要ス故ニ若シ初メハ  
抵抗スルモ終ニ之ヲ默許スルカ如キハ強姦ニアラス

第二 男女力量不同等ナルヲ要ス故ニ若シ女子ニシテ其力量男  
子ト同等ナルカ若クハ男ニ勝ルアラハ強姦ニハアラス

第三 人ノ助ケヲ乞ヒ得可キ例ヘハ人家ノ近傍ニ於テ爲シタ  
ル如キハ婦女ハ救援ヲ叫フヲ得可キモノナレハ若シ聲ヲ

發シテ救援ヲ乞ハサルモハ強姦ニ非ス

第四 暴行脅迫アルヲ要スルナリ

古昔ハ右四條件ヲ具備スル者ヲ以テ強姦ト爲セシト雖モ近世ハ此  
等ヲ以テ強姦ニ必用ノ條件ト爲サス然レモ裁判官タル者ハ宜シク  
注意ヲ加ヘ古學者ノ説ヲモ參考スヘシ何ントナレハ世上往々和姦  
ヲ強姦ト僞ハリ訴ヘ爲メニ無辜ヲ罰スルコトアレハナリ故ニ強姦罪  
ヲ審判スルニ當テハ最モ慎ミテ加ヘサルヘラカス

第三百四十九條 十一歳ニ滿サル幼女ヲ姦淫シタル  
者ハ輕懲役ニ處ス若シ強姦シタル者ハ重懲役ニ處  
ス

本條ハ婦女十二歳未滿ナルヲ以テ假令承諾アルモ輕懲役ニ處シ強

(第三百四十九條)



姦ナルキハ重懲役ニ處セリ

第三百五十條 前數條ニ記載シタル罪ハ被害者又ハ

其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

被害者又ハ親屬ノ告訴ヲ待ツテ其罪ヲ論スル所以ハ若シ檢察官ヨリ直チニ公訴スルコト得ルト爲スルハ暗地ノ事ヲ明地ニ出シ反テ其被害者ノ榮譽ヲ害シ遂ニハ婦女ノ嫁期ヲ誤ラシムルノ恐レアルニ因リ其之ヲ訴フルト否ヤトテ被害者又ハ親屬ノ隨意ニ任シタルモノナリ前回ニ論セシ如ク本條モ親屬トノミアルニ因リ尊屬卑屬ノ親ヲ含有スルカ如シ果シテ然ラハ母ニシテ強姦セラレ之ヲ秘密ニセント欲シ告訴ヲ棄權スルモ其子之ヲ告訴スルヲ得ヘキナリ豈奇怪ノコトナラスヤ故ニ本條ノ如キ必ス狹隘ニ解セサル可カラズ草按ニハ本條告訴ス可キ者ノ順序ハ先ツ被害者次ハ親屬次ハ法律上

ノ代人トアリシ而シテ法律上ノ代人トハ幼者ニ付テハ父若クハ母又ハ親屬後見人妻ニ付テハ夫白痴瘋癲人ニ付テハ保管人ナリ

第三百五十一條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シ因テ

人ヲ死傷ニ致シタル者ハ殴打創傷ノ各本條ニ照シ

重キニ從テ處斷ス但強姦ニ因テ癡篤疾ニ致シタル

者ハ有期徒刑ニ處シ死ニ致シタル者ハ無期徒刑ニ

處ス

本條別ニ講說スルヲ要セス

(第六十四回)

第三百五十二條 十六歳ニ滿サル男女ノ淫行ヲ勸誘

(第三百五十條)(第三百五十一條)(第三百五十二條)

五百八十三



シテ媒合シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

本條ハ風俗ヲ紊シ男女ノ將來ヲ誤ラシムルノ罪ナリ

本條ハ如何ナル所爲ヲ以テ淫行ヲ媒合セリトスルカ其區域ヲ定ムルコトナシ是レ尤モ定メ難キ所ナリ此罪ハ道德ニ關スル罪ナレハ裁判官ハ其道德ヲ害スル甚ダシク犯罪ヲ構造スルニ充分ナル時ニ非サレハ容易ニ媒合シタル者ト看做ス可カラス

男女互ニ淫行ヲ勸誘シタルカ如キハ罪トシ論セサルナリ法律ハ此場合ヲ罰セスシテ獨リ他人ノ爲メ媒合シタルキノミヲ罰スルハ何ソヤ是レ大ニ理由ノアルアリテ然ルナリ夫レ十六歳未滿ノ幼者ヲ勸誘シ淫行ヲ爲スカ如キハ道德ニ背クモノナレハ此情慾ナル人類ノ免レ難キモノニシテ又不得已ノ事ナリ然ルニ強テ法ヲ以テ之ヲ

罰スルトセハ其害ヲ反テ之ヲ罰セサルノ害ヨリ甚シキニ至ラン何ントナレハ勸誘シタルヤ否ヤヲ知ルニハ人ノ心裏ニ立入り之ヲ調フルモノナレハ大ニ其人ノ自由ヲ害スルニ至ルノミナラス到底之ヲ明知スル能ハスシテ動モスレハ無辜ヲ罰スルコトアレハナリ然ルニ他人ニ淫行ヲ勸誘スル如キハ其所業實ニ惡ムヘク而シテ自己ノ爲メニスルキハ一人ニ對スルノミナレハ他人ノ爲メニスルキハ幾數人ヲモ勸誘スルヲ得ヘキニ因リ社會ヲ害スルコト從テ大ナリ故ニ之ヲ罰スルナリ

他人ノ爲メ媒合ヲ爲ス者ハ凡テ之ヲ罰スヘキヤ是レ疑點ノ存スル所ナリ例ヘハ下婢其主人ノ娘子ニ他ノ男子ヲ媒合シタルキハ如何法文上ヨリ見ルキハ本條ヲ以テ論スル如クナレハ立法者ノ意ハ然ラサルカ如シ若シ之ヲ罰スルノ意トセハ立法者ハ前後矛盾ノ法ヲ